

盛南地区遺跡群発掘調査報告書Ⅳ

－盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡平成13～18年度発掘調査①－

台太郎遺跡

2012.9

独立行政法人 都市再生機構
盛岡市・盛岡市教育委員会

盛南地区遺跡群発掘調査報告書Ⅳ

－盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡平成13～18年度発掘調査①－

台太郎遺跡

2012.9

独立行政法人 都市再生機構
盛岡市・盛岡市教育委員会

序

盛岡市は、東北地方の東部を南北に縦断する北上川と、その支流である雫石川・中津川が合流する地点に中心市街地が形成され、北に雄大な岩手山と姫神山を望む、岩手県の県庁所在地です。その骨格は、約400年前に南部氏により築城された盛岡城を中心とした城下町であり、藩政そして県政の中心として、また交通の要衝として栄えてきました。

近年の盛岡市は、平成4年4月に南に隣接する都南村と、平成18年1月に北に隣接する玉山村と合併し、人口約30万人、面積約886平方キロメートルという北東北の拠点都市となるとともに、平成20年4月には中核市へ移行しました。

この中心市街地の南西部、雫石川の南に広がる田園地帯に職住近接の新市街地を形成しようというのが「盛南開発構想」で、全体計画の約7割にあたる313.5ヘクタールを整備するのが「盛岡南新都市開発整備事業」です。事業主体は独立行政法人都市再生機構（旧地域振興整備公団）で、平成3年12月に事業認可、土地区画整理事業の整備手法により平成7年11月より着工されています（愛称「ゆいとびあ盛南」）。

それに伴い、当該区域内に所在する埋蔵文化財包蔵地17遺跡、計約90ヘクタールのうち、整備事業によって消滅を余儀なくされる遺跡の発掘調査を、平成5年度から当市教育委員会と公益財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが行い、本年度が野外調査の最終年度となっており、発掘調査報告書作成を現在も継続しているところであります。

本報告書は、当市教育委員会が平成13年度から18年度に実施した発掘調査のうち、台太郎遺跡の調査成果について報告するものです。区画整理事業は現在も継続中ではありますが、市民の皆様をはじめ、各学校や教育機関・研究者等の方々に、当該地域の歴史を知るためにご活用いただければ幸いです。

最後になりましたが、発掘調査を実施するにあたり、多大なるご協力やご指導を賜りました都市再生機構岩手都市開発事務所ならびに岩手県教育委員会生涯学習文化課、公益財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターに対し深く感謝申し上げますと共に、発掘調査にご理解とご協力をいただきました地権者各位ならびに地元関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

平成24年9月

盛岡市教育委員会

教育長 千葉 仁一

例 言

1 本書は、岩手県盛岡市本宮・下妻妻・向中野・北飯岡・飯岡新田・南仙北に所在する盛南地区道路群において、「盛岡南新都市開発整備事業（通称：盛南開発）」及び関係事業に伴い平成13年度から18年度に実施した発掘調査の報告書である。なお、「盛南地区道路群」の名称については、事業区域内に所在する計17道路を包括する総称として使用し、本書ではそのうち台太郎道路の調査成果を報告する。

2 本書の編集及び刊行事務は盛岡市道路の学び館が行い、執筆作業を津嶋知弘が担当した。

3 遺構平面位置は、日本測地系 平面直角座標X系を座標変換した調査座標で表示した。

・調査座標軸は、日本測地系第X系に準じる

・調査座標原点

台太郎道路 X -35500000 Y +26500000 → RX = 0 RY = 0

4 高さは、標高値をそのまま使用した。

5 土層断面図は堆積のしかたを重視し、線の太さを使い分けた。層相の観察にあたっては「新版標準土色帖」（農林水産省農林水産技術会議事務局監修）を使用した。

層名の記号は次のとおりとした。

記 号	
遺構堆積土	A～I層
竪穴住居カマド崩壊土	J層
竪穴住居カマド構築土	K層
床構築土	L層
地形形成堆積土（遺物包含層含む）	I（ローマ数字）～層

6 遺構記号は次のとおりとした。

記 号			
竪穴住居跡	RA	溝跡	RG
建物跡	RB	配石・集石遺構	RH
柱列跡	RC	井戸跡	RI
土境	RD	土器埋設	RP
竪穴状遺構	RE	古墳・円形周溝ほか	RX
焼土遺構	RF	土坑墓ほか	RZ

7 遺構番号は、原理文センター調査遺構番号との整合を図り、以下のとおりとした。

本調査精査遺構：3桁または4桁の道路内連続番号（基本的に原理文センター調査遺構番号に連続、一部欠番あり）

- 8 遺構平面図の線種は次のとおりとした。

検出	実線 
推定	破線 
時期差	一点鎖点 

- 9 古代の壑穴住居跡のカマド方向は、カマド本体中心（炊き口）から煙道先端（煙出し）を結んだ線の方向の傾きとした。
- 10 古代の土器区分は、土師器・須恵器・あかやき土器に分類した。「あかやき土器」の名称は、ロクロ使用の酸化焼成土器（坏類、甕類、鉢）に使用し、ロクロ使用の内面黒色処理の坏類は「土師器」に分類した。
- 11 古代の土器の実測図作成については、坏類は口縁部残存 1/4 以上かつ底部まで残存するもの、甕類は口縁部残存 1/4 以上かつ底部以下まで残存するものを基本とし、必要に応じて破片実測も行った。また拓本は、須恵器甕類のタケキ目等器面調整が確認できるものとした。
- 13 発掘調査に伴う出土遺物及び諸記録は、盛岡市遺跡の学び館で保管している。
- 14 当該調査の一部については、現地説明会資料等により報告しているものもあるが、本書の記載内容をもって訂正する。

『盛岡南新都市開発整備事業』及び関係事業に係る発掘調査報告書（平成 24 年 9 月現在）

<公益財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター（本報告）>

- 1995 年 3 月『本宮熊堂 B 遺跡第 1 次発掘調査報告書-盛岡開発事業関連遺跡発掘調査-』第 225 集
- 1996 年 3 月『小幡遺跡第 2 次発掘調査報告書-盛岡南新都市開発整備事業-』第 244 集
- 1996 年 3 月『岩手県埋蔵文化財発掘調査略報（平成 7 年度）』第 246 集【小幡遺跡 6 次】
- 1996 年 11 月『小幡遺跡第 4 次発掘調査報告書-盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡発掘調査-』第 265 集
- 1997 年 3 月『岩手県埋蔵文化財発掘調査略報（平成 8 年度）』第 266 集【宮沢遺跡 4 次、本宮熊堂 A 遺跡 7 次】
- 1998 年 3 月『小幡遺跡第 5 次・第 7 次発掘調査報告書-盛岡西バイパス建設事業関連遺跡発掘調査-』第 267 集
- 1998 年 3 月『大宮北遺跡・本宮熊堂 A 遺跡発掘調査報告書-盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡発掘調査-』第 265 集【大宮北遺跡 4 次、本宮熊堂 A 遺跡 6 次】
- 1998 年 3 月『岩手県埋蔵文化財発掘調査略報（平成 9 年度）』第 282 集【稲荷遺跡 3 次、野古 A 遺跡 9 次・10 次】
- 1999 年 3 月『熊堂 B 遺跡第 5 次・台太郎遺跡第 16 次発掘調査報告書-盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡発掘調査-』第 293 集
- 1999 年 1 月『本宮熊堂 B 遺跡第 4 次・鬼脚 A 遺跡第 4 次発掘調査報告書-盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡発掘調査-』第 308 集
- 1999 年 3 月『台太郎遺跡第 15 次発掘調査報告書-盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡発掘調査-』第 309 集
- 1999 年 3 月『岩手県埋蔵文化財発掘調査略報（平成 10 年度）』第 311 集【飯岡才川遺跡 2 次】
- 2000 年 1 月『向中野館遺跡第 3 次・小幡遺跡第 10 次発掘調査報告書-盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡発掘調査-』第 388 集
- 2000 年 3 月『向中野館遺跡第 4 次・小幡遺跡第 11 次・台太郎遺跡第 19 次発掘調査報告書-盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡発掘調査-』第 321 集
- 2000 年 3 月『岩手県埋蔵文化財発掘調査略報（平成 11 年度）』第 340 集【小幡遺跡 13 次・14 次】
- 2001 年 3 月『台太郎遺跡第 22 次発掘調査報告書-盛岡東警察署警察官待機宿舎建設事業関連遺跡発掘調査-』第 365 集
- 2001 年 3 月『台太郎遺跡第 18 次発掘調査報告書-盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡発掘調査-』第 369 集
- 2001 年 3 月『台太郎遺跡第 26 次発掘調査報告書-盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡発掘調査-』第 416 集
- 2002 年 3 月『岩手県埋蔵文化財発掘調査略報（平成 12 年度）』第 370 集【鬼脚 A 遺跡 7 次、本宮熊堂 B 遺跡 9 次・11 次、小幡遺跡 15 次・16 次、飯岡才川遺跡 4 次】

- 2002年2月『熊堂B遺跡第10次発掘調査報告書-盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡発掘調査-』第377集
- 2002年3月『飯岡才川遺跡第3次発掘調査報告書-盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡発掘調査-』第393集
- 2002年3月『岩手県埋蔵文化財発掘調査略報(平成13年度)』第397集(台太郎遺跡36次、細谷地遺跡6次)
- 2003年3月『台太郎遺跡第23次発掘調査報告書-盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡発掘調査-』第415集
- 2003年3月『台太郎遺跡第35次発掘調査報告書-盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡発掘調査-』第417集
- 2003年3月『台太郎遺跡第44次発掘調査報告書-盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡発掘調査-』第422集
- 2003年3月『細谷地遺跡発掘調査報告書-第4・5次調査-盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡発掘調査-』第414集
- 2003年3月『飯岡沢田遺跡第3次発掘調査報告書-盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡発掘調査-』第418集
- 2003年3月『飯岡沢田遺跡第5次発掘調査報告書-盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡発掘調査-』第419集
- 2003年3月『野古A遺跡第12次発掘調査報告書-盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡発掘調査-』第420集
- 2003年3月『野古A遺跡第15次発掘調査報告書-盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡発掘調査-』第421集
- 2003年3月『岩手県埋蔵文化財発掘調査略報(平成14年度)』第423集(矢盛遺跡4次、稲荷遺跡5次)
- 2004年2月『矢盛遺跡第3次-熊堂B遺跡発掘調査報告書-盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡発掘調査-』第451集
- 2004年3月『本宮熊堂A遺跡第17次発掘調査報告書-盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡発掘調査-』第453集
- 2004年3月『細谷地遺跡第8次発掘調査報告書-盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡発掘調査-』第454集
- 2004年3月『岩手県埋蔵文化財発掘調査略報(平成15年度)』第455集(稲荷遺跡6次、本宮熊堂B遺跡19次、台太郎50次・52次、野古A遺跡19次・20次、飯岡才川遺跡5次・6次、細谷地遺跡7次)
- 2004年12月『本宮熊堂B遺跡第13・15・20次発掘調査報告書-盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡発掘調査-』第467集
- 2005年2月『本宮熊堂B遺跡第18次発掘調査報告書-国道46号盛岡西バイパス建設事業関連遺跡発掘調査-』第458集
- 2005年2月『台太郎遺跡第51次発掘調査報告書-盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡発掘調査-』第468集
- 2005年3月『岩手県埋蔵文化財発掘調査略報(平成16年度)』第469集(稲荷遺跡8・9次、台太郎遺跡53次、矢盛遺跡5次)
- 2005年12月『矢盛遺跡第6次発掘調査報告書-盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡発掘調査-』第488集
- 2006年2月『飯岡沢田遺跡第9・10次発掘調査報告書-盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡発掘調査-』第489集
- 2006年2月『本宮熊堂A遺跡第24次、本宮熊堂B遺跡第25次発掘調査報告書-一般国道46号盛岡西バイパス建設事業関連遺跡発掘調査-』第470集
- 2006年3月『台太郎遺跡第54次発掘調査報告書-盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡発掘調査-』第486集
- 2006年3月『本宮熊堂B遺跡第27次発掘調査報告書-盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡発掘調査-』第487集
- 2006年3月『平成17年度発掘調査報告書』第490集(宮沢遺跡11次、本宮熊堂B遺跡30次・31次)
- 2007年2月『飯岡才川遺跡第8・9次発掘調査報告書-盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡発掘調査-』第494集
- 2007年3月『細谷地遺跡第9次、第10次発掘調査報告書-盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡発掘調査-』第500集
- 2007年2月『野古A遺跡第23・24・29次発掘調査報告書-盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡発掘調査-』第501集
- 2007年3月『本宮熊堂A遺跡第26・29次発掘調査報告書-盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡発掘調査-』第502集
- 2007年3月『向中野館遺跡第5・6次発掘調査報告書-盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡発掘調査-』第503集
- 2007年2月『向中野館遺跡第7・8次発掘調査報告書-盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡発掘調査-』第504集
- 2008年1月『飯岡才川遺跡第12次発掘調査報告書-盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡発掘調査-』第515集
- 2008年1月『矢盛遺跡第10・11次、向中野館遺跡第9次、台太郎遺跡第58次発掘調査報告書-盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡発掘調査-』第516集
- 2008年2月『飯岡才川遺跡第7・13次、細谷地遺跡第12次、矢盛遺跡第9次発掘調査報告書-一般国道46号盛岡西バイパス建設事業関連遺跡発掘調査-』第508集
- 2008年2月『細谷地遺跡第13次、第14次発掘調査報告書-盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡発掘調査-』第513集

- 2008年2月『細谷地遺跡第15次発掘調査報告書-盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡発掘調査-』第514集
- 2008年3月『平成19年度発掘調査報告書』第524集〔細谷地遺跡18次、矢盛遺跡14次〕
- 2009年2月『矢盛遺跡第12・13次発掘調査報告書-盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡発掘調査-』第534集
- 2009年2月『細谷地遺跡第16・17次発掘調査報告書-盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡発掘調査-』第535集
- 2009年3月『平成20年度発掘調査報告書』第546集〔飯岡才川遺跡15次、矢盛遺跡20次、焼野遺跡1・2次〕
- 2009年12月『矢盛遺跡第18・19次発掘調査報告書-盛岡南新都市土地地区画整理事業関連遺跡発掘調査-』第555集
- 2010年2月『細谷地遺跡第19・20次発掘調査報告書-盛岡南新都市土地地区画整理事業関連遺跡発掘調査-』第556集
- 2010年3月『細谷地遺跡第10・11次発掘調査報告書-盛岡南新都市土地地区画整理事業関連遺跡発掘調査-』第557集
- 2010年3月『平成21年度発掘調査報告書』第571集〔矢盛遺跡25・26次〕
- 2011年3月『細谷地遺跡第24・25次、向中野館遺跡第12・13次発掘調査報告書-盛岡南新都市土地地区画整理事業関連遺跡発掘調査-』第577集
- 2011年2月『矢盛遺跡第23・24次発掘調査報告書-盛岡南新都市土地地区画整理事業関連遺跡発掘調査-』第578集
- 2011年3月『台太郎遺跡第66次発掘調査報告書-盛岡南新都市土地地区画整理事業関連遺跡発掘調査-』第579集
- 2011年2月『飯岡才川遺跡第16次発掘調査報告書-盛岡南新都市土地地区画整理事業関連遺跡発掘調査-』第580集
- 2012年3月『矢盛遺跡第27次、野古A遺跡第30次発掘調査報告書-盛岡南新都市土地地区画整理事業関連遺跡発掘調査-』第594集
- 2012年3月『細谷地遺跡第26次発掘調査報告書-盛岡南新都市土地地区画整理事業関連遺跡発掘調査-』第596集
- 2012年3月『平成23年度発掘調査報告書』第603集〔矢盛遺跡29次〕

<盛岡市教育委員会>

- 1998年3月『盛岡市埋蔵文化財調査年報・平成5・6年度』〔南仙北遺跡12・13・14次〕
- 2002年3月『盛岡市内遺跡群・平成13年度発掘調査報告書』〔台太郎遺跡40・41次〕
- 2005年3月『盛岡市内遺跡群・平成15年度・16年度発掘調査報告書』〔台太郎遺跡55次〕
- 2007年3月『盛南地区遺跡群発掘調査報告書Ⅰ-盛岡南新都市開発整備事業平成5～12年度発掘調査①-大宮北遺跡・小幡遺跡・宮沢遺跡・鬼柳A遺跡〕〔大宮北遺跡8・9次、小幡遺跡8・12・17次、宮沢遺跡5次、鬼柳A遺跡5次〕
- 2009年3月『盛南地区遺跡群発掘調査報告書Ⅱ-盛岡南新都市開発整備事業平成5～12年度発掘調査②-稲荷遺跡・本宮熊堂A遺跡・本宮熊堂B遺跡・野古A遺跡・飯岡沢田遺跡・飯岡才川遺跡・向中野館遺跡・細谷地遺跡・矢盛遺跡・南仙北遺跡〕〔稲荷遺跡1・1次補足、本宮熊堂A遺跡2・2次補足、本宮熊堂B遺跡3・3次補足・8・11次、飯岡沢田遺跡1・2次、飯岡才川遺跡1次、向中野館遺跡第1・2次、細谷地遺跡2次、矢盛遺跡2次、南仙北遺跡15～17・22～24・27・28・30～32・35次〕
- 2010年11月『盛南地区遺跡群発掘調査報告書Ⅲ-盛岡南新都市開発整備事業平成5～12年度発掘調査③-台太郎遺跡〕〔台太郎遺跡9～14・17・20・21・24・25・27～34次〕
- 2012年5月『台太郎遺跡-「フローラルバニユー向中野」宅地造成に伴う緊急発掘調査報告書』〔台太郎遺跡73次〕

目次

第1章 経過

第1節 調査の経過	1
第2節 発掘調査作業の経過	2
第3節 資料整理作業の経過	2
第4節 調査体制	4

第2章 遺跡群の位置と環境

第1節 地理的環境	6
第2節 歴史的環境	8

第3章 調査成果

第1節 遺跡の立地	9
第2節 調査内容	15
(1) 第37次調査(平成13年度)	15
(2) 第38次調査(平成13年度)	16
(3) 第39次調査(平成13年度)	17
(4) 第42次調査(平成13年度)	27
(5) 第43次・43次補足調査 (平成13・14年度)	28
(6) 第45次調査(平成14年度)	29
(7) 第46次調査(平成14年度)	48
(8) 第47次調査(平成14年度)	49
(9) 第48次調査(平成14年度)	50
(10) 第49次調査(平成14年度)	50
(11) 第56次調査(平成17年度)	50
(12) 第57次調査(平成17年度)	50

第4章 総括

1. 調査のまとめ	58
-----------	----

表

図

写真図版

抄録

表 目 次

挿表1	台太郎遺跡調査一覧表(平成13～18年度) …	3
第1表	第39次調査ビット計測表 ……	65
第2表	第45次調査ビット計測表(1) ……	66
第3表	第45次調査ビット計測表(2) ……	67
第4表	第45次調査ビット計測表 ……	68
第5表	第37次調査出土土器観察表 ……	69
第5表	第39次調査出土土器観察表(1) ……	69
第7表	第39次調査出土土器観察表(2) ……	70
第8表	第39次調査出土遺物観察表 ……	70
第9表	第42次調査出土土器観察表 ……	70

第10表	第45次調査出土土器観察表(1) ……	71
第11表	第45次調査出土土器観察表(2) ……	72
第12表	第45次調査出土遺物観察表 ……	73
第13表	第46次調査出土土器観察表 ……	73
第14表	第46次調査出土遺物観察表 ……	73
第15表	第57次調査出土土器観察表 ……	74
第16表	第57次調査出土土器観察表 ……	74
第17表	第39次調査出土陶磁器観察表 ……	75
第18表	第45・46・57次調査出土古銭観察表 ……	75
第19表	竪穴住居跡一覧表 ……	76

図 目 次

挿図1	盛南地区遺跡群位置図 ……	7
挿図2	台太郎遺跡位置図 ……	10
挿図3	台太郎遺跡全体図 ……	11
第1図	第37次調査区全体図 ……	79
第2図	第37次調査 RA523 竪穴住居跡 ……	80
第3図	第37次調査 RD959～963 土坑, RG403・404 溝跡 ……	81
第4図	第39次調査区全体図 ……	82
第5図	第39次調査 RA524・527 竪穴住居跡 ……	83
第6図	第39次調査 RA525 竪穴住居跡 ……	84
第7図	第39次調査 RA526 竪穴住居跡 ……	85
第8図	第39次調査 RA528 竪穴住居跡 ……	86
第9図	第39次調査 RA529・531・533 竪穴住居跡, SF062 焼土遺構 ……	87
第10図	第39次調査 RA530・532 竪穴住居跡 ……	88
第11図	第39次調査 RA534 竪穴住居跡 ……	89
第12図	第39次調査 RA535 竪穴住居跡 ……	90

第13図	第39次調査 RB043 掘立柱建物跡 ……	91
第14図	第39次調査 RD964・970 土坑, RG042・410・ 411・421・422 溝跡, ビット ……	92
第15図	第39次調査 RD966・967・968 土坑, RG042・ 408・409・410・414・415・416・417・418・ 420・423 溝跡, ビット ……	93
第16図	第39次調査 RD972 土坑, RG042・405・406・ 415・419・420・423・424 溝跡, ビット ……	94
第17図	第39次調査 RG042・423 溝跡, ビット ……	95
第18図	第39次調査 RD971・973 土坑, RG042・423 溝跡, ビット ……	96
第19図	第39次調査 RD965・969・972 土坑, RG407・ 412・413・424 溝跡, ビット ……	97
第20図	第39次調査土坑・溝跡断面図 ……	98
第21図	第39次調査ビット断面図 ……	99
第22図	第42次調査区全体図 ……	100
第23図	第45次調査区全体図 ……	101

第24回	第45次調査区西半部全体	102
第25回	第45次調査区東半部全体	103
第26回	第45次調査 RA565a・b・c 竪穴住居跡 (1)	104
第27回	第45次調査 RA565a・b・c 竪穴住居跡 (2)	105
第28回	第45次調査 RA565d 竪穴住居跡	106
第29回	第45次調査 RA566 竪穴住居跡	107
第30回	第45次調査 RA567 竪穴住居跡	108
第31回	第45次調査 RA568 竪穴住居跡	109
第32回	第45次調査 RA569a・b 竪穴住居跡	110
第33回	第45次調査 RA570a・b 竪穴住居跡	111
第34回	第45次調査 RA571 竪穴住居跡	112
第35回	第45次調査 RA572 竪穴住居跡	113
第36回	第45次調査 RA573・574・577 竪穴住居跡	114
第37回	第45次調査 RA575 竪穴住居跡	115
第38回	第45次調査 RA576 竪穴住居跡	116
第39回	第45次調査 RB049 掘立柱建物跡・ RC003 柱列跡	117
第40回	第45次調査 RB050・051 掘立柱建物跡	118
第41回	第45次調査 RB052・053 掘立柱建物跡	119
第42回	第45次調査 RE057・059 竪穴状遺構	120
第43回	第45次調査 RE058 竪穴状遺構	121
第44回	第45次調査 RE060 竪穴状遺構	122
第45回	第45次調査 RD1079・1080・1081・1098・ 1099 土坑, RG042・467・468 溝跡, ビット	123
第46回	第45次調査 RD1077・1078・1084・1085・ 1100・1104・1105・1107・1111・1113 土坑, RG424W・467・469・470・472・475・476・ 477 溝跡, ビット	124
第47回	第45次調査 RD1086・1101・1114 土坑, RG471・472 土坑, ビット	125
第48回	第45次調査 RD1087・1088・1093・1095・ 1106・1108・1109・1110 土坑, RG473 溝跡, ビット	126
第49回	第45次調査 RG424W 溝跡, ビット	127
第50回	第45次調査 RD1089・1090・1091・1092・ 1094・1096・1097・1102・1103・1112 土坑, RG474 溝跡, ビット	128
第51回	第45次調査土坑・溝跡断面図	129
第52回	第45次調査溝跡・ビット断面図	130
第53回	第45次調査ビット断面図	131

第54回	第46次調査区全体図	132
第55回	第46次調査 RA578 竪穴住居跡	133
第56回	第46次調査 RA579 竪穴住居跡	134
第57回	第56次調査区全体図・RD2004 土坑	135
第58回	第57次調査区全体図	136
第59回	第57次調査 RA614・618 竪穴住居跡	137
第60回	第57次調査 RA615 竪穴住居跡	138
第61回	第57次調査 RA616 竪穴住居跡	139
第62回	第57次調査 RA617 竪穴住居跡	140
第63回	第57次調査 RA619 竪穴住居跡	141
第64回	第57次調査 RB054・055 掘立柱建物跡	142
第65回	第57次調査 RD2005～2010 土坑	143
第66回	第57次調査 RG520・521 溝跡	144
第67回	第57次調査 RG520～524 溝跡	145
第68回	第57次調査ビット (1)	146
第69回	第57次調査ビット (2)	147
第70回	第37次調査 RA523 出土土器	148
第71回	第39次調査 RA525 出土土器	149
第72回	第39次調査 RA528 出土土器 (1)	150
第73回	第39次調査 RA528 出土土器 (2)	151
第74回	第39次調査 RA535 出土土器	152
第75回	第39次調査 RA534 出土土器 (1)	153
第76回	第39次調査 RA534 出土土器 (2)	154
第77回	第39次調査 RD971・RG042 出土土器	154
第78回	第39次調査 RA524・526・529・533 出土土器	155
第79回	第39次調査出土土製品	155
第80回	第39次調査出土土製品	156
第81回	第42次調査 RG440・441 出土土器	157
第82回	第45次調査 RA565 出土土器 (1)	158
第83回	第45次調査 RA565 出土土器 (2)	159
第84回	第45次調査 RA565 出土土器 (3)	160
第85回	第45次調査 RA565 出土土器 (4)	161
第86回	第45次調査 RA565 出土土器 (5)	162
第87回	第45次調査 RA565 出土土器 (6)	163
第88回	第45次調査 RA566・567 出土土器	164
第89回	第45次調査 RA569・570 出土土器	165
第90回	第45次調査 RA571・572 出土土器	166
第91回	第45次調査 RA573・575 出土土器	167
第92回	第45次調査 RD1077・1086・1089・1092・ 1094・1108, RG424・468・471 出土土器	168

第 93 図	第 45 次調査出土土製品・鉄製品	169
第 94 図	第 46 次調査 RA578 出土土器	170
第 95 図	第 46 次調査 RA578・579 出土土器	171
第 96 図	第 46 次調査出土土製品・鉄製品	171
第 97 図	第 57 次調査 RA614・615・616・619 出土土器	172
第 98 図	第 57 次調査 RA617 出土土器	173

第 99 図	第 57 次調査 RD2006・2008・2009 出土土器	174
第 100 図	第 57 次調査出土土製品・石製品	174
第 101 図	第 39 次調査出土陶磁器	175
第 102 図	第 39 次調査出土陶器	176
第 103 図	第 45 次調査出土古銭	177
第 104 図	第 46 次調査出土古銭	177
第 105 図	第 57 次調査出土古銭	177

写真図版目次

第 1 図版	盛南開発地区航空写真（北から）	181
第 2 図版	台太郎遺跡第 37 次調査 調査区北西部全景（南西から） 調査区南東部全景（西から） RA523 竪穴住居跡（南東から）	182
第 3 図版	台太郎遺跡第 39 次調査（1） 調査区全景（北から） 調査区全景（垂直）	183
第 4 図版	台太郎遺跡第 39 次調査（2） RA524 竪穴住居跡（東から） RA525 竪穴住居跡（北西から） RA525 竪穴住居跡カマド付近（西から）	184
第 5 図版	台太郎遺跡第 39 次調査（3） RA526 竪穴住居跡（北東から） RA528 竪穴住居跡（西から） RA528 竪穴住居跡遺物出土状況（西から）	185
第 6 図版	台太郎遺跡第 39 次調査（4） RA529 竪穴住居跡（西から） RA529 竪穴住居跡遺物出土状況（南から） RA530 竪穴住居跡（南東から）	186
第 7 図版	台太郎遺跡第 39 次調査（5） RA534 竪穴住居跡（南東から） RA534 竪穴住居跡遺物出土状況（南から） RA535 竪穴住居跡（東から）	187
第 8 図版	台太郎遺跡第 39 次調査（6） RG042E 堀跡（東から） RG042E 溝跡断面（西から） RG042W 溝跡断面（南から）	188

第 9 図版	台太郎遺跡第 42 次調査 調査区全景（東から） RA546 竪穴住居跡焼土・貯蔵穴（北西から） RG440 溝跡・RD983 土坑（南から）	189
第 10 図版	台太郎遺跡第 45 次調査（1） 調査区全景（南から） 調査区全景（垂直）	190
第 11 図版	台太郎遺跡第 45 次調査（2） RA565 竪穴住居跡（南から） RA565a 竪穴住居跡カマド付近（南東から） RA565 竪穴住居跡床構築土内遺物出土状況	191
第 12 図版	台太郎遺跡第 45 次調査（3） RA566 竪穴住居跡（南東から） RA567 竪穴住居跡（東から） RA568 竪穴住居跡（東から）	192
第 13 図版	台太郎遺跡第 45 次調査（4） RA569 竪穴住居跡（北から） RA570 竪穴住居跡（南から） RA571 竪穴住居跡（西から）	193
第 14 図版	台太郎遺跡第 45 次調査（5） RA572 竪穴住居跡（南から） RA573 竪穴住居跡（南西から） RA573 竪穴住居跡遺物出土状況（南西から）	194
第 15 図版	台太郎遺跡第 45 次調査（6） RA574 竪穴住居跡（南から） RA575 竪穴住居跡（南から） RA576 竪穴住居跡（南西から）	195

第 16 図版	台太郎遺跡第 45 次調査 (7)……………	196
	RE060 竪穴状遺構 (東から)	
	RB049 掘立柱建物跡 (東から)	
	RB052 掘立柱建物跡 (北から)	
第 17 図版	台太郎遺跡第 45 次調査 (8)……………	197
	RG042 堀跡 (南から)	
	RG042 堀跡断面 (北から)	
	RA424W 堀跡 (北から)	
第 18 図版	台太郎遺跡第 45 次調査 (9)……………	198
	RG424W 堀跡断面 (北から)	
	RG424E 堀跡 (西から)	
	RG424E 堀跡断面 (西から)	
第 19 図版	台太郎遺跡第 46 次調査……………	199
	調査区全景 (北西から)	
	RA578 竪穴住居跡 (南東から)	
	RA579 竪穴住居跡 (北西から)	
第 20 図版	台太郎遺跡第 56 次調査……………	200
	調査区全景 (南から)	
	RD2004 土坑 (西から)	
	RD2004 土坑断面 (南から)	
第 21 図版	台太郎遺跡第 57 次調査 (1)……………	201
	調査区全景 (南から)	
	調査区全景 (北から)	
第 22 図版	台太郎遺跡第 57 次調査 (2)……………	202
	RA614 竪穴住居跡 (北東から)	
	RA615 竪穴住居跡 (南から)	
	RA617 竪穴住居跡 (東から)	
第 23 図版	台太郎遺跡第 57 次調査 (3)……………	203
	RA619 竪穴住居跡 (西から)	
	RD2009 土坑 (北西から)	
	RD2009 土坑袋状ビット	
第 24 図版	台太郎遺跡第 57 次調査 (4)……………	204
	RB054 掘立柱建物跡 (北から)	
	RB055 掘立柱建物跡 (東から)	

第 25 図版	台太郎遺跡第 39 次調査出土土器 (1)……	205
第 26 図版	台太郎遺跡第 39 次調査出土土器 (2)……	206
第 27 図版	台太郎遺跡第 39 次調査出土土器 (3)……	207
第 28 図版	台太郎遺跡第 39 次調査出土土器 (4)……	208
第 29 図版	台太郎遺跡第 39 次調査出土土器 (5)……	209
第 30 図版	台太郎遺跡第 42 次調査出土土器……………	210
第 31 図版	台太郎遺跡第 45 次調査出土土器 (1)……	211
第 32 図版	台太郎遺跡第 45 次調査出土土器 (2)……	212
第 33 図版	台太郎遺跡第 45 次調査出土土器 (3)……	213
第 34 図版	台太郎遺跡第 45 次調査出土土器 (4)……	214
第 35 図版	台太郎遺跡第 46 次調査出土土器 (1)……	215
第 36 図版	台太郎遺跡第 46 次調査出土土器 (2)……	216
第 37 図版	台太郎遺跡第 57 次調査出土土器……………	217
第 38 図版	台太郎遺跡出土厨書土器・墨書土器 ……	218
第 39 図版	台太郎遺跡出土土製品・石製品・鉄製品	219
第 40 図版	台太郎遺跡出土陶磁器……………	220
第 41 図版	台太郎遺跡出土古銭……………	221

第1章 経過

第1節 調査の経過

「盛岡南新都市開発整備事業」は、北東北の中核都市および岩手県の県都として担うべき都市機能の充実を図るため、旧城下町から発展して形成された既存の中心市街地南西部に新市街地を開発整備し、既成市街地・盛岡駅西口地区（旧国鉄跡地）・盛岡南地区を結ぶ「軸状都心」を形成することで、都市構造をよりよく改めようとする策定された土地区画整理事業である。

平成2年9月に岩手県・盛岡市・都南村（現盛岡市、平成4年4月合併）の3者が、地域振興整備公団（以下「公団」と呼ぶ、現独立行政法人都市再生機構）に対して事業申請を行い、公団は実施計画を作成、翌平成3年12月に当時の建設大臣および国土庁長官から実施許可が下り、事業が開始された。

埋蔵文化財の取り扱いについては、昭和50年の国土庁長官・建設省からの行政指導に則して、公団と岩手県・盛岡市・都南村は「覚書」、およびその「確認書」において以下のように文書を取り交わしている。

「盛岡南新都市開発整備事業に関する覚書」（平成3年12月11日） 記の7（3）

県、市及び村は、環境の保全及び文化財の保護につき、協力して所要の調整を行い、事業の推進を図るものとする。

「盛岡南新都市開発整備事業に関する覚書の確認書」（平成3年12月11日） 記の5

「覚書」の記の7の（3）の文化財保護における埋蔵文化財発掘調査について、国庫補助事業及び公共施設管理者負担金の対象となる都市計画道路に係る敷地の調査については、公団が県、市及び村に委託するものとし、その他の敷地については市及び村において調査するものとする。

このため、県、市及び村は、土地区画整理事業の認可までに、公団からの委託分を含めた埋蔵文化財発掘調査計画を立案し、これを県、市、村及び公団で確認の上、他機関への委託を含めた調査の実施に必要な体制を確保することにより、事業の円滑な推進を図るものとする。

なお、事業のスケジュールが調査実施者の都合により遅延した場合には、県、市及び村は、適切な方策を講ずるものとする。

上記に基づく協議の結果、遺跡の要調査範囲を確定する試掘確認調査を市教育委員会が実施し、その結果を受けての本調査を市、村及び公団から委託を受けて財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター（以下「県埋文センター」と呼ぶ）が実施することとなった。

しかし、本調査対象面積が広大であることから、平成10年度以降は市教育委員会も本調査の実施を開始。平成11年度以降は市教育委員会も公団と受委託契約を締結し、県埋文センターと市教育委員会の両者が調整を図りながら本調査を実施することで、現在に至っている。

第2節 発掘調査作業の経過

盛岡南新都市開発整備事業にともなう埋蔵文化財の発掘調査は、平成5年度から継続して実施されている。土地区画整理事業の工事計画や進捗にあわせて、埋蔵文化財包蔵地の範囲確認や遺構密度を確認するための試掘確認調査を実施し、その成果を受けて効率的な本調査が実施できるよう調整を行っている。しかし、地権者との交渉や農地補償等の問題から、埋蔵文化財包蔵地範囲の全域について、試掘確認調査を実施することは現実的に不可能であり、状況に即した対応を行っている。

本書で報告の対象としている台太郎遺跡の平成13～18年度の調査成果の概要は、挿表1のとおりである。

第3節 資料整理作業の経過

当市教育委員会が、本事業の本調査を始めたのは、平成10年度からである。また平成11年度からは公団と発掘調査の受委託契約を締結し、公団施工範囲（都市計画道路路分）の本調査も実施してきた。この際は、予算措置の問題や職員体制が十分でないことを考慮して、年度ごとの発掘調査報告書の刊行は断念することとし、報告書刊行は事業の進捗を見ながら順次まとめて行うものとし、年度内はその基礎となる資料整理作業のみを行っていた。

平成12年12月24日未明、市立厨川小学校敷地内にあった文化財調査室にて火災が発生し、昭和30年建設の老朽化した木造2階建ての旧校舎は全焼した。市教育委員会では昭和57年度から文化財調査室として埋蔵文化財の資料整理・収蔵保管の拠点として使用してきた場所である。当然、本事業の発掘調査成果（図面・写真・出土資料の一部）も収蔵されており、罹災により調査成果の完全復元はきわめて難しい状況となった。市教育委員会は、文化庁の指導及び補助事業の採択を受け、埋蔵文化財の調査研究・収蔵管理・普及活用を目的として、新たな拠点となる埋蔵文化財センターとして、博物館施設が集積する本宮地区の盛岡市中央公園内に「盛岡市遺跡の学び館」を建設、平成16年6月に開館した。その間も、本事業にともなう発掘調査と資料整理作業、および罹災資料の復元作業を継続して行い、現在に至っている。

本事業関連遺跡発掘調査報告書を刊行するにあたり、以下の指針をもって実施することとしている。

- ①平成5～12年度の発掘調査に係る罹災資料について、速やかに再整理と報告書刊行を行う。
- ②平成5～12年度発掘調査報告書は、膨大な量の資料が罹災したこともあり、1冊の報告書として報告することは現実的に困難なため、敷遺跡ごとに分冊刊行することで年次計画を立て優先的に報告する。
- ③平成13年度以降事業終了年度までの調査成果は、上記報告書刊行の進捗状況を見ながら、敷遺跡または数年ずつをまとめて分冊とし、報告する。

上記のうち、指針①②については平成22年度までに計3分冊として刊行を完了している。本報告書は、指針③に基づく通算4分冊目（平成13～18年度調査2分冊のうち1分冊目）の報告書である。

挿表1 台太郎遺跡発掘調査一覧表〔平成13～18年度〕

遺跡名	番号	次数	年度	調査方法	所在地	面積 (㎡)	調査期間	遺構・遺物	調査理由	調査主体	報告書
台太郎	OOT	35	H13	本調査	向中野字向中野 37-2 地	4,394	2001.4.17～ 2001.8.2	奈良時代整穴住居跡 5、平安時代整穴住居跡 10、古代土坑 4、溝跡 11、竪穴 1	土地区画整理 (臨海開発)	奈良文	編 417 集
		36	H13	本調査	向中野字向中野 37-3 地	290	2001.5.22～ 2001.6.5	ビツト 4	土地区画整理 (臨海開発)	奈良文	編 397 集
		37	H13	本調査	向中野字向中野 20-1 地	872	2001.5.28～ 2001.6.22	奈良時代整穴住居跡 1、古代以降土坑 5、溝跡 2	土地区画整理 (臨海開発)	市教委	本書
		38	H13	本調査	向中野字向中野 15-2,3,4	300	2001.6.1～ 2001.6.15	なし	土地区画整理 (臨海開発)	市教委	本書
		39	H13	本調査	向中野字向中野 20-1 地	1,302	2001.8.1～ 2001.11.2	奈良、平安時代整穴住居跡 12、土坑 10、溝跡 10、築土溝 1、中世以降柱建物跡 1、竪穴 2、近世以降溝跡 1	土地区画整理 (臨海開発)	市教委	本書
		40	H13	本調査	向中野字八日市場 41-2	300	2001.8.1～ 2001.9.19	平安時代整穴住居跡 3、古代土坑 2、溝跡 10、近世以降整穴 1、土坑 2、ビツト	個人住宅新築	市教委	H13 遺跡群
		41	H13	本調査	向中野字八日市場 45-9	220	2001.8.2～ 2001.9.19	奈良時代整穴住居跡 4、平安時代整穴住居跡 2、古代土坑 3、溝跡 5、ビツト	個人住宅新築	市教委	H13 遺跡群
		42	H13	本調査	向中野字八日市場 28-4	123	2001.11.26～ 2001.12.12	平安時代整穴住居跡 1、土坑 2、溝跡 2	土地区画整理 (臨海開発)	市教委	本書
		43	H13	本調査	向中野字向中野 22 地	112	2001.11.26～ 2001.12.12	なし	土地区画整理 (臨海開発)	市教委	本書
		44	H14	本調査	向中野字八日市場 41-1	2,907	2002.4.9～ 2002.8.5	古墳時代末～奈良時代整穴住居跡 11、竪穴 1、土坑 7、平安時代整穴住居跡 9、築土柱建物跡 2、土坑 4、溝跡 20、中世以降築土柱建物跡 3、土坑 26、堀跡 1、溝跡 3、築土 2、竪穴 1、ビツト	土地区画整理 (臨海開発)	奈良文	編 422 集
		43補	H14	本調査	向中野字向中野 22 地	42	2002.4.22	なし	土地区画整理 (臨海開発)	市教委	本書
		45	H14	本調査	向中野字八日市場 30-2,31-1	1,618	2002.5.7～ 2002.8.9	平安時代整穴住居跡 13、古代整穴柱建物跡 4、古代以降土坑 36、溝跡 11、中世以降 2、竪穴柱建物跡 5、築土柱建物跡 1	土地区画整理 (臨海開発)	市教委	本書
		46	H14	本調査	向中野字向中野 35-2 地	334	2002.10.11～ 2002.11.12	奈良時代整穴住居跡 2	土地区画整理 (臨海開発)	市教委	本書
		47	H14	試掘確認	向中野 2 丁目 1-7	184 (対象 842)	2002.11.6	なし	アパート新築	市教委	本書
		48	H14	試掘保存	向中野 2 丁目 5-8-9	326 (対象 2,068)	2002.11.21～ 2002.11.22	古代整穴住居跡・土坑・溝跡	店舗新築	市教委	本書
		49	H14	試掘確認	向中野 1 丁目 17-2 の一部	49 (対象 541)	2002.12.24～ 2002.12.25	なし	アパート新築	市教委	本書
		50	H15	本調査	向中野字向中野 37-5 地	540	2003.6.2～ 2003.11.10	古代土坑 2、溝跡 2	土地区画整理 (臨海開発)	奈良文	編 455 集
		51	H15	本調査	向中野字八日市場 8-4 地	6,616	2003.4.11～ 2003.11.10	縄文時代晩期整穴住居跡 4、竪穴 2、奈良、平安時代整穴住居跡 22、竪穴 3、土坑 65、溝跡 29、坪井跡 1、築土 1	土地区画整理 (臨海開発)	奈良文	編 468 集
		52	H15	本調査	向中野字八日市場 7-1 地	595	2003.8.1～ 2003.9.3	平安時代整穴 1、溝跡 1	国道 46 号 関西西バイパス建設	奈良文	編 455 集
		53	H16	本調査	向中野字向中野 37-3 地	240	2004.5.6～ 2004.6.2	古代溝跡 5、土坑 1	土地区画整理 (臨海開発)	奈良文	編 469 集
		54	H16	本調査	向中野字向中野 19 地	5,052	2004.4.12～ 2004.8.6	古墳～奈良時代整穴住居跡 4、土坑 2、平安時代整穴住居跡 9、竪穴 4、土坑 10、溝跡 17、中世堀跡 1	土地区画整理 (臨海開発)	奈良文	編 486 集
		55	H16	本調査	向中野字向中野 35-26	203	2004.6.7～ 2004.7.9	古墳時代末～奈良時代整穴住居跡 1、中世～近世溝跡 2、中世～古代の土坑 12、近世整穴 1、近世～近代溝跡 2、中世以降の築土柱列 1、ビツト	個人住宅新築	市教委	H16 遺跡群
		56	H17	本調査	向中野字向中野 20-2 地	50 (対象 160)	2005.6.20～ 2005.6.21	平安時代土坑 1	土地区画整理 (臨海開発)	市教委	本書
		57	H17	本調査	向中野字向中野 9 地	1,047	2005.6.6～ 2005.6.5	平安時代整穴住居跡 6、土坑 1、近世以降築土柱建物跡 2、土坑 5、溝跡 5、ビツト	土地区画整理 (臨海開発)	市教委	本書
		58	H18	本調査	向中野字向中野 40-16 地	3,945	2006.8.7～ 2006.11.24	奈良時代整穴住居跡 10、平安時代整穴住居跡 1、中世築土柱建物跡 4、堀跡 2、堀跡不詳築土柱建物跡 10、土坑 16、溝跡 14、ビツト	土地区画整理 (臨海開発)	奈良文	編 516 集

第4節 体制

〔委託者〕 地域振興整備公団（～平成16年6月）、独立行政法人都市再生機構（平成16年7月～）

〔調査主体〕 盛岡市教育委員会

〔事務局〕 盛岡市教育委員会事務局文化課（～平成18年度）、歴史文化課（平成19年度～）

〔調査〕 盛岡市教育委員会事務局文化課文化財係（～平成15年度）、
盛岡市遺跡の学び館（平成16年度～）

〔助言〕 文化庁、岩手県教育委員会、公益財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター

〔協力〕 発掘調査、資料整理、報告書編集にあたり、地権者及び地元関係者の方々、そして多くの県内外文化財関係職員の方々より多大なる協力を得た。記して感謝申し上げる。

〔発掘調査担当者（本書掲載分）〕

台太郎遺跡 第37次調査（平成13年度） 今野公顕
第38次調査（平成13年度） 今野公顕
第39次調査（平成13年度） 三浦陽一・今野公顕
第42次調査（平成13年度） 三浦陽一
第43次調査（平成13年度） 三浦陽一
第43次補足調査（平成14年度） 三浦陽一
第45次調査（平成14年度） 三浦陽一・今野公顕・佐々木亮二
第46次調査（平成14年度） 三浦陽一
第47次調査（平成14年度） 花井正香
第48次調査（平成14年度） 花井正香
第49次調査（平成14年度） 花井正香
第56次調査（平成17年度） 今野公顕
第57次調査（平成17年度） 今野公顕・齋藤麻紀子

盛岡市教育委員会文化財保護関係職員（平成24年度）

教育長 千葉 仁一

教育部長 佐藤 義見

教育次長 柴田 道明

歴史文化課（事務局）

参事・課長事務取扱	田山浩充
主幹兼課長補佐 （埋蔵文化財担当、兼務）	千田和文
主幹兼課長補佐	袖上 寛
副主幹（文化財・史跡担当）	大沼信忠
主査（兼務）	吉田 尚
文化財主査（兼務）	室野秀文
文化財主査	菊地幸裕
文化財主査（兼務）	津嶋知弘
文化財主査（兼務）	神原雄一郎
学芸主査	岡 聡
主任（兼務）	江本敦史
文化財主任	権頭祐子
文化財主任	今野公顕
文化財主任（兼務）	花井正香
文化財主任（兼務）	佐々木亮二
主事	寺島幸子
文化財調査員	渡邊久美子
文化財調査員	米沢 綾
文化財調査員	福島 茜
事務嘱託	齊藤晃大

遺跡の学び館（施設）

館長事務取扱（兼務）	田山浩充
主幹兼館長補佐	千田和文
主査	吉田 尚
文化財主査	室野秀文
文化財主査	津嶋知弘
文化財主査	神原雄一郎
主任	江本敦史
文化財主任	佐々木亮二
文化財調査員	佐々木紀子
文化財調査員	三品花菜子
文化財調査員	川下里美
学芸調査員	山岸佳澄
学芸調査員	山野友海

第2章 遺跡群の位置と環境

第1節 地理的環境

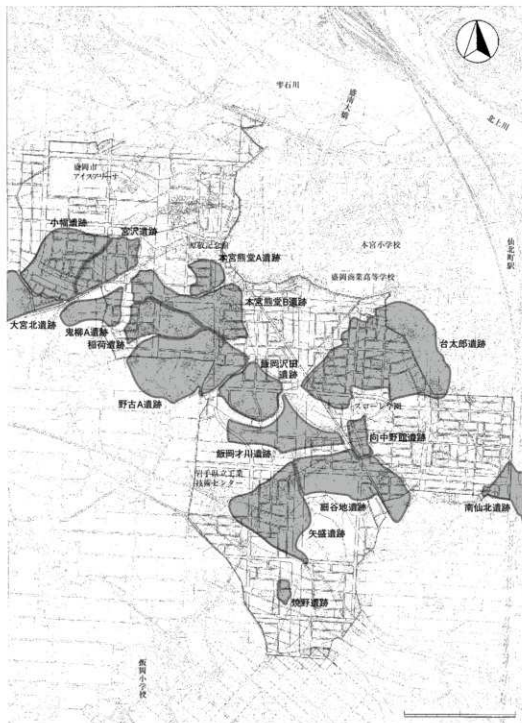
盛岡市は岩手県の中央部に位置する。平成4年4月に南に隣接する都南村と、平成18年1月に北に隣接する玉山村と合併し、人口298,572人（平成22年国勢調査人口速報値）、面積886.47km²の県庁所在地である。平成20年4月には中核市へ移行している。

現在、市街地南西部の313.5haを対象に「盛岡南新都市開発整備事業」に係る土地区画整理事業が実施されている。事業主体は独立行政法人都市再生機構（旧地域振興整備公団）で、平成3年12月に事業認可を受け、平成7年11月より着工している。これにともない、事業区域内の埋蔵文化財発掘調査を平成4年度から県埋文センターと市教育委員会が実施している。

「盛南地区遺跡群」は、盛岡南新都市開発整備事業区域内に所在する計17遺跡、大宮北遺跡・小幡遺跡・宮沢遺跡・鬼柳A遺跡・稲荷遺跡・本宮熊堂A遺跡・本宮熊堂B遺跡・野古A遺跡・飯岡沢田遺跡・飯岡才川遺跡・台太郎遺跡・向中野館遺跡・細谷地遺跡・矢盛遺跡・焼野遺跡・夕覚遺跡・南仙北遺跡が該当し、盛岡市本宮字大宮、本宮4丁目・6丁目・7丁目、向中野1丁目・2丁目・3丁目・5丁目、北飯岡1丁目、本宮字野古、下鹿妻字北、向中野字野原・字細谷地・字鶴子・字幅、飯岡新田2地割・3地割・4地割、南仙北2丁目に所在する（挿図1）。なお所在地名は、土地区画整理事業完了地区の住居表示整備により、平成23年2月、平成24年2月に旧字名から変更となっており、平成25年2月にも一部の変更が予定されている。

盛岡は、岩手県から宮城県を南流する北上川に中津川・雫石川・梁川といった支流の合流点である北上盆地の北端にあり、本遺跡群は、北上川の西岸とその支流である雫石川の南岸に広がる沖積段丘上に立地する。雫石川は奥羽山脈から東流し、鳥泊山と箱ヶ森に挟まれた北の浦付近（市内上太田）で急激に流路を狭められ、その狭窄部を抜け北上盆地に入り、北上川と合流する。雫石川の北岸には岩手山を供給源とする火山砕石流堆積物と火山灰層がのる台地が発達していることにより、狭窄部以東の南岸に流路転換が顕著に見られ、沖積段丘（砂礫段丘）が発達している。

沖積段丘は、水成砂礫層を基底とし、その上に水成シルト層、そして表土が覆っている。基本層はおおむねこの3層に分類されるが、砂礫層の上面高をはじめ、それぞれの層相・層厚は地点によって大きく異なる。また、このシルト層は旧河道ばかりでなく、微高地などにも堆積している。このことは、この低位沖積段丘は、雫石川が周辺の山地から供給される砂礫やシルトによって堆積され、さらに河道の定まらない雫石川の下刻や堆積を繰り返されたことによるものと言える。雫石川の旧河道は幾筋も確認されており、連続する大きなものは4条、そのほかにも網目状に細かな旧河道も確認されており、複雑な河道変遷を示す。それらに画された微高地に、古代を中心とした遺跡が分布している。



挿図1 盛南地区遺跡群位置図（新街区は盛岡南新都市開発整備事業）

第2節 歴史的環境

本遺跡群の立地する沖積段丘上では、縄文時代～古墳時代にかけての遺構遺物の発見は少なく、遺跡のほとんどは7世紀中葉以降の集落遺跡といえる。

縄文・弥生時代の遺構遺物は、本宮熊堂A遺跡や台太郎遺跡で縄文時代晩期を中心とする竪穴住居跡や遺物包含層が検出されている。その他の各遺跡からは遺物が散見する程度であり、主体的なものではない。また、詳細な時期を特定する要素は乏しいが、飯岡才川遺跡など多くの遺跡で縄文時代の陥し穴が確認されている。

古墳時代末、7世紀中葉の遺構遺物は、数は多くはないが台太郎遺跡などで確認されている。これ以降集落が継続的に営まれる。奈良時代、8世紀中葉以降竪穴住居跡を主体とした集落跡が増加する。この時期の集落は、大型竪穴住居を中心としてその周囲に中～小型の竪穴住居が数棟ずつまとまりをもって分布する傾向がある。

9世紀、平安時代初頭の延暦22年(803)には、本遺跡群の西方に「志波城」(下太田方八丁他)が造営される。志波城は東北経営のために朝廷が造営した古代城柵であり、当時「蝦夷(エミシ)」と呼ばれていた人々の社会に大きな影響を与えたと考えられる。征夷大將軍であった坂上田村麻呂が朝廷の命を受け造営した志波城は、北側を流れる雫石川の度重なる洪水の被害を受け、およそ10年で文室綿麻呂の建議により徳丹城(矢巾町西徳田)に移転したことが記録に見られる。その後、徳丹城は9世紀中葉までにはその機能を停止し、本地域も含む北上盆地一帯は、鎮守府胆沢城(奥州市水沢区九蔵田)による一城統治の体制となる。

以降、9世紀中葉から本地域では竪穴住居を主体とした集落数が増加の一途をたどる。それにともない竪穴住居の規模の大小差は縮小するようになり、重複が著しく見られるようになる傾向がある。その中でも、向中野館遺跡の低湿地から古代の祭祀に関係すると考えられる遺物の出土や、飯岡沢田遺跡・飯岡才川の円形周溝墓群や火葬骨甕器など、本地域内の集落機能の分化もみられる。

また、9世紀後半から10世紀中葉にかけては、地区の拠点的な集落も姿を現すようになる。細谷地遺跡では、微高地の南斜面に沿うように2×2間の総柱の掘立柱建物跡が東西に並立し、倉庫群が存在したと考えられる。また大宮北遺跡や、本地域の北西、志波城跡の北東に隣接する林崎遺跡で、規模の大きな官衙的な掘立柱建物を計画的に配置した集落も発見されており、在地有力者の拠点と考えられる。

11～12世紀にかけての、様相ははっきりしないが、12世紀末～13世紀初頭頃のものと考えられるかわらげが、大宮遺跡の大溝跡から多量に出土している。13世紀後半には、台太郎遺跡で不整五角形の平面形となる居館が営まれ、地域を支配した豪族の存在が想定される。さらに同遺跡では、土坑墓群や宗教施設と考えられる遺構も検出されており、出土遺物から15世紀頃までの存続が考えられる。また向中野館遺跡や矢處遺跡でも、堀跡が検出されており、出土遺物やその平面形から16世紀代を中心とする居館と考えられている。

江戸時代に入ると、雫石川は現在の流路となり、旧河道の東側には奥州道中(街道)や仙北祖町が開かれ、本地域は水田地帯に農家が点在する農村地帯となる。各遺跡からは曲屋などの掘立柱建物跡や土坑墓、南仙北遺跡では道路跡などの近世の遺構が発見されており、この姿は盛南開発が行われる直前の本地域の様子と大きく違いが無いものと考えられる。

第3章 調査成果

第1節 遺跡の立地と概要

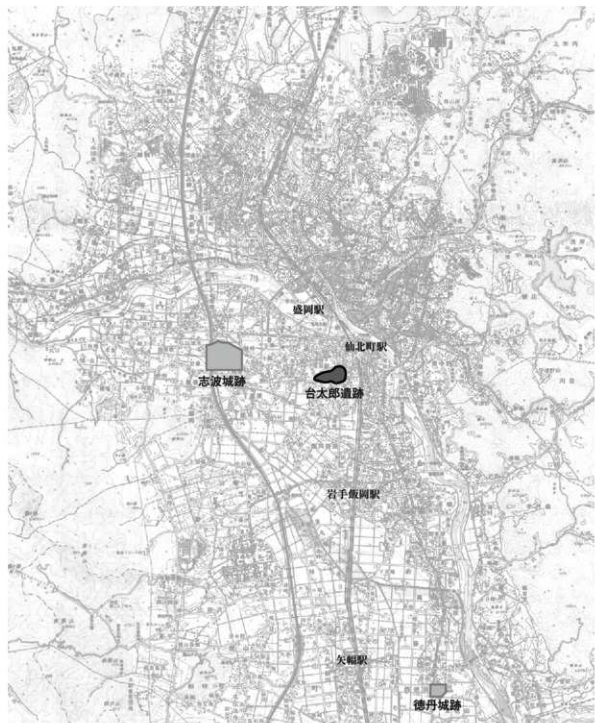
台太郎遺跡は、803年に造営された古代城柵である志波城跡の南東約1.2kmに位置し(挿図2)、西方に飯岡沢田・飯岡才川遺跡、南方に向中野館遺跡が位置している(挿図1)。志波城跡からのびる低地沖積段丘が南に曲がる屈曲点にあたり、幅20～50m、比高差1m程度の細かな旧河道によって分断された微高地上に立地している。遺跡範囲は東西約800m、南北約500mをはかる(挿図3)。

これまでの県埋文センター・市教委の発掘調査により、7世紀～10世紀の古代集落、中世の居館を中心とした集落跡や墓域、近世の村落跡などが確認されている。

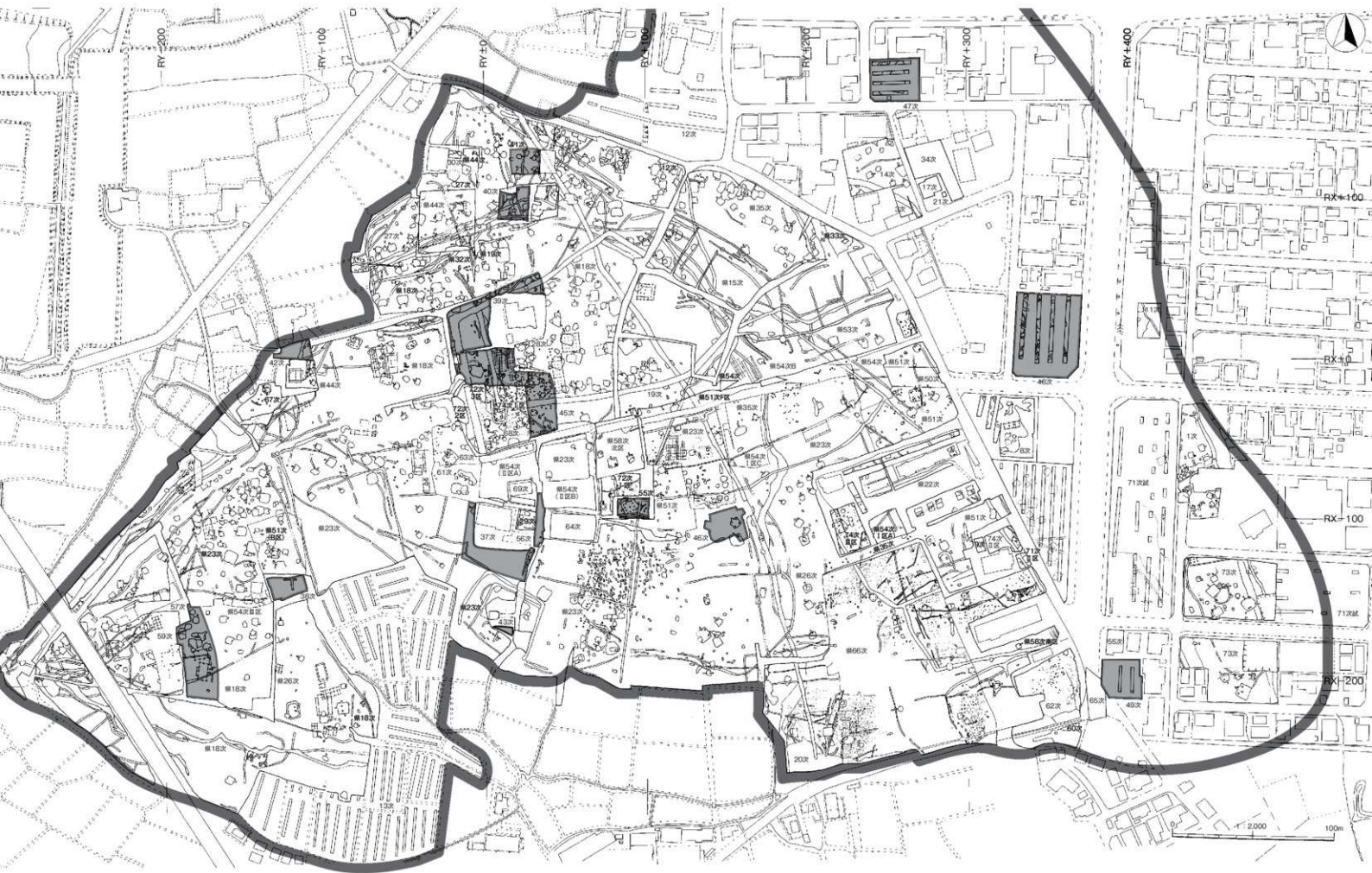
古代(奈良・平安時代)の堅穴住居跡は平成23年度末で660棟以上を数え、そのほかに掘立柱建物跡(2×2間総柱)や大溝などが確認されており、当時の「志波(新波)」地域最大の集落といえる。遺構の分布をみると、7世紀末～8世紀の堅穴住居跡は、いくつかの群をつくりながら南西部を除く遺跡の全域に分布し、重複はみられない。それに対し、9世紀～10世紀の堅穴住居跡は、遺跡の西部と中央～北部の段丘縁辺部に分布が集中し、多くの重複がみられる。個別の堅穴住居跡の特徴をみると、7世紀末～8世紀は北西カマドが圧倒的で北東～南カマドもわずかにあり、カマドの作り替えは少ない。9世紀～10世紀は北西～北カマド、南東カマドなどさまざまで、大形住居にカマドの作り替えが多い。

中世(鎌倉～戦国時代)になると、12世紀後半の渥美の灰釉小形壺が遺跡北東端より単独出土している。13世紀後半には、遺跡中央部に不整五角形プランの在地領主の居館が営まれ、周辺域にはこれに関連する区画溝や道路跡、掘立柱建物跡、堅穴建物等が分布している。また、遺跡南部には中世の土坑墓群、掘立柱建物跡、堅穴建物跡、さらに現在の「諏訪神社」の周囲を囲むような堀跡や、社殿または仏堂らしい掘立柱建物跡も確認されている。これらは出土した陶磁器の年代から15世紀頃まで存続したと考えられる。居館北東側には幅6m内外で並行する道路側溝状の溝跡があり、この溝の東側には並行して区画整理工事前の道路も存在していた。この道は、遺跡北東部の段丘崖や居館の堀、館周辺の区画溝とも並行しており、居館や周辺村落と並存していた道路跡と考えられる。また、本遺跡の南方には、向中野館遺跡(北館・南館)が存在しているが、館跡を構成する曲輪(くるわ)が方形を基調としたプランであることや、北館付近では堀や土橋、小さな曲輪などの複雑な配置であることから、およそ16世紀を中心とした年代が考えられる。

近世(江戸時代)には季石川は現在の流れとなり、旧河道の東側には奥州道中(街道)が通じ、城下の玄関口にあたる仙北組町が開かれる。これにより向中野はこの町の郊外となった。この時代の遺構としては、掘立柱建物の曲屋(まがりや)跡や直屋(すこや)跡などが遺跡内に点在するようになり、水田地帯の中に農家が点在する近世の「向中野村」の一部と考えられる。



挿図2 台太郎遺跡位置図 (1 : 50,000)



挿図 3 台太郎遺跡全体図

第2節 調査内容

(1) 第37次調査(平成13年度)

今次調査区は、遺跡の中央部に位置し、盛岡南新都市開発整備事業に伴う本調査として実施した(第1図)。調査面積は872㎡。重機により表土を除去し、地表下0.2～0.5mの褐色シルト層上面で遺構検出を行った。調査区中央付近には礫層が広がる。

a. 遺構と遺物

調査の結果、奈良時代の竪穴住居跡1棟(RA523)、古代以降の土坑5基(RD959～963)、溝跡2条(RG403・404)を検出した。

・竪穴住居跡

RA523(第2図)

位置 調査区北西部 **平面形** 隅丸方形?(調査区外)

規模 北西-南東4.6m以上(調査区外)、北東-南西4.9m、検出面からの深さ0.1～0.2m

カマド方向 W40.0°N、北西カマド、長い煙道(1.2m) **柱穴** 2口

埋土 5層に大別される

A層:黒褐色土主体。褐色シルトを粉状に含み、暗赤褐色焼土粒をわずかに含む。径1～2cmの礫が混じる。

B層:暗褐色土主体。黒褐色土・褐色シルトを粉状に含み、炭化物粒・焼土粒が少し混じる。B2層には径1～2cmの礫が混じる。

C層:褐色土主体。暗褐色・黒褐色土を粉状に含む。壁崩壊土と考えられる。

D層:暗褐色土主体。黒褐色・褐色土を粒状に含み、暗赤褐色土を粉～粒状に含む。炭化物粒が少し混じる。

J層:カマド崩壊土。暗褐色・黒褐色土主体。褐色・暗褐色・黒褐色土を粉状に含み、暗赤褐色焼土が粉～粒状に混じる。炭化物粒が少し混じる。

カマド 袖残存しない、焚口の焼け面あり **床の状態** 床面中央部に炭化材と焼土あり、床構築土あり

出土遺物(第70図、第5表) 土師器坏・甕、鉄製品(刀子) **時期** 奈良時代(8世紀後半)

・土坑

RD959(第3図)

位置 調査区南東部 **平面形** 不整形円形

規模 径約0.5m、検出面からの深さ0.15m

埋土 A層:黒褐色土主体。褐色土を粉～塊状に含む。 **出土遺物** 土師器甕破片

RD960(第3図)

位置 調査区南東部 **平面形** 不整形円形

規模 径1.25～1.4m、検出面からの深さ0.4m

埋土 A層：黒色・黒褐色土主体。褐色土を粉～粒状に含む。 **出土遺物** 土師器甕破片

RD961 (第3図)

位置 調査区南東部 **平面形** 不整形

規模 径0.8～0.9m, 検出面からの深さ0.3m

埋土 A層：黒褐・暗褐色土主体。黒褐・褐色土を粉状に含む。 **出土遺物** 土師器甕破片

RD962 (第3図)

位置 調査区南東部 **平面形** 不整形

規模 径1.15～1.2m, 検出面からの深さ0.15m

埋土 A層：黒色・黒褐色・暗褐色土主体。黒褐色・暗褐色土を粉～粒状に含む。A1層には暗褐色焼土が粉～塊状に多く混じる。A1・A2層には炭化物粒が少し混じる

出土遺物 土師器甕破片

RD963 (第3図)

位置 調査区南東部 **平面形** 不整形

規模 径0.75～0.8m, 検出面からの深さ0.3m

埋土 A層：黒褐色・暗褐色土主体。黒褐色・褐色土を粉～粒状に含む。径1～5cmの礫が少し混じる。

・溝跡

RG403 (第3図)

位置 調査区南東部

規模 幅0.2～0.4m, 延長16.5m, 検出面からの深さ0.05～0.08m, 北北東から南南西に走る。

埋土 A層：黒褐色・暗褐色土主体。褐色土を粉状に含む。径1～3cmの礫が多く混じる。

RG404 (第3図)

位置 調査区南西部

規模 幅0.4～0.6m, 延長25.5m, 検出面からの深さ0.1～0.15m, 南北に走り屈曲して北西から南東に走る。

埋土 A層：黒褐色土主体。褐色土を粉状に含む。径1～5cmの礫が混じる。

(2) 第38次調査 (平成13年度)

今次調査区は、遺跡の西部に位置し、盛岡南新都市開発整備事業に伴う本調査として実施した(挿図3)。調査面積は309㎡。重機により表土を除去し、表土下0.4mの褐色シルト層上面で遺構検出を行ったが、調査区の南東部は礫層が広がり、また中央部は大きく攪乱・削平されていて、遺構は確認されなかった。攪乱土中より磨滅した土師器・須恵器の破片が出土した。

(3) 第39次調査(平成13年度)

今次調査区は、遺跡の中央部に位置し、盛岡南新都市開発整備事業に伴う本調査として実施した(第4図)。調査面積は1,302㎡。重機により表土を除去し、遺構検出を行った。

a. 遺構と遺物

調査の結果、平安時代の竪穴住居跡12棟(RA524～535)・土坑10基(RD964～973)・溝跡18条(RG405～422)・焼土遺構1基(RF043)、中世の掘立柱建物跡1棟(RB043)・堀跡2条(RG042・424)、近世以降の溝跡1条(RG423)、古代以降のピット111口を検出した。

・竪穴住居跡

RA524(第5図)

位置 調査区北東部 **重複関係** RG042(新) **平面形** 隅丸長方形
規模 北西-南東2.3m, 北東-南西2.85m以上(調査区外), 検出面からの深さ0.08～0.15m
カマド方向 W28.5°N, 北西カマド, 長い煙道(0.68m)
埋土 3層に大別される

A層: 暗褐色土主体。褐色土を粉状に含む。

B層: 暗褐色土主体。褐色土を粉状に多く含む。径5～20cmの炭化物が混じる。

C層: 褐色土主体。黒褐色・暗褐色土を粉～塊状に含む。

カマド 袖残存しない、焚口焼け面なし **床の状態** 床面南東部に一括土器

出土遺物(第78図, 第7表) 土師器杯・甕, あかやき土器甕 **時期** 平安時代(9世紀中葉～後葉)

RA525(第6図)

位置 調査区北東部 **重複関係** RD964(新), RG042(新), ピット(新)
平面形 隅丸方形 **規模** 東西4.27m, 南北4.5m, 検出面からの深さ0.48m
カマド方向 E130°S, 東カマド, 長い煙道(1.42m)

埋土 5層に大別される

A層: 暗褐色土主体。黒褐色土を粉状に含む。灰白色火山灰が粉～粒状に、径2cmの礫が混じる。

B層: 黒褐色・明赤褐色土主体。暗褐色～黄褐色土を粉～粒状に含む。炭化物粒, 径2～5cmの礫が混じる。

C層: 暗褐色・褐色土主体。黒褐色土を粉状に多く、焼土を粒状に含む。径2cmの砂礫が多く混じる。

J層: カマド崩壊土, 黒褐色・暗褐色土主体。褐色土を粉状に含む。赤褐色焼土粒, 炭化物粒が混じる。

L層: 床構築土。暗褐色土主体。黒褐色土を粉～粒状に多く含む。炭化物粒が混じる。

カマド 両袖残存, 礫を芯材に使用, 焚口焼け面あり **床の状態** 床面北西端に炭化材, 床構築土あり

貯蔵穴 カマド右袖脇に1基 **柱穴** 1口

出土遺物(第71・79・80図, 第6・8表) 土師器杯・高台付杯・甕, 須恵器杯・甕, あかやき土器杯・甕, 土製品(土錘), 砥石, 鉄製品(鉄釘)

時期 平安時代(9世紀中葉)

RA526 (第7図)

位置 調査区北東部 重複関係 RG410 (新), RG414 (新)・416 (新), ビット (新)

平面形 隅丸方形? 規模 東西3.85m, 南北3.0m以上, 検出面からの深さ0.35m

カマド方向 W5.5° S, 西カマド, 長い煙道 (0.9m以上)

埋土 5層に大別される

A層: 黒褐色土主体。褐色シルトを粒状に含み、灰白色火山灰が多く混じる。

B層: 黒褐色土主体。褐色シルトを多く含む。

C層: 黒褐色・暗褐色土主体。褐色シルトを粒状に多く含む。

D層: 黒褐色・暗褐色土主体。褐色シルトを粒~塊状に多く含む。

L層: 床構築土。暗褐色・褐色土主体。黒褐色土を粒~塊状に含む。

カマド 左袖残存, 焚口焼け面あり 床の状態 硬化面あり, 床構築土あり

出土遺物 (第78・80図, 第7・8表) 土師器環・高台付環・甕, 須恵器環・甕, あかやき土器環・甕, 鉄製品 (刀子)

時期 平安時代 (9世紀中葉~後葉)

RA527 (第5図)

位置 調査区北部 平面形 隅丸方形?

規模 北西-南東2.5m以上 (調査区外), 北東-南西2.9m, 検出面からの深さ0.25m

カマド方向 不明 (北カマド?)

埋土 4層に大別される

A層: 黒褐色土主体。褐色土を粒状に含む。

B層: 黒色・黒褐色土主体。褐色土を粒状に少し含む。

C層: 黒褐色土主体。褐色土を粒状に含む。

L層: 床構築土。褐色土主体。黒褐色土を含む。

床の状態 床面中央に焼け面, 床構築土あり 柱穴 2口

出土遺物 土師器甕, 須恵器甕, あかやき土器環・甕 時期 平安時代 (9世紀)

RA528 (第8図)

位置 調査区北西部 平面形 隅丸方形?

規模 東西6.3m, 南北3.55m以上 (調査区外), 検出面からの深さ0.25~0.3m

埋土 5層に大別される

A層: 黒褐色土主体。褐色シルトを粒状に少し含む。

B層: 黒褐色土主体。褐色シルトを粒状に含む。

C層: 黒褐色土主体。褐色シルトを粒状に少し含む。

D層: 黒色土主体。明赤褐色シルトを粒状にわずかに含む。

E層: 黒褐色土主体。褐色シルトを粒~塊状に多く含む。

床の状態 床面中央に5箇所焼け面あり, 硬化面あり, 床構築土あり 柱穴 2口

出土遺物 (第72・73・80図, 第6・8表) 土師器環・高台付環・甕, 須恵器環・甕, あかやき土器環・甕,

鉄製品(鉄釘・鉄鍬・刀子)

時期 平安時代(9世紀中葉)

RA529 (第9図)

位置 調査区中央部 **重複関係** RA531(古), RD972(新), RG424(新), ビット(新)

平面形 隅丸方形? **規模** 北西-南東5.25m, 北西-南西3.25m以上, 検出面からの深さ0.15~0.2m

カマド方向 不明

埋土 4層に大別される

A層: 黒褐色土主体。褐色シルトを粒~塊状に含む。

B層: 黒色・黒褐色土主体。褐色シルトを粒~塊状にわずかに含む。

C層: 黒色土主体。褐色シルトを粒~塊状に含む。

L層: 床構築土。褐色土主体。黒褐色シルトを塊状に含む。

床の状態 床面中央に硬化面あり, 床構築土あり **柱穴** 3口

出土遺物 (第78・80図, 第7・8表) 土師器坏・甕・球胴甕, 須恵器坏・甕, あかやき土器坏・甕, 砥石,
鉄製品(鉄)

時期 平安時代(9世紀前葉~中葉)

RA530 (第10図)

位置 調査区北東部(東部を県理文18次調査でRA110として精査) **重複関係** RG422(新)

平面形 隅丸方形

規模 北西-南東2.1m以上(調査区外), 北東-南西3.9m以上(調査区外), 検出面からの深さ0.2m

カマド方向 W225°N, 北西カマド, 長い煙道(トンネル状, 1.55m)

埋土 8層に大別される

A層: 黒褐色土主体。褐色シルトを粒状に含み, 炭化物が少し混じる。

B層: 黒褐色土主体。褐色シルトを粒状に含む。

C層: 黒褐色土主体。褐色シルトを含む。

D層: 黒褐色土主体。褐色シルトを多く含む。

E層: 褐色シルト・黒褐色土主体。黒褐色土・褐色シルトを粒~塊状に多く含む。

F層: 黒褐色土主体。褐色土を粒状に少し含む。

G層: 黒褐色土主体。褐色土を粒状にF層より多く含む。

L層: 床構築土。褐色シルト主体。黒褐色土を多く含む。

カマド 両袖残存, 礎を芯材に使用 **床の状態** 硬化面あり, 床構築土あり

出土遺物 土師器坏・甕, 須恵器坏・甕, あかやき土器坏

時期 平安時代(9世紀)

RA531 (第9図)

位置 調査区中央部 **重複関係** RA529(新), RF062(新) **平面形** 隅丸方形?

規模 北西-南東0.95m以上, 北東-南西0.35m以上, 検出面からの深さ0.2m

カマド方向 不明 床の状態 床構築土あり 時期 平安時代(9世紀)

RA532 (第10図)

位置 調査区南部 重複関係 RG424 (新) 平面形 隅丸方形?

規模 南北2.5m, 東西0.85m以上(調査区外), 検出面からの深さ0.15m

埋土 A層:黒褐色土主体。褐色・明赤褐色シルトを粉状にわずかに含む。

床の状態 構築土あり 出土遺物 土師器坏・甕, 須恵器甕, あかやき土器坏 時期 平安時代(9世紀)

RA533 (第9図)

位置 調査区南部(南半部を第45次調査でRA566として精査) 平面形 隅丸方形

規模 北東-南西1.7m以上(調査区外), 北西-南東0.75m以上(調査区外), 深さ0.05~0.08m

カマド方向 不明

埋土 2層に大別される

A層:黒褐色土主体。褐色シルトを塊状に多く含む。

L層:床構築土。褐色土主体。黒色・黒褐色土を塊状に含む。

床の状態 床構築土あり

出土遺物(第78図, 第7表) 土師器坏, 須恵器甕, あかやき土器坏・甕 時期 平安時代(9世紀)

RA534 (第14図)

位置 調査区南西部 重複関係 RD973 (新), RG042 (新) 平面形 隅丸方形

規模 北西-南東4.3m, 北東-南西3.1m以上, 検出面からの深さ0.15~0.3m

カマド方向 N25.0°W, 北西カマド, 長い煙道(0.35m以上)

埋土 5層に大別される

A層:黒色・黒褐色土主体。褐色シルトを粒~塊状に少し含む。

B層:黒褐色土主体。褐色シルトを粒~塊状に含む。

C層:黒褐色土主体。褐色シルトを粒~塊状に多く含む。

D層:褐色・黒褐色土主体。褐色・明赤褐色シルトを粒状に含む。

L層:床構築土。褐色シルト主体。黒褐色土を塊状に含む。

カマド 両袖残存, 焚口の焼け面あり 床の状態 床面北東部に一括土器, 硬化面あり, 床構築土あり

柱穴 5口

出土遺物(第75・76・79図, 第6・8表) 土師器坏・甕, 須恵器坏・甕, あかやき土器坏, 土製品(紡錘車)

時期 平安時代(9世紀中葉)

RA535 (第12図)

位置 調査区南西部 重複関係 RD973 (新), RG042 (新) 平面形 隅丸方形?

規模 北西-南東4.55m以上, 北東-南西3.9m以上, 検出面からの深さ0.25~0.35m

カマド方向 N42.0°E, 北東カマド, 長い煙道(0.75m)

埋土 5層に大別される

A層：黒褐色土主体。褐色土を紛～粒状にわずかに含み、A1層に灰白色火山灰が粒状に混じる。

B層：黒色・黒褐色土主体。褐色土を紛状にわずかに含む。

C層：黒色土主体。褐色シルトを粒状に含む。

D層：黒色・黒褐色土主体。褐色シルトを粒状に多く含む。

E層：褐色・黒褐色土主体。黒褐色・褐色シルトを粒～塊状に多く含む。

カマド 焚口の焼け面あり 床の状態 硬化面あり、床構築土あり

柱穴 2口

出土遺物 (第74図、第6表) 土師器坏・甕、須恵器坏・甕・長頸瓶、あかやき土器坏・高台付坏

時期 平安時代(9世紀前葉～中葉)

・掘立柱建物跡

R B O 4 3 (第13図)

位置 調査区中央部 重複関係 RD965、RG407(新)

構造 東西桁行3間・南北梁行1間 棟方向 東西棟、E15.0°N

規模

桁行北側柱筋-総長4.8m(16尺)、柱間西から1.2m(4尺)+2.1m(7尺)+1.5m(5尺)

桁行南側柱筋-総長4.8m(16尺)、柱間西から1.5m(5尺)+2.1m(7尺)+1.2m(4尺)

梁行柱間2.1m(7尺)

柱掘方

	掘方1	掘方2	掘方3	掘方4	掘方5	掘方6
直径(m)	0.3～0.4	0.3～0.35	0.5	0.3～0.35	0.25～0.3	0.35～0.4
深さ(m)	0.1	0.25	0.1	0.05	0.35	0.25
平面形	不整形	不整形	不整形	不整形	不整形	不整形
柱痕跡	なし	なし	なし	なし	なし	なし

	掘方7	掘方8
直径(m)	0.3～0.4	0.25
深さ(m)	0.15	0.1
平面形	不整形	不整形
柱痕跡	なし	なし

時期 中世以降

・土坑

RD964(第14・20図)

位置 調査区北東部 重複関係 RA525(古) 平面形 不整形

規模 径1.2m、検出面からの深さ0.15m

埋土 A層：暗褐色土主体。褐色土を粉状に含む。 出土遺物 土師器坏・甕、須恵器坏、あかやき土器坏

RD965 (第 19・20 図)

位置 調査区中央部 **重複関係** RB043 **平面形** 不整形

規模 径 0.8 m、検出面からの深さ 0.25 m

埋土 A層：黒色土主体。褐色シルトを粒状に少し含む。

B層：黒褐色土主体。褐色シルトを粒状に含む。

出土遺物 土師器坏・甕、須恵器坏

RD966 (第 15・20 図)

位置 調査区北部 **平面形** 不整形

規模 径 0.9～0.95 m、検出面からの深さ 0.3 m

埋土 A層：黒色・黒褐色土主体。褐色土を粉状に含む、炭化物が混じる。

B層：黒色土主体。褐色土を粉状にわずかに含む。

C層：褐色土主体。黒褐色土を粉状に含む。

出土遺物 土師器甕、須恵器甕、あかやき土器坏

RD967 (第 15・20 図)

位置 調査区北部 **平面形** 不整形? (調査区外)

規模 径約 1.6 m、検出面からの深さ 0.1～0.15 m

埋土 A層：黒褐色・暗褐色土主体。褐色土を粉状に多く含む。

RD968 (第 15・20 図)

位置 調査区北部 **重複関係** RG417・418 **平面形** 不整形

規模 長軸 1.0 m、短軸 0.85 m、検出面からの深さ 0.45 m **出土遺物** あかやき土器甕

RD969 (第 19・20 図)

位置 調査区中央部 **平面形** 不整形

規模 長軸 1.1 m、短軸 0.7 m、検出面からの深さ 0.2～0.25 m

埋土 A層：黒褐色土主体。褐色シルトを含む。

B層：褐色土主体。黒褐色土を多く含む。

出土遺物 土師器坏・甕、須恵器甕

RD970 (第 14・20 図)

位置 調査区北東部 **重複関係** なし **平面形** 不整形

規模 長軸 0.9 m、短軸 0.6 m、検出面からの深さ 0.15～0.2 m

埋土 A層：黒色・黒褐色土主体。褐色シルト多く含む。

RD971 (第 18・20 図)

位置 調査区南西部 **平面形** 不整形?

規模 長軸 0.75 m, 短軸 0.35 m 以上, 検出面からの深さ 0.1 m

埋土 A層: 黒褐色土主体。褐色シルトを紛～粒状に含む。

出土遺物 (第 77 図, 第 6 表) 土師器環・高台付環

RD972 (第 16・20 図)

位置 調査区中央部 **重複関係** RA529 (古) **平面形** 不整楕円形

規模 長軸 1.0 m, 短軸 0.7 m, 検出面からの深さ 0.3 m

埋土 A層: 黒色土主体。褐色シルトを含む。 **出土遺物** 須恵器甕

RD973 (第 18・20 図)

位置 調査区南西部 **重複関係** RA534 (古)・535 (古) **平面形** 不整形円形?

規模 径約 1.3 m, 検出面からの深さ 0.3 m

埋土 A層: 黒褐色土主体。褐色シルトを粒～塊状に含む。

B層: 黒褐色土主体。褐色シルトを粒～塊状に少し含む。

出土遺物 土師器甕, あかやき土器環

・焼土遺構

RF062 (第 9 図)

位置 調査区中央部 **重複関係** RA531 (古)

平面形 不整楕円形? (調査区外) **規模** 径 0.45 m 以上

・溝跡

RG042E (第 14・15・20 図)

位置 調査区北東部 **重複関係** RA524・525, RG421・422

規模 堀跡。幅 3.2～3.9 m, 延長 26.0 m 以上, 検出面からの深さ 1.0 m, 東北東から西南西に走る。

埋土 A層: 黒褐色・褐色土主体。黄褐色土・黒褐色土を多く含む。炭化物粒・礫が少し混じる。

B層: 黒褐色・褐灰色土主体。暗褐色土・褐色土を紛～粒状に含む。炭化物・礫が混じる。ややグライ化し、遺物が多く出土する。

C層: 黒褐色・褐灰色土主体。褐色シルトを紛～粒状に含む。径 3～5 cm の礫が多く混じる。

底面 橋脚跡と考えられる柱穴 4 口あり

出土遺物 (第 77・79・80・101・102 図, 第 6・8・17 表) 土師器環・高台付環・甕, 須恵器環・大甕, あかやき土器環・高台付環・甕, 土製品 (土鍾), 砥石, 鉄製品 (鉄釘・刀子), 瓷器系陶器甕・大甕, 須恵系陶器播鉢・甕, 常滑焼甕, 中国青磁碗・盤

時期 中世 (13～14 世紀)

RG042W (第 15・16・17・18・20 図)

位置 調査区北部～南西部 **重複関係** RA534・535, RG405・406・419・424

規模 堀跡。幅 3.3～5.1 m, 延長 53.5 m 以上, 検出面からの深さ 0.9～1.5 m, 東北東から西南西に走り、

南へ屈曲する。

- 埋土** A層：黒褐色土主体。褐色土を粉状にわずかに含み、礫が混じる。
B層：黒褐色土主体。暗褐色・褐色土を粉～塊状に含む。
C層：黒褐色土主体。暗褐色土・褐色土を粒～塊状に多く含む。
D層：黒褐色土主体。黒褐色土・褐色土を粒～塊状に含む。
E層：黒褐色土主体。暗褐色・褐色土を粉状に含む。
F層：黒色・黒褐色土主体。暗褐色土・褐色土を粒～塊状に含み、砂礫が多く混じる。
G層：黒色・黒褐色土主体。褐色土を粉～塊状に含む。
H層：褐色シルト主体。黒褐色土・黄褐色土を粒～塊状に含む。H1層に酸化鉄分が混じる。
I層：黒褐色土主体。酸化鉄分を多く含み、礫が多く混じる。

出土遺物 土師器坏・高台付坏・甕、須恵器坏・甕、あかやき土器坏・高台付坏・甕、土製品（土錘）、砥石、鉄製品（鉄釘・刀子）、瓷器系陶器甕・大甕、須恵系陶器撞鉢・甕、常滑焼甕、中国青磁碗・盤

時期 中世（13～14世紀）

RG405（第16・20図）

- 位置** 調査区北部 **重複関係** RG042・406・419・423
- 規模** 幅1.1～1.25m、延長3.7m以上、検出面からの深さ0.35m、北北西から南南東に走る。
- 埋土** A層：黒色・黒褐色土主体。黒褐色・褐色シルトを粉～粒状に含む。炭化物粒がわずかに、酸化鉄が粉～層状に混じる。
B層：黒褐色シルト主体。褐色シルトを粉状に多く含み、酸化鉄が粉状に混じる。

出土遺物 土師器甕、あかやき土器坏

RG406（第16・20図）

- 位置** 調査区北部 **重複関係** RG042・405・423
- 規模** 幅0.75～0.85m、延長3.6m以上、検出面からの深さ0.3m、北北西から南南東に走る。
- 埋土** A層：黒褐色・暗褐色土主体。黒褐色・褐色土を粉～粒状に含み、酸化鉄が粉状に少し混じる。
B層：黒褐色土主体。褐色土を粉状に含み、酸化鉄が粉状に少し混じる。

出土遺物 土師器甕

RG407（第19・20図）

- 位置** 調査区中央部 **重複関係** RB043、RG424、ビット
- 規模** 幅0.5～1.1m、延長11.9m、検出面からの深さ0.1～0.15m、北北西から南南東に蛇行しながら走る。
- 埋土** A層：黒褐色土主体。褐色シルトを粉状に少し含む。
B層：黒褐色土主体。褐色シルトを多く含む。

RG408（第15・20図）

- 位置** 調査区北東部 **重複関係** RG417、ビット
- 規模** 幅0.45～0.65m、延長3.3m以上、検出面からの深さ0.12m、北東から南西に走る。

埋土 A層：黒褐色土主体。褐色土を粉状に多く含む。

RG409 (第15・20図)

位置 調査区北東部 **重複関係** RG418, ビット

規模 幅0.2～0.7m, 延長2.7m以上, 検出面からの深さ0.3～0.35m, 南北にカーブしながら走る。

埋土 A層：黒褐色土主体。暗褐色・褐色土を粉状に含み, 径1cmの焼土粒・径1～2cmの炭化物粒が混じる。

B層：黒褐色・暗褐色土主体。褐色土を粉～塊状に多く含む。

出土遺物 (第79図, 第8表) 土師器環・甕, 須恵器環・甕, あかやき土器環, 土製品(フイゴ羽口)

RG410 (第14・15・20図)

位置 調査区北東部 **重複関係** RA526, RG411・414, ビット

規模 幅0.6～1.0m, 延長14.9m以上, 検出面からの深さ0.15～0.45m, 北東から南西に走る。

埋土 A層：黒色・黒褐色土主体。にぶい黄褐色・褐色土を粉～粒状に含む。

B層：黒色・黒褐色土主体。にぶい黄褐色・褐色土を粉状に多く含み, 砂礫が混じる。

RG411 (第14・20図)

位置 調査区北東部 **重複関係** RG410

規模 幅0.75～0.85m, 延長2.8m, 検出面からの深さ0.8m, 東西に走る。

埋土 A層：黒褐色土主体。褐色土を粉状に含む。

RG412 (第19・20図)

位置 調査区中央部 **重複関係** ビット

規模 幅0.25～0.3m, 延長1.8m, 検出面からの深さ0.1m, 北北西から南南東に走る。

埋土 A層：黒褐色土主体。褐色土を粒状に含む。

B層：褐色土主体。黒褐色土を多く含む。

RG413 (第19・20図)

位置 調査区中央部 **重複関係** RB043, RD965, ビット

規模 幅0.2～0.3m, 延長1.9m, 検出面からの深さ0.6m, 北北西から南南東に走る。

埋土 A層：黒色土主体。明黄褐色土をわずかに含む。

RG414 (第15・20図)

位置 調査区北東部 **重複関係** RA526, RG410, ビット

規模 幅0.25～0.5m, 延長4.95m, 検出面からの深さ0.05～0.1m, 東西に走り, 北に屈曲する。

埋土 A層：黒褐色・暗褐色土主体。褐色土を粉～粒状に含む。

B層：暗褐色・にぶい黄褐色土主体。黒褐色土を少し, 褐色土を粉状に含む。

RG415 (第15・20図)

位置 調査区北部 **重複関係** RG420

規模 幅0.2m、延長3.6m、検出面からの深さ0.1m、東北東から西南西に走り、南南東に屈曲する。

埋土 A層：黒色土主体。褐色土を少し含む。 **出土遺物** 土師器坏・甕、あかやき土器坏・甕

RG416 (第15・20図)

位置 調査区北東部 **重複関係** RA526

規模 幅0.4～0.6m、延長2.6m、検出面からの深さ0.15m、南北に走る。

埋土 A層：黒褐色シルト主体。暗褐色・褐色シルトを粉状に含む。

B層：黒褐色シルト主体。褐色シルトを粉状に含む。

RG417 (第15・20図)

位置 調査区北東部 **重複関係** RD968、RG408、ピット

規模 幅0.35～0.45m、延長3.5m、検出面からの深さ0.1m、北東から南西に走る。

埋土 A層：黒褐色・暗褐色土主体。黒褐色土を粉状に少し含む。

RG418 (第15・20図)

位置 調査区北東部 **重複関係** RD968、RG409

規模 幅0.55m、延長0.9m、検出面からの深さ0.2m、東北東から西南西に走る。

埋土 A層：黒褐色土主体。褐色シルトを含む。

出土遺物 土師器甕、須恵器甕、あかやき土器坏

RG419 (第16・20図)

位置 調査区北部 **重複関係** RG405・423

規模 幅0.4m以上、延長3.1m以上、検出面からの深さ0.1m、北北西から南南東に走る。

埋土 A層：黒色シルト主体。褐色シルトを粒状に含む。

RG420 (第15・16・20図)

位置 調査区北部 **重複関係** RG415

規模 幅0.2～0.45m、延長1.5m、検出面からの深さ0.15～0.25m、北西から南東に走る。

埋土 A層：黒色・黒褐色土主体。褐色土を粒～塊状に多く含む。

RG421 (第14・20図)

位置 調査区北東部 **重複関係** RG042、ピット

規模 幅0.45～0.5m、延長2.6m、検出面からの深さ0.2m、西北西から東南東に走る。

埋土 A層：黒褐色土主体。褐色シルトを粒状に多く含む。

B層：黒褐色土主体。褐色シルトを粒状にわずかに含む。

RG422 (第14・20図)

位置 調査区北東部 重複関係 RG042, RA530, ビット

規模 幅0.5～1.2m, 延長6.2m以上, 検出面からの深さ0.2m, 南北に走る。

出土遺物 須恵器甕, あかやき土器坏

RG423 (第15・16・17・18・20図)

位置 調査区北部～南西部 重複関係 RG042・405・406・419

規模 幅0.4～1.9m, 延長46.7m以上, 検出面からの深さ0.15～0.3m, 東北東から西南西に走り, 南に屈曲する。

埋土 A層: 黒褐色土主体。褐色シルトを粒状に含む。

B層: 褐色土主体。黒褐色土を粒状に多く含む。

出土遺物 土師器甕, 須恵器甕, あかやき土器坏

RG424 (第16・19・20図)

位置 調査区中央部 重複関係 RA529・532, RG042・407

規模 堀跡。幅3.1～4.0m, 延長22.0m以上, 検出面からの深さ0.65～0.7m, RG042より分岐して北北西から南南東に走る。

埋土 A層: 黒色・黒褐色土主体。暗褐色・褐色土を粒～塊状に多く含む, A7層に礫が多く混じる。

B層: 黒色・褐色土主体。褐色土・黒褐色土を粒～塊状に含む, B1層に砂が多く混じる。

C層: 黒色土主体。褐色土を塊状に多く含む。最下層C1層は褐色砂が主体。

出土遺物 (第82図, 第9表) 土師器坏・高台付坏・甕, 須恵器坏・甕, あかやき土器坏・甕, 砥石, 鉄製品 (刀子)

時期 中世

・ビット

調査区内に古代以降のビット111口を検出した(第14・15・16・17・18・19・21図)。各ビットの規模は第2表のとおりである。埋土より土師器坏・甕, 須恵器坏・甕, あかやき土器坏・甕の破片が出土している。

(4) 第42次調査(平成13年度)

今次調査区は, 遺跡の北西部に位置し, 盛岡南新都市開発整備事業に伴う本調査として実施した(第22図)。調査面積は123㎡。重機により表土を除去し, 遺構検出を行った。遺構検出面は調査区北西方向になだらかに傾斜している。

a. 遺構と遺物

調査の結果, 平安時代の堅穴住居跡1棟(RA546)・土坑2基(RD982・983)・溝跡2条(RG440・441)を検出した。

・竪穴住居跡

RA546 (第22図)

位置 調査区南東部 平面形 壁が割平され不明 規模 不明

カマド方向 不明 カマド 焚口の焼け面と考えられる焼土あり 貯蔵穴 焼土北側に1基

埋土 A層：黒褐色土主体。褐色シルトを少し含む。

B層：貯蔵穴埋土。黒褐色土主体。褐色・褐灰色シルト少し含む、炭化物が混じる。

出土遺物 土師器坏・甕破片 時期 平安時代(9世紀)

・土坑

RD982 (第22図)

位置 調査区北部 平面形 不整形円形

規模 長軸1.5m・短軸1.05m。検出面からの深さ0.25m

埋土 A層：黒褐色土主体。褐色シルトを含む。 出土遺物 須恵器坏, 土師器甕破片

RD983 (第22図)

位置 調査区北部 平面形 不整形円形

規模 径0.8～0.95m。検出面からの深さ0.2m

埋土 A層：黒褐色土主体。褐色シルトを少し含む。 出土遺物 なし

・溝跡

RG440 (第22図)

位置 調査区中央部 重複関係 RG441(古)

規模 幅1.1～1.9m。延長10.3m以上(調査区外)。検出面からの深さ0.3～0.4m。南北に走る。

埋土 A層：黒褐色土主体。褐色シルトを筋～粒状に含む。A6層に酸化鉄分が多く混じる。

B層：黒褐色土主体。白色火山灰を粉状に多く含む。

C層：黒褐色土主体。黄褐色シルトを塊状に多く含む。

出土遺物(第81図、第9表) 土師器坏・甕、須恵器坏・大甕、あかやき土器坏・甕

RG441 (第22図)

位置 調査区南東部 重複関係 RG440(新)

規模 幅0.8～1.1m。延長7.0m以上(調査区外)。検出面からの深さ0.2m。北東から南西に走る。

埋土 A層：黒褐色土主体。褐色シルトを含む。

B層：黒褐色土主体。褐色シルトを含む。

出土遺物(第81図、第9表) 土師器坏・甕・埴

(5) 第43次・43次補足調査(平成13・14年度)

今次調査区は、遺跡の中央部に位置し、盛岡南新区市開発整備事業に伴う本調査として実施した(挿図3)。

調査面積は、第43次調査区が112㎡、第43次補足調査区が42㎡で、両調査区は隣接している。重機により表土を除去し、表土下約0.6mの褐色シルト層上面で遺構検出を行ったが、ともに遺構・遺物は確認されなかった。

(6) 第45次調査（平成14年度）

今次調査区は、遺跡の中央部に位置し、盛岡南新都市開発整備事業に伴う本調査として実施した（第23図）。調査面積は1,618㎡。重機により表土を除去し、遺構検出を行った。

a. 遺構と遺物

調査の結果、平安時代の竪穴住居跡13棟（RA565～577）、古代の竪穴状遺構4基（RA057～060）、古代以降の土坑36基（RD1077～1081・1084～1114）、溝跡11条（RG467～477）、中世の堀跡2条（RG042,424）、掘立柱建物跡5棟（RB049～053）、掘立柱列跡1列（RC003）、古代以降のピット194口を検出した（第24・25図）。

・竪穴住居跡

RA565 a・b・c（第26・27図）

位置 調査区北西部 重複関係 RA565 d（古）、RG467（新） 平面形 兩方形

規模 北東-南西6.7m、北西-南東7.2m、検出面からの深さ0.35～0.5m

カマド方向 カマドa（新）：N26.0°E、北東カマド、長い煙道（トンネル状、1.55m）

カマドb（中）：N18.0°E、北カマド、長い煙道（トンネル状、1.4m）

カマドc（古）：E13.0°S、東カマド、長い煙道（トンネル状、1.8m）

柱穴 主柱穴6口、ピット4口

	Pit1	Pit2	Pit3	Pit4	Pit5	Pit6
直径 (m)	0.35～0.4	0.4～0.45	0.35～0.4	0.4～0.45	0.4～0.5	0.4
深さ (m)	0.6	0.4	0.55	0.45	0.4	0.42
平面形	不整形	不整形	不整形	不整形	不整形	不整形
柱痕跡	なし	なし	なし	なし	なし	なし

埋土 9層に大別される

A層：黒褐色土主体。黒褐色土・褐色シルトを塊状に含み、灰白色火山灰が少し混じる。

B層：黒褐色土主体。褐色シルトを粒状に少し含み、灰白色火山灰が少し混じる。

C層：黒褐色土主体。黒褐色土・褐色シルトを粒状に含み、炭化物が少し混じる。灰白色火山灰が多く混じる。

D層：黒褐色土主体。褐色シルトを粒状に多く含む。炭化物・焼土が多く混じる。

J層：カマドa崩壊土。黒褐色土主体。黒褐色土・暗褐色・褐色シルトを粒～塊状に含む。焼土・炭化物が少し混じるが、J^{*}2層には焼土が多く混じる。

J^{*}層：カマドb崩壊土。黒褐色土主体。黒褐色土を含み、炭化物が多く混じる。

J^{*}層：カマドc崩壊土。黒褐色・暗褐色土主体。黒褐色土・暗褐色・褐色シルトを粒～塊状に多く含む。焼土・炭化物が混じるが、J^{*}2層・J^{*}10層に多く混じる。

L層：床構築土。褐色シルト・黒褐色土主体。暗褐色シルト・褐色土を粒状に多く含む。焼土粒・炭化物粒が混じる。

L'層：カマドa地業土。黒褐色土主体。褐色・黄褐色シルトを粒状に含む。炭化物・焼土が少し混じる。

カマド カマドa（新）：両袖残存、焚口の焼け面あり、カマド地業あり

カマドb（中）・c（古）：袖残存せず、焚口の焼け面あり、カマド地業あり

床の状態 床面西側2箇所に焼土面あり、西南部に炭化物の集中あり、北東辺に周溝あり、床構築土あり

出土遺物（第82～87・93図、第10・12表）土師器杯・高台付杯・甕・小形甕・砂底甕・墨書土器「山？」・刻書土器「体？」、須恵器杯・甕・小形甕・大甕・長頸瓶・小形瓶、あかやき土器杯・高台付杯・甕・小形甕、土製品（土錘）、砥石、敲石、鉄製品（刀子・足金物・鉄滓）、炭化材

時期 平安時代（9世紀後葉）

RA565d（第28図）

位置 調査区北西部 **重複関係** RA565a・b・c（新）、RG467（新） **平面形** 隅丸方形？

規模 東西7.5m、南北6.7m、検出面からの深さ0.3m、RA565a・b・cより東壁が約0.3m東にずれた位置となる

カマド方向 E65°S、東カマド、長い煙道（トンネル状、1.05m） **柱穴** ビット1口

埋土 3層に大別される

A層：黒褐色土主体。黄褐色シルトを粒状に少し含む、灰白色火山灰が少し混じる。

B層：褐色シルト主体。黒褐色土を粒状に含む。

J層：カマド崩壊土。黒色・黒褐色土主体。黒色土・暗褐色土・褐色シルト・黄褐色シルトを粒～塊状に多く含む。炭化物が少し混じる。

カマド 袖残存せず、焚口の焼け面なし **床の状態** RA565a・b・cによりほとんど残存せず

出土遺物 土師器甕、あかやき土器杯

時期 平安時代（9世紀後葉）

RA566（第29図）

位置 調査区北西部（北半部を第39次調査でRA533として精査） **重複関係** RD1081（新）

平面形 隅丸方形

規模 北西～南東2.7m以上（調査区外）、北東～南西3.3m以上（調査区外）、検出面からの深さ0.4m

カマド方向 不明

埋土 5層に大別される

A層：黒褐色土主体。褐色シルトを筋～粒状に含む。

B層：黒褐色土主体。黒色・褐色・明赤褐色シルトを粒状に含む。

C層：黒褐色土主体。褐色シルトを粒状に含む。

D層：暗褐色土主体。褐色シルトを粒～塊状に含む。

L層：床構築土。褐色土主体。黒褐色土を筋～粒状に多く含む。

床の状態 床構築土あり

出土遺物（第88図、第11表）土師器杯・甕・小形甕・砂底甕、須恵器杯・甕・小形甕・大甕・長頸瓶、

あかやき土器坏・小形甕、砥石

時期 平安時代（9世紀中葉）

RA567（第30図）

位置 調査区北西部 重複関係 RG424（新） 平面形 隅丸長方形？

規模 南北4.9m以上，東西1.1m以上，検出面からの深さ0.3～0.4m カマド方向 不明

埋土 3層に大別される

A層：黒褐色土主体。褐色シルトを粒状に含む。

B層：黒褐色土主体。褐色シルトを粒状に含む。

L層：床構築土。褐色シルト主体。黒褐色・黄褐色土を粒状に少し含む。

床の状態 床構築土あり

出土遺物（第88図，第11表） 土器器坏・甕，須恵器坏・大甕・小形甕・長頸瓶，あかやき土器坏

時期 平安時代（9世紀中葉）

RA568（第31図）

位置 調査区中央部 重複関係 ビット（新） 平面形 隅丸方形

規模 東西3.7m，南北3.1m以上（調査区外），検出面からの深さ0.05～0.1m

カマド方向 W40°N，西カマド，長い煙道（1.4m）

埋土 3層に大別される

A層：黒褐色土主体。褐色シルトを粒状に含む。

J層：カマド崩壊土。黒褐色・暗褐色土主体。褐色シルトを粒～塊状に多く含む，焼土・炭化物が少し混じる。

L層：床構築土。褐色シルト主体。黒褐色土を塊状に多く含む。

カマド 両袖残存，焚口の焼け面あり 床の状態 床面北西部に硬化面あり，床構築土あり

出土遺物 土器器坏・甕，須恵器坏・大甕，あかやき土器坏・甕，土製品（フイゴ羽口）

時期 平安時代（9世紀）

RA569a・b（第32図）

位置 調査区北西部 重複関係 RG424（新）・475（新），ビット（新） 平面形 隅丸方形

規模 東西2.3m，南北2.4m，検出面からの深さ0.1～0.15m

カマド方向 カマドa：W55°N，西カマド，長い煙道（1.4m，西辺中央北寄り）

カマドb：E41.0°S，南東カマド，長い煙道（1.15m，南東角から）

埋土 5層に大別される

A層：黒色・黒褐色土主体。褐色土を粒状に含む。

B層：黒褐色土主体。褐色土を粒状に含む。

J層：カマドa崩壊土。黒褐色土主体。褐色シルトを粒状に含む，J2層に焼土・炭化物が少し混じる。

J'層：カマドb崩壊土。黒褐色土・褐色シルト主体。黒褐色土・褐色シルトを粒状に含む。

L層：床構築土。黄褐色シルト主体。黒褐色土を塊状に含む。

カマド 袖残存せず、焚口の焼け面なし **床の状態** 床構築土あり

出土遺物 (第89図, 第11表) 土師器環・高台付環・甕・小形甕, 須恵器環・甕, あかやき土器環・小形甕
時期 平安時代 (9世紀中葉)

RA570a・b (第33図)

位置 調査区南東部

重複関係 RA576 (新), RD1087 (新)・1088 (新)・1095 (新), ビット (新)

平面形 隅丸方形 **規模** 南北5.5m, 東西5.3m, 検出面からの深さ0.05～0.1m

カマド方向 カマドa: N5.0° E, 北カマド, 長い煙道 (1.1m)

カマドb: W22.5° S, 西カマド, 長い煙道 (0.75m以上, RD1087に重複)

柱穴 ビット2口

埋土 5層に大別される

A層: 暗褐色土主体。黒褐色・褐色土を粉～粒状に含み, 径3～5cmの礫が少し混じる。

B層: 周溝埋土。暗褐色土主体。黒褐色土を粉状に含み, 砂礫が多く混じる。

J層: カマドa崩壊土。暗褐色・褐色土主体。黒褐色・暗褐色・褐色土を粉～粒状に含む。焼土・炭化物が少し混じる。

J'層: カマドb崩壊土。黒褐色・暗褐色土主体。黒褐色・暗褐色・褐色土を多く含む。赤褐色焼土粒・炭化物粒が少し混じる。

L層: 床構築土。褐色シルト主体。黒褐色土を少し含み, 礫が多く混じる。

カマド 袖残存せず、焚口の焼け面なし **床の状態** 東辺と南辺の一部に周溝あり, 床構築土あり

出土遺物 (第89・93図, 第12・13表) 土師器環・甕, 須恵器環・甕, あかやき土器環・小形甕, 鉄製品 (手鎌)
時期 平安時代 (9世紀前葉～中葉)

RA571 (第34図)

位置 調査区南東部 **重複関係** ビット (新)

平面形 隅丸方形 **規模** 南北4.5m, 東西4.4m, 検出面からの深さ0.1～0.2m

柱穴 ビット1口

埋土 3層に大別される

A層: 黒褐色土主体。暗褐色・にぶい黄褐色土を粉状に含み, 明赤褐色焼土粒・炭化物粒がわずかに混じる。径3～10cmの礫が少し混じる。

B層: 黒褐色土主体。にぶい黄褐色・褐色土を粉状に含み, 礫が混じる。

C層: 暗褐色・褐色土主体。黒褐色土を粉状に含む。明赤褐色焼土が粉～粒状に混じる。

床の状態 床面東部に一括土器, 床構築土なし

出土遺物 (第90図, 第11表) 土師器環・高台付環・甕・小形甕, 須恵器環・甕, あかやき土器環・甕, 砥石
時期 平安時代 (9世紀)

RA572 (第35図)

位置 調査区南東部 **平面形** 隅丸方形

規模 南北 4.0 m, 東西 4.3 m, 検出面からの深さ 0.2 ~ 0.25 m

カマド方向 N19.0° W, 北カマド, 長い煙道 (2.05 m) **柱穴** ビット 3口

埋土 4層に大別される

A層: 黒褐色土主体。褐色シルトを粒状に少し含む。灰白色火山灰が少し混じる。礫が少し混じる。

B層: 黒褐色土主体。黒褐色土を粒状に少し含む。礫が多く混じる。

J層: カマド崩壊土。黒褐色・暗褐色土主体。黒褐色・暗褐色・褐色土を粒~塊状に含む。J 1層に焼土・炭化物が少し混じる。

L層: 床構築土。黒褐色土主体。褐色シルトを塊状に含む。

カマド 両袖残存, 焚口の焼け面あり **床の状態** 床構築土あり

出土遺物 (第 90 図, 第 11 表) 土師器坏・甕・小形甕, 須恵器坏・甕・大甕・墨書土器「志?」, あかやき土器坏, 砥石

時期 平安時代 (9世紀前葉~中葉)

RA573 (第 36 図)

位置 調査区南東部

重複関係 RA574 (古), RD1091 (新)・1092 (新)・1097 (新), RG474 (新), ビット (新)

平面形 隅丸方形 **規模** 北東-南西 3.6 m, 北西-南東 3.15 m, 検出面からの深さ 0.2 m

柱穴 ビット 3口

埋土 3層に大別される

A層: 黒褐色・暗褐色土主体。褐色・黄褐色シルトを紛~粒状に含む。A 1層に灰白色火山灰が少し混じり, A 2層に炭化物が少し混じる。

B層: 黒褐色土主体。褐色シルトを粒状に含む。炭化物・焼土が少し混じる。

L層: 床構築土。黒褐色土主体。褐色シルトを粒状に含む。炭化物・焼土が少し混じる。

床の状態 床面北東部に一括土器, 床構築土あり

出土遺物 (第 91 図, 第 11 表) 土師器坏・高台付坏・甕・小形甕, 須恵器坏・甕, あかやき土器坏・高台付坏, 砥石

時期 平安時代 (9世紀中葉)

RA574 (第 36 図)

位置 調査区南東部 **重複関係** RA573 (新) **平面形** 隅丸方形? (調査区外)

規模 北東-南西 2.7 m, 北西-南東 1.2 m以上 (調査区外), 検出面からの深さ 0.1 m

埋土 2層に大別される

A層: 黒褐色土主体。褐色シルトを粒状に含む。焼土・炭化物が少し混じる。

L層: 黒褐色土主体。褐色シルトを粒~塊状に多く含む。

床の状態 床構築土あり

出土遺物 土師器坏・甕, 須恵器坏, あかやき土器甕, 砥石 **時期** 平安時代 (9世紀)

RA575 (第37図)

位置 調査区北西部 **重複関係** RD1098 (新), RG042 (新), ビット (新)

平面形 隅丸方形? (調査区外)

規模 南北4.7m以上 (調査区外), 東西1.95m以上 (RG042と重複), 検出面からの深さ0.15~0.2m

柱穴 ビット6口

埋土 3層に大別される

A層: 黒褐色土主体。褐色・黄褐色シルトを粒状に含む。

B層: 暗褐色土主体。褐色シルトを含む。

L層: 床構築土。黒褐色土主体。褐色シルトを粉状に多く含む。炭化物がわずかに混じる。

床の状態 床構築土あり

出土遺物 (第91図, 第11表) 土師器坏・甕, 須恵器坏・甕・長頸瓶, あかやき土器坏・高台付坏

時期 平安時代 (9世紀)

RA576 (第38図)

位置 調査区南東部

重複関係 RD1088 (新)・1108 (新)・1109 (新), RG473 (新), ビット (新)

平面形 隅丸長方形 **規模** 北西-南東3.5m, 北東-南西4.3m, 検出面からの深さ0.05~0.1m

柱穴 ビット1口

埋土 2層に大別される

A層: 黒褐色土主体。黄褐色シルトを塊状に多く含む。焼土が多く, 炭化物が少し混じる。

L層: 床構築土。暗褐色土主体。褐色シルトを粉状に含む。炭化物粒が多く混じる。

床の状態 床構築土あり **時期** 平安時代 (9世紀)

RA577 (第36図)

位置 調査区南東部 **平面形** 煙道のみ, 不明 (調査区外) **規模** 不明

カマド方向 E25°S, 東カマド, 長い煙道 (1.05m以上, 調査区外)

埋土 A層: 黒褐色土主体。褐色・黄褐色・明赤褐色シルトを粒~塊状に含む。

出土遺物 土師器甕 **時期** 平安時代 (9世紀)

・掘立柱建物跡

RB049 (第39図)

位置 調査区北西部

重複関係 RB050・051, RC003, RD1086・1101・1114, RG469・470・471・472・476

構造 東西桁行6間・南北梁行5間, 総柱 **棟方向** 東西棟, E50°N

規模 桁行-総長121m, 柱間北側西から14m+21m+22m+22m+21m+21m

梁行-総長91m, 柱間東側北から13m+20m+22m+22m+09m

柱掘方

	掘方 1	掘方 2	掘方 3	掘方 4	掘方 5	掘方 6
直径 (m)	0.4	0.35	0.35	0.6 ~ 0.75	0.6	0.4 ~ 0.5
深さ (m)	0.3	0.3	0.1	0.35	0.4	0.3
平面形	不整形	不整形	不整形	不整形	不整形	不整形
柱痕跡	なし	なし	なし	あり	あり	あり

	掘方 7	掘方 8	掘方 9	掘方 10	掘方 11	掘方 12
直径 (m)	0.3 ~ 0.35	0.45 ~ 0.5	0.4 ~ 0.5	0.4	0.5 ~ 0.6	0.5
深さ (m)	0.35	0.35	0.5	0.2	0.45	0.35
平面形	不整形	不整形	不整形	不整形	不整形	不整形
柱痕跡	あり	あり	なし	なし	なし	あり

	掘方 13	掘方 14	掘方 15	掘方 16	掘方 17	掘方 18
直径 (m)	0.4	0.55	0.6	0.4	0.3 ~ 0.4	0.5
深さ (m)	0.3	0.45	0.4	0.5	0.3	0.35
平面形	不整形	不整形	不整形	不整形	不整形	不整形
柱痕跡	なし	あり	なし	なし	なし	あり

	掘方 19	掘方 20	掘方 21	掘方 22	掘方 23	掘方 24
直径 (m)	0.3 ~ 0.4	0.4	0.55 ~ 0.6	0.3 ~ 0.35	0.4 ~ 0.5	0.45 ~ 0.55
深さ (m)	0.3	0.45	0.3	0.3	0.4	0.4
平面形	不整形	不整形	不整形	不整形	不整形	不整形
柱痕跡	なし	なし	あり	なし	あり	あり

	掘方 25	掘方 26	掘方 27	掘方 28	掘方 29	掘方 30
直径 (m)	0.3 ~ 0.4	0.35 ~ 0.4	0.7 ~ 0.8	0.6 ~ 1.15	0.6 ~ 0.7	0.4
深さ (m)	0.35	0.45	0.45	0.45	0.4	0.3
平面形	不整形	不整形	不整形	不整形	不整形	不整形
柱痕跡	なし	なし	なし	なし	なし	なし

	掘方 31	掘方 32	掘方 33
直径 (m)	0.35 ~ 0.4	0.4 ~ 0.5	0.5 ~ 0.55
深さ (m)	0.2	0.3	0.3
平面形	不整形	不整形	不整形
柱痕跡	あり	なし	なし

出土遺物 (第93図, 第12表) 土師器坏・甕, 須恵器坏, あかやき土器坏破片, 棒状鉄製品 (掘方23), 鉄釘?
(掘方23)

時期 中世

R B O 5 0 (第40図)

位置 調査区北西部

重複関係 R B 0 4 9・0 5 1, R D 1 0 8 9, R G 4 6 9・4 7 0・4 7 2・4 7 6

構造 南北桁行5間・東西梁行2間

棟方向 南北棟, N3.0° W

規模 桁行-総長12.7 m, 柱間西側北から2.8 m + 2.4 m + 2.7 m + 2.5 m + 2.3 m

梁行-総長4.7 m, 柱間北側西から2.3 m + 2.4 m

柱掘方

	掘方 1	掘方 2	掘方 3	掘方 4	掘方 5	掘方 6
直径 (m)	0.4 ~ 0.5	0.3	0.35	0.4 ~ 0.6	0.25 ~ 0.3	0.3 ~ 0.45
深さ (m)	0.2	0.2	0.3	0.3	0.45	0.4
平面形	不整形円形	不整形円形	不整形円形	不整形楕円形	不整形円形	不整形楕円形
柱痕跡	なし	なし	なし	なし	なし	なし

	掘方 7	掘方 8	掘方 9
直径 (m)	0.4	0.35	0.3
深さ (m)	0.3	0.35	0.25
平面形	不整形円形	不整形円形	不整形円形
柱痕跡	なし	なし	あり

出土遺物 土師器甕, あかやき土器坏破片

時期 中世

R B O 5 1 (第40図)

位置 調査区北西部

重複関係 R A 5 6 9, R B 0 4 9・0 5 0, R C 0 0 3, R G 4 2 4・4 7 5

構造 南北桁行7間・東西梁行2間?の身舎に, 東側1間の廂または下屋が付く

棟方向 南北棟, N0.5° W

規模

身舎: 桁行-総長15.0 m, 柱間東側北から2.4 m + 2.1 m + 2.0 m + 2.4 m + 2.0 m + 2.1 m + 2.0 m

梁行-総長4.2 m?, 柱間2.1 m等間?

廂: 桁行-総長15.0 m, 柱間東側北から2.2 m + 2.2 m + 2.2 m + 2.3 m + 1.6 m + 2.5 m + 2.0 m

梁行-柱間1.2 m

柱掘方

	掘方 1	掘方 2	掘方 3	掘方 4	掘方 5	掘方 6
直径 (m)	0.3	0.3 ~ 0.4	0.25 ~ 0.3	0.3	0.3 ~ 0.35	0.3
深さ (m)	0.3	0.3	0.4	0.35	0.35	0.4
平面形	不整形	不整形	不整形	不整形	不整形	不整形
柱痕跡	なし	なし	なし	なし	あり	なし

	掘方 7	掘方 8	掘方 9	掘方 10	掘方 11	掘方 12
直径 (m)	0.45 ~ 0.5	0.3 ~ 0.35	0.4	0.3 ~ 0.35	0.3	0.3
深さ (m)	0.3	0.15	0.3	0.3	0.15	0.3
平面形	不整形	不整形	不整形	不整形	不整形	不整形
柱痕跡	あり	なし	なし	なし	なし	なし

	掘方 13	掘方 14	掘方 15
直径 (m)	0.4 ~ 0.5	0.3 ~ 0.35	0.4 ~ 0.5
深さ (m)	0.35	0.35	0.5
平面形	不整形	不整形	不整形
柱痕跡	あり	あり	なし

出土遺物 土師器坏・甕, 須恵器坏, あかやき土器坏破片 時期 中世

R B O 5 2 (第 41 図)

位置 調査区北西部 重複関係 R E O 5 7 (古) 構造 南北桁行 2 間・東西梁行 2 間, 総柱?

棟方向 南北棟, N0°

規模 桁行-総長 3.3 m (11 尺), 柱間 1.65 m (5.5 尺) 梁行-総長 3.3 m (11 尺), 柱間 1.65 m (5.5 尺)

柱掘方

	掘方 1	掘方 2	掘方 3	掘方 4	掘方 5	掘方 6
直径 (m)	0.5 ~ 0.55	0.6	0.4 ~ 0.45	0.5	0.5 ~ 0.75	0.6
深さ (m)	0.45	0.4	0.45	0.5	0.4	0.5
平面形	不整形	不整形	不整形	不整形	不整形	不整形
柱痕跡	なし	なし	なし	なし	なし	なし

	掘方 7	掘方 8	掘方 9
直径 (m)	0.45 ~ 0.6	0.4	0.5
深さ (m)	0.3	0.3	0.45
平面形	不整形	不整形	不整形
柱痕跡	なし	なし	なし

出土遺物 土師器甕破片 時期 中世

R B O 5 3 (第 41 図)

位置 調査区中央部 構造 南北桁行 2 間・東西梁行 1 間

棟方向 南北棟, N4.5° W

規模 桁行-総長 3.6 m, 柱間北から 2.2 m + 1.4 m 梁行-柱間 1.55 m

柱掘方

	掘方 1	掘方 2	掘方 3	掘方 4	掘方 5	掘方 6
直径 (m)	0.35 ~ 0.4	0.3	0.35	0.3 ~ 0.35	0.35	0.25 ~ 0.4
深さ (m)	0.1	0.3	0.2	0.2	0.15	0.2
平面形	不整形円形	不整形円形	不整形円形	不整形円形	不整形円形	不整形楕円形
柱痕跡	なし	なし	なし	なし	なし	なし

出土遺物 土師器甕, あかやき土器坏破片 時期 中世

・柱列跡

R C O 0 3 (第 39 図)

位置 調査区北西部 重複関係 R B O 4 9・0 5 1 構造 南北桁行 4 間

桁行方向 N1.5° W

規模 桁行-総長 9.5 m, 柱間北から 2.1 m + 2.2 m + 2.9 m + 2.3 m

柱掘方

	掘方 1	掘方 2	掘方 3	掘方 4	掘方 5
直径 (m)	0.4	0.5	0.35 ~ 0.4	0.35 ~ 0.4	0.3
深さ (m)	0.3	0.3	0.2	0.3	0.3
平面形	不整形円形	不整形円形	不整形円形	不整形円形	不整形円形
柱痕跡	あり	なし	あり	なし	あり

出土遺物 土師器坏・甕, 須恵器甕, あかやき土器坏破片 時期 中世

・竪穴状遺構

R E O 5 7 (第 42 図)

位置 調査区中央部 重複関係 ビット (新) 平面形 隅丸方形

規模 北東-南西 1.9 m, 北西-南東 2.15 m, 検出面からの深さ 0.12 m

埋土 A層: 暗褐色土主体。褐色シルトを粒状に少し含む。

B層: 暗褐色土主体。褐色シルトを粒状に多く含む。

出土遺物 土師器甕, あかやき土器坏

R E O 5 8 (第 43 図)

位置 調査区南東部 重複関係 ビット (新) 平面形 不整形

規模 北西-南東 2.85 m, 北東-南西 2.7 m, 検出面からの深さ 0.08 m

埋土 A層: 黒褐色土主体。褐色シルトを粒状にわずかに含む。

RE059 (第42図)

位置 調査区中央部 **平面形** 不整形? (調査区外)

規模 東西 1.95 m, 南北 1.15 m以上 (調査区外), 検出面からの深さ 0.15 ~ 0.2 m

埋土 A層: 黒褐色土主体。暗褐色土・褐色シルトを粒状に含む。

B層: 黒褐色土主体。褐色シルトを粒状に含む

出土遺物 土師器環・甕・小形甕, 須恵器環, あかやき土器環

RE060 (第44図)

位置 調査区南東部 **平面形** 隅丸方形

規模 東西 4.0 m, 南北 3.25 m, 検出面からの深さ 0.1 ~ 0.2 m

埋土 A層: 黒褐色土主体。黒褐色・褐色シルトを粉状に含み, 砂礫が混じる。

L層: 黒褐色土主体。褐色シルトを塊状に含み, 礫が非常に多く混じる。

床の状態 床構築土あり **柱穴** ビット4口

出土遺物 土師器環・甕, 須恵器環・甕, あかやき土器環, 砥石, 鉄製品(鉄釘)

・土坑

RD1077 (第46・51図)

位置 調査区北西部 **重複関係** RD1084 (古), RD1085 (古) **平面形** 不整形円形

規模 長軸 1.1 m・短軸 0.9 m, 検出面からの深さ 0.5 m

埋土 A層: 黒褐色土主体。褐色・黄褐色シルトを粒状に含む。A2層に土器が多く混じる。

B層: 黒褐色土主体。褐色シルトを粒~塊状に多く含む。

出土遺物 (第92図, 第11表) 土師器環・高台付環・甕・小形甕, 須恵器環・甕, あかやき土器環・高台付環

RD1078 (第46・51図)

位置 調査区北西部 **平面形** 不整形円形 **規模** 径 0.8 ~ 0.85 m, 検出面からの深さ 0.4 m

埋土 A層: 黒褐色土主体。褐色シルトを粒状に含む。 **出土遺物** 土師器甕

RD1079 (第45・51図)

位置 調査区北西部 **平面形** 不整形円形 **規模** 径 1.1 ~ 1.2 m, 検出面からの深さ 0.4 m

埋土 A層: 黒褐色・暗褐色土主体。褐色・明黄褐色シルトを粒~塊状に含む。A1層に礫が多く混じる。

出土遺物 土師器甕, 須恵器甕, あかやき土器環

RD1080 (第45・51図)

位置 調査区北西部 **平面形** 不整形円形 **規模** 長軸 1.35 m, 短軸 0.9 m, 検出面からの深さ 0.6 m

埋土 A層: 黒色・黒褐色土主体。褐色シルトを粒状に含み, 礫が多く混じる。

出土遺物 土師器坏・甕、須恵器甕、あかやき土器坏

RD1081 (第45・51図)

位置 調査区北西部 **重複関係** RA566 (古) **平面形** 不整楕円形

規模 長軸1.6m、短軸1.2m、検出面からの深さ0.4m

埋土 A層：黒褐色土主体。褐色シルトを粒状に多く含む。

出土遺物 土師器坏・甕、須恵器坏、あかやき土器坏

RD1084 (第46・51図)

位置 調査区北西部 **重複関係** RD1077 (新)、RD1085 (古) **平面形** 不整円形

規模 径約0.9m、検出面からの深さ0.45m

埋土 A層：黒褐色土主体。褐色土を粒状に含む。炭化物が少し、焼土が多く混じる。土器が多く混じる。

B層：黒褐色土主体。黒褐色・褐色土を粒～塊状に含む。

出土遺物 土師器坏・甕、須恵器坏・甕、あかやき土器坏、土製品（土鍾）、砥石

RD1085 (第46・51図)

位置 調査区北西部 **重複関係** RD1077 (新)、RD1084 (新) **平面形** 不整楕円形

規模 長軸1.6m、短軸約1.0m、検出面からの深さ0.45m

埋土 A層：黒褐色土主体。褐色シルトを粒状に少し含む。

B層：黒褐色土主体。褐色シルトを塊状に含む。

C層：黒褐色土主体。褐色シルトを塊状に多く含む、炭化物・焼土が多く混じる。土器が多く混じる。

出土遺物 土師器坏・甕・小形甕・球胴甕

RD1086 (第47・51図)

位置 調査区北西部 **重複関係** RG471、RG472 (新)、RB049 **平面形** 隅丸長方形

規模 長辺2.2m、短辺1.1m、検出面からの深さ0.25m

埋土 A層：黒褐色土主体。黒褐色土・褐色シルトを粒状に含む。A1層に炭化物が少し混じる。

B層：黒褐色土主体。褐色シルトを粒状に含む。

出土遺物 (第94図、第12表) 土師器坏・甕・小形甕・砂底土器、須恵器坏・甕・大甕、あかやき土器坏、砥石

RD1087 (第48・51図)

位置 調査区南東部 **重複関係** RA570 (古)、RG473 (古)

平面形 不整円形

規模 径1.05～1.1m、検出面からの深さ0.4m

埋土 A層：黒褐色土主体。褐色シルトを粒状に含む。

B層：黒褐色土主体。褐色シルトを塊状に含む。

出土遺物 土師器甕

RD1088 (第48・51図)

位置 調査区南東部 **重複関係** RA570 (古), ビット **平面形** 隅丸方形

規模 一辺2.7m, 検出面からの深さ0.6～0.65m

埋土 A層: 黒褐色・暗褐色土主体。褐色・暗褐色土を紛～粒状に多く含む。明赤褐色焼土粒, 炭化物粒, 径2～5cmの礫が混じる。

B層: 黒褐色・暗褐色シルト主体。黒褐色・暗褐色・褐色シルトを紛～粒状に含む。明赤褐色焼土粒, 炭化物粒が混じる。

C層: 黒褐色シルト主体。暗褐色・褐色シルトを粒状に含む。炭化物・焼土が粒状に混じり, 砂礫が少し混じる。

D層: 黒褐色シルト主体。褐色シルトを粒状に含む, 焼土・炭化物が粒状に少し混じる。

出土遺物 (第93・103図, 第12・18表) 土師器坏・甕, 須恵器坏・甕・大甕, あかやき土器坏, 土製品 (フイゴ羽口), 鉄製品 (鉄釘・棒状鉄製品), 古瀬戸瓶子, 中国青磁香炉, 中国白磁碗, 古銭 (大観通寶・天聖元寶), 馬歯骨

時期 中世 (13～14世紀)

RD1089 (第51・52図)

位置 調査区南東部 **平面形** 不整形円形

規模 径1.1m, 検出面からの深さ0.35～0.4m

埋土 A層: 黒褐色土主体。褐色シルトを粒状に含む。

出土遺物 (第92図, 第11表) 土師器坏・甕, 須恵器坏

RD1090 (第50・51図)

位置 調査区南東部 **重複関係** RG474 (新) **平面形** 不整形円形

規模 径1.2m, 検出面からの深さ0.2m

埋土 A層: 黒褐色土主体。褐色シルトを粒状に含む。A1層に礫が多く混じる。

B層: 黒褐色土主体。褐色シルトを粒状に多く含む。

出土遺物 あかやき土器坏

RD1091 (第50・51図)

位置 調査区南東部 **重複関係** RA573 (古), RG474 (新) **平面形** 不整形円形

規模 長軸0.95m, 短軸0.75m, 検出面からの深さ0.45m

埋土 A層: 黒褐色シルト主体。黒褐色土・褐色シルトを粒状に含む。A3層に礫が多く混じる。

出土遺物 土師器坏, 須恵器坏

RD1092 (第50・51図)

位置 調査区南東部 **重複関係** RA573 (古) **平面形** 不整形円形

規模 長軸2.3m, 短軸2.0m, 検出面からの深さ0.15m

埋土 A層: 黒褐色土主体。褐色シルトを粒状に含む。

出土遺物 (第92図, 第11表) 土師器甕, 須恵器坏・大甕, あかやき土器坏

RD1093 (第50・51図)

位置 調査区南東部 **平面形** 不整楕円形 **規模** 長軸 1.45 m, 短軸 1.2 m, 検出面からの深さ 0.45 m

埋土 A層: 黒褐色土主体。暗褐色土・褐色シルトを紛~粒状に含む。A1層に礫が多く混じる。A2層に
焼土・礫が多く混じる。

出土遺物 須恵器甕

RD1094 (第50・51図)

位置 調査区南東部 **平面形** 不整楕円形

規模 長軸 1.0 m, 短軸 0.65 m, 検出面からの深さ 0.1 m

埋土 A層: 暗褐色土主体。褐色シルトを粒状に含む。

出土遺物 (第92図, 第11表) 須恵器大甕

RD1095 (第48・51図)

位置 調査区南東部 **重複関係** RA570 (新), ビット **平面形** 不整楕円形

規模 長軸 1.3 m, 短軸 0.9 m, 検出面からの深さ 0.15 m

埋土 A層: 黒褐色土主体。黒褐色土・褐色シルトを粒状に含む。炭化物が少し混じる。

出土遺物 古銭破片

RD1096 (第50・51図)

位置 調査区南東部 **平面形** 不整楕円形 **規模** 長軸 1.2 m, 短軸 0.7 m, 検出面からの深さ 0.35 m

埋土 A層: 黒褐色シルト主体。黒褐色土・褐色シルトを粒状に含む。

B層: 黄褐色シルト主体。黒褐色土を塊状に多く含む。

出土遺物 土師器坏・あかやき土器坏

RD1097 (第50・51図)

位置 調査区南東部 **重複関係** RA573 (古), RG474 (新) **平面形** 不整楕円形

規模 長軸 0.95 m以上, 短軸 0.65 m, 検出面からの深さ 0.25~0.3 m

埋土 A層: 黒褐色土主体。黒褐色土を紛状に含み, A1層に焼土が少し混じる。

RD1098 (第45・51図)

位置 調査区北西部 **重複関係** RA575, RG042 (新)

平面形 不整円形

規模 径 0.9 m, 検出面からの深さ 0.1 m

埋土 A層: 黒褐色土主体。褐色シルトを粒~塊状に多く含む。

出土遺物 須恵器甕, あかやき土器坏

RD1099 (第45・51図)

位置 調査区北西部 **平面形** 不整形円形 **規模** 径0.9m, 検出面からの深さ0.1m

埋土 A層: 黒褐色土主体。黄褐色シルトを粒～塊状に多く含む。

RD1100 (第46・51図)

位置 調査区北西部 **平面形** 不整形円形 **規模** 径1.15～1.2m, 検出面からの深さ0.4m

埋土 A層: 黒褐色土主体。褐色シルトを粒状に含む。A1層に炭化物が少し。A2層に炭化物・焼土が少し混じる。

B層: 黒褐色・暗褐色土主体。黒褐色土・暗褐色土・褐色シルトを粒～塊状に含む。

出土遺物 土師器甕, 須恵器杯, あかやき土器杯

RD1101 (第47・51図)

位置 調査区北西部 **重複関係** RB049, RD1086, RG471 **平面形** 不整形円形

規模 長軸0.9m以上, 短軸0.75m, 検出面からの深さ0.1m

埋土 A層: 黒褐色土主体。褐色シルトを粒状に多く含む。

RD1102 (第50・51図)

位置 調査区南東部 **平面形** 不整形円形

規模 長軸0.95m, 短軸0.6m, 検出面からの深さ0.4～0.45m

埋土 A層: 黒褐色土・褐色シルト主体。褐色シルト・黒褐色土を粒～塊状に含む。

RD1103 (第50・51図)

位置 調査区南東部 **平面形** 不整形円形 **規模** 径0.75～0.85m, 検出面からの深さ0.1m

埋土 A層: 黒褐色土主体。褐色シルトを粒状に含む。

出土遺物 土師器杯・甕, 須恵器杯, あかやき土器杯

RD1104 (第46・51図)

位置 調査区北西部 **平面形** 不整形円形

規模 長軸1.35m, 短軸0.7m, 検出面からの深さ0.05～0.1m

埋土 A層: 黒褐色土主体。黄褐色シルトを粒状に多く含む。焼土が少し混じる。

出土遺物 土師器杯・甕, 須恵器杯, あかやき土器杯

RD1105 (第46・51図)

位置 調査区北西部 **平面形** 不整形円形 **規模** 径0.55～0.6m, 検出面からの深さ0.08m

埋土 A層: 黒褐色土主体。褐色シルトを粒状に含む。焼土が少し混じる。

RD1106 (第48・51図)

位置 調査区南東部 **重複関係** RG473 (新) **平面形** 不整形円形

規模 長軸 1.5 m 以上、短軸 0.8 m、検出面からの深さ 0.15 m

埋土 A層：黒褐色土主体。黄褐色シルトを粒状に多く含む。 **出土遺物** 土師器坏・甕

RD1107 (第46・51図)

位置 調査区北西部 **平面形** 不整長円形

規模 長軸 1.9 m 以上 (調査区外)、短軸 0.9 m、検出面からの深さ 0.2 m

埋土 A層：黒褐色土主体。黒褐色・褐色土を粒状に含む。A1層に焼土・炭化物が少し、A2層に炭化物が少し混じる。

出土遺物 土師器坏・甕、須恵器坏、あかやき土器坏

RD1108 (第48・51図)

位置 調査区南東部 **重複関係** RA576 (古) **平面形** 不整楕円形

規模 長軸 1.15 m、短軸 1.0 m、検出面からの深さ 0.1～0.15 m

埋土 A層：黒褐色土主体。黄褐色シルトを粒状に含む。

出土遺物 (第92図、第11表) 土師器坏・甕、須恵器大甕

RD1109 (第48・51図)

位置 調査区南東部 **重複関係** RA576 (古) **平面形** 不整楕円形

規模 長軸 1.25 m、短軸 0.85 m、検出面からの深さ 0.25 m

埋土 A層：黒褐色土主体。黄褐色シルトを粒状に含む。

RD1110 (第48・51図)

位置 調査区南東部 **平面形** 隅丸長方形

規模 長辺 1.5 m、短辺 1.25 m、検出面からの深さ一段目 0.4 m、二段目 0.55 m

埋土 A層：黒褐色土主体。黒褐色土・褐色シルトを紛～粒状に含む。A3層に炭化物が少し、礫が多く混じる。

RD1111 (第46・51図)

位置 調査区北西部 **平面形** 不整楕円形 **規模** 長軸 1.5 m、短軸 0.95 m、検出面からの深さ 0.45 m

埋土 A層：黒褐色土主体。褐色シルトを粉状に含み、炭化物が粒～塊状に混じる。土器が混じる。

B層：暗褐色土主体。褐色シルトを粉状に含む。炭化物・土器が混じる。

C層：黒褐色・暗褐色・褐色土主体。黒褐色・暗褐色・褐色シルトを粉状に含む。

D層：褐色土主体。黒褐色・暗褐色土シルトを粉状に含む。

出土遺物 土師器坏・甕、須恵器坏、あかやき土器坏

RD1112 (第50・51図)

位置 調査区南東部 **平面形** 不整長円形

規模 長軸 1.85 m、短軸 0.7 m、検出面からの深さ 0.3 m

埋土 A層：黒色・黒褐色土主体。黒褐色土を粒状に含む。A1層に礫が少し混じる。A2層に礫・炭化物

が少し混じる。

出土遺物 鉄製品（鉄釘）

RD1113（第46・51図）

位置 調査区北西部 **重複関係** RG424（新） **平面形** 不整形円形？

規模 長軸0.8m以上、短軸0.85m、検出面からの深さ0.2m

埋土 A層：黒褐色土主体。褐色シルトを粒状に多く含む。A1層に炭化物が混じる。

出土遺物 土師器甕、あかやき土器坏

RD1114（第47・51図）

位置 調査区北西部 **重複関係** RB049、RG471 **平面形** 不整形円形

規模 長軸2.8m、短軸1.65m、検出面からの深さ0.3m

埋土 A層：黒褐色土主体。褐色シルトを粒状に少し含む。

B層：黒褐色土主体。褐色シルトを粒～塊状に多く含む。

出土遺物（第93図、第12表） 土師器坏、あかやき土器坏、鉄製品（鉄釘）

・溝跡

RG042（第45・52図）

位置 調査区北西部 **重複関係** RA575（古）、RD1098（古）、RG468W（古）

規模 堀跡。幅5.4～5.5m、延長20.2m以上（調査区外）、検出面からの深さ1.5～2.0m、北北西から南南東に走る。

埋土 A層：暗褐色土主体。褐色シルト・明赤褐色土を紛～塊状に多く含む。A2層に礫が多く、A3層に礫が少し混じる。

B層：暗褐色・にぶい黄褐色土主体。褐色シルトを紛～粒状に含む。

C層：暗褐色・褐色・褐灰色土主体。黒褐色・暗褐色・褐色・褐灰色土を多く含む。C15層に明赤褐色鉄分が少し混じる。

D層：黒褐色土主体。黒褐色・褐色・黄褐色シルトを粒～塊状に含む。D1・D2層に径2～10cmの礫が多く混じる。D4層に径5～10cmの礫がやや多く混じる。

E層：褐灰色土主体。明赤褐色鉄分を粒状に含む。

F層：褐灰色土主体。黒褐色土を粒状に含む。砂礫が多く混じる。

出土遺物 土師器坏・甕、須恵器坏・甕・大甕、あかやき土器坏、瓷器系陶器捏鉢

時期 中世（13～14世紀）

RG424W（第46・52図）

位置 調査区北西部

重複関係 RA567（古）・569、RB049、RD1113、RG469・475

規模 堀跡。幅3.25～3.75m、延長23.2m以上（調査区外）、検出面からの深さ0.88m、北北西から南南東に走り、RG042と並行する。

埋土 A層：黒褐色土主体。黒褐色土を塊状に含む。

B層：黒褐色土主体。黒褐色土を粒状に少し含み、径1～4cmの礫が多く混じる。

C層：黒褐色土主体。暗褐色土を塊状に含む。焼土が多く、炭化物が少し混じる。

D層：黒褐色土主体。炭化物が塊状に非常に多く混じる。

E層：黒褐色土主体。褐色シルトを粒状に含む。E1層に径2～10cmの礫が多く混じる。E2層に径2～5cmの礫が少し混じる。

出土遺物 (第92・93図、第11・12表) 土師器坏・高台付坏・甕・小形甕、須恵器坏・甕・大甕、あかやき土器坏・高台付坏、土製品(フイゴ羽口)、敲石、鉄製品(鉄釘・棒状鉄製品・鉄滓)、中国青磁甕窯系統

時期 中世(13～14世紀)

RG424E (第49・52図)

位置 調査区南東部

規模 堀跡。幅3.6～4.1m、延長18.2m以上(調査区外)、検出面からの深さ0.97m、東西に走り、底面にピット1口あり。

埋土 A層：灰黄褐色土主体。明黄褐色シルトを粒状に多く含む。

B層：黒褐色土主体。褐色シルトを粒状に多く含む。

C層：黒色・黒褐色土主体。褐色シルトを粒状に含む。

D層：黒褐色土主体。黄褐色シルトを粒状に多く含む。

出土遺物 土師器坏・高台付坏・甕・小形甕、須恵器坏・甕・大甕、あかやき土器坏・高台付坏、土製品(フイゴ羽口)、敲石、鉄製品(鉄釘・刀子)、中国青磁甕窯系統

時期 中世(13～14世紀)

RG467 (第45・46・51図)

位置 調査区北西部 **重複関係** RA565(古)

規模 幅0.2～0.45m、延長9.4m、検出面からの深さ0.1～0.12m、西南西から東北東に走る。

埋土 A層：黒褐色土主体。暗褐色土を粒状に含む、炭化物が少し混じる。

RG468W (第45・51図)

位置 調査区北西部 **重複関係** RG042(新)

規模 幅0.45～0.5m、延長2.6m以上(調査区外)、検出面からの深さ0.07～0.1m、西南西から東北東に走る。

埋土 A層：暗褐色土主体。明黄褐色土を粒状に多く含む。

出土遺物 (第92図、第11表) 土師器坏、須恵器坏・大甕、あかやき土器坏

RG468E (第45・51図)

位置 調査区北西部 **規模** 幅0.25～0.3m、延長1.95m以上、検出面からの深さ0.06m、ほぼ東西に走る。

埋土 A層：暗褐色土主体。明黄褐色土を粒状に多く含む。

出土遺物 土師器坏、須恵器坏・甕、あかやき土器坏

RG469 (第46・51図)

位置 調査区北西部 **重複関係** RB049・050, RC003, RG424・472

規模 幅1.1～1.35m, 延長5.4m, 検出面からの深さ0.15m, 西南西から東北東に走る。

埋土 A層: 灰黄褐色土主体。褐色シルトを粒状に含む。径1～5cmの礫が混じる。

出土遺物 土師器坏・甕, あかやき土器坏

RG470 (第46・51図)

位置 調査区北西部 **重複関係** RB049・050, ビット

規模 幅0.3～0.4m, 延長2.9m以上(調査区外), 検出面からの深さ0.14m, 北北西から南南東に走る。

埋土 A層: 黒褐色土主体。褐色シルトを粒状に含む。

RG471 (第47・51図)

位置 調査区北西部 **重複関係** RD1086(古)・1114, RG472(古)

規模 幅0.25～0.5m, 延長12.7m, 検出面からの深さ0.1～0.2m, 一部カーブしながら南北に走る。

埋土 A層: 暗褐色土主体。黄褐色シルトを粒状に多く含む。

出土遺物 (第92図, 第11表) 土師器坏・甕・小形甕, 須恵器坏・甕, あかやき土器坏, 鉄製品(鉄釘)

RG472 (第46・47・51図)

位置 調査区北西部 **重複関係** RB049・050, RD1086, RG469・471, ビット

規模 幅0.65～0.85m, 延長16.6m以上(調査区外), 検出面からの深さ0.12～0.18m, 北西から南東に走る。

埋土 A層: 黒褐色土・褐色シルト主体。黒褐色土・褐色シルトを粒状に含む。

出土遺物 あかやき土器坏

RG473 (第48・51図)

位置 調査区南東部 **重複関係** RD1087(新)・1106(古)

規模 幅0.4～0.65m, 延長6.16m, 検出面からの深さ0.07～0.12m, やや蛇行しながら南北に走る。

埋土 A層: 黒褐色土主体。褐色シルトを粒状に含む。炭化物・焼土が少し混じる。

RG474 (第50・51図)

位置 調査区南東部

重複関係 RA573・574(古), RD1090(古)・1091(古)・1097(新)

規模 幅0.52～0.9m, 延長16.6m以上(調査区外), 検出面からの深さ0.15～0.2m, 北西から南東に走る。

埋土 A層: 黒褐色土主体。褐色シルトを紛～粒状に含む。

RG475 (第46・51図)

位置 調査区北西部 **重複関係** RA569, RB051, RG424

規模 幅0.65～0.85m, 延長8.0m以上(調査区外), 検出面からの深さ0.15～0.3m, 北西から南東に走る。

埋土 A層: 黒褐色・暗褐色土主体。黒褐色土・褐色シルトを粒状に含む。A1層に炭化物が少し混じる。

出土遺物 土師器甕, 須恵器坏

RG476 (第46・51図)

位置 調査区北西部 **重複関係** RB049・050

規模 幅0.6～0.75m, 延長3.15m, 検出面からの深さ0.07m, 南北に走る。

埋土 A層: 暗褐色土主体。褐色シルトを粒状に含む。

出土遺物 土師器坏, 須恵器坏, あかやき土器坏

RG477 (第49・54図)

位置 調査区北西部 **規模** 幅0.2～0.47m, 延長7.4m, 検出面からの深さ0.07～0.12m, 南北に走る。

埋土 A層: 黒褐色土主体。黄褐色シルトを粒～塊状に含む。

・ピット

調査区内に古代以降のピット194口を検出した(第45・46・47・48・49・50・52・53図)。各ピットの規模は第2・3表のとおりである。埋土より土師器坏・甕, 須恵器坏・甕, あかやき土器坏・甕の破片, 鉄製品(釘?)が出土している。

(7) 第46次調査(平成14年度)

今次調査区は, 遺跡の中央部に位置し, 盛岡南新都市開発整備事業に伴う本調査として実施した(第54図)。調査面積は33㎡。重機により表土を除去し, 遺構検出を行った。

a. 遺構と遺物

調査の結果, 奈良～平安時代の竪穴住居跡2棟(RA578・579)を検出した。

・竪穴住居跡

RA578 (第58図)

位置 調査区南東部(南西部を鼎埋文26次調査でRA441として精査) **平面形** 隅丸方形(調査区外)

規模 北西-南東5.7m以上(調査区外), 北東-南西6.3m, 検出面からの深さ0.2～0.33m

カマド方向 N23.0°W, 北西カマド, 長い煙道(1.53m)

柱穴 主柱穴1口, その他ピット1口

	Pit1
直径(m)	0.4
深さ(m)	0.67
平面形	不整形
柱痕跡	なし

貯蔵穴 床面北東隅に1基(pit2)

埋土 5層に大別される

A層: 黒褐色土主体。褐色シルトを粒状に少し含む。

B層：黒褐色土主体。褐色シルトを粒～塊状に含む。

C層：黒褐色土主体。褐色シルトを塊状に含む。

D層：黒褐色土主体。褐色シルトを粒～塊状に多く含む。

E層：黒褐色土主体。褐色シルトを粒～塊状に含む、明赤褐色土を粒状にわずかに含む。

カマド 両袖残存 **床の状態** 床面北東部に一括土器あり、床構築土あり

出土遺物 (第94・95・96図、第13・14表) 土師器非ロクロ杯・高台付杯・甕・朱彩球胴甕・小形朱彩壺、
壺、土製品(ミニチュア土器、勾玉、棒状土製品)、鉄製品(切羽)、獣骨(焼骨)

時期 奈良～平安時代(8世紀後葉～9世紀前葉)

RA579 (第56図)

位置 調査区東部 **平面形** 隅丸方形

規模 北西～南東5.1m、北東～南西5.65m、検出面からの深さ0.05m

カマド方向 N420°W、北西カマド、長い煙道(1.65m)

柱穴 主柱穴4口

	Pit1	Pit2	Pit3	Pit4
直径(m)	0.5～0.6	0.55～0.65	0.52～0.7	0.5～0.55
深さ(m)	0.53	0.48	0.55	0.62
平面形	不整楕円形	不整楕円形	不整楕円形	不整円形
柱痕跡	あり	あり	あり	あり

埋土 2層に大別される

A層：黒褐色土主体。褐色シルトを粒～塊状に多く含む。

B層：黒褐色土主体。明赤褐色シルトを粒状に含む。

カマド 袖残存せず、焚口の焼け面あり **床の状態** 床構築土あり

出土遺物 (第95図、第13表) 土師器杯・甕・長頸瓶 **時期** 奈良～平安時代(8世紀後葉～9世紀前葉)

・遺構外

遺構外より古銭(中国銭)がまとまって出土した(第104図、第18表)。完形で残存しているものは図化した12点であり、その他は欠損しているか破片となっている。完形品のうち1枚が唐銭(開元通寶)、11枚が北宋銭(祥符元寶、天聖元寶、景祐元寶?、皇宋通寶、熙寧元寶、元豊通寶?、元祐通寶、紹聖元寶)と考えられる。

(8) 第47次調査(平成14年度)

今次調査区は、遺跡の北東部に位置し、アパート新築に伴う試掘確認調査として実施した(挿図3)。調査対象面積842m²について、重機により幅約2mの試掘トレンチ4本を設定し(調査面積184m²)、表土下0.6～1.0mの黄褐～灰褐色粘土層上面で遺構・遺物の有無を確認した。その結果、当該地は過去の開田工事によって削平・盛土されていることが確認でき、果樹の根による攪乱も多く、遺構は確認されなかった。また遺物は、数片の土師器が出土したのみであり、調査対象範囲について調査終了地区とした。

(9) 第48次調査（平成14年度）

今次調査区は、遺跡の北東部に位置し、店舗建築に伴う試掘確認調査として実施した（挿図3）。調査対象面積2,068㎡について、重機により幅約2mの試掘トレンチ4本を設定し（調査面積326㎡）、表土下0.3～0.6mの褐色シルト層上面で遺構・遺物の有無を確認した。その結果、一部で既存建物基礎の攪乱・削平を受けていたものの、古代の堅穴住居跡・土坑・溝跡等が検出され、土師器・あかやき土器の破片が多く出土した。遺構の分布は、調査対象範囲の北西部で最も遺構が集中し、南東側に向かって徐々に遺構密度が薄くなっていった。そのため、遺構検出面を掘削する工事を実施する場合は本調査が必要である旨、事業主と協議を行った結果、設計変更により遺構検出面を保護する施工方法を採用する確約書が提出され、施工時に職員が立会いを行い、遺構の保護を確認した。

(10) 第49次調査（平成14年度）

今次調査区は、遺跡の南東部に位置し、アパート新築に伴う試掘確認調査として実施した（挿図3）。調査対象面積541㎡について、重機により幅約2mの試掘トレンチ2本を設定し（調査面積49㎡）、表土下0.7～0.8m褐色シルト層上面で遺構・遺物の有無を確認したが、遺構遺物は確認されず、調査対象範囲について調査終了地区とした。

(11) 第56次調査（平成17年度）

今次調査区は、遺跡の中央部に位置し、盛岡南都市開発整備事業に伴う本調査として実施した（第57図）。調査対象面積は160㎡であるが、下水道配管工事の事前着工のため調査不能範囲があり、調査面積は50㎡であった。重機により表土となる道路路盤を除去し、路盤下0.6mの暗褐色～褐色シルト層上面で遺構検出を行った。

a. 遺構と遺物

調査の結果、平安時代の土坑1基（RD2004）を検出した。

・土坑

RD2004（第57図）

位置 調査区南部 **平面形** 不整楕円形 **規模** 長軸1.0m・短軸0.8m、検出面からの深さ0.3m

埋土 A層：黒褐色・暗褐色土主体。褐色土を紛～塊状に多く含み、炭化物粒が混じる。

(12) 第57次調査（平成17年度）

今次調査区は、遺跡の西部に位置し、盛岡南都市開発整備事業に伴う本調査として実施した（第58図）。調査面積は1,047㎡。重機により表土を除去し、地表下0.3～0.5mの褐色シルト層及び砂礫層上面で遺構検出を行った。

a. 遺構と遺物

調査の結果、平安時代の竪穴住居跡 6 棟 (RA614 ~ 619)・土坑 1 基 (RD2009)、近世以降の掘立柱建物跡 2 棟 (RB054・055)・土坑 5 基 (RD2005 ~ 2008・2010)・溝跡 5 条 (RG520 ~ 524)、ピット 43 口を検出した。

・竪穴住居跡

RA614 (第59図)

位置 調査区北部 **重複関係** ピット(新) **平面形** 隅丸方形
規模 北東-南西 2.9 m、北西-南東 3.05 m、検出面からの深さ 0.15 ~ 0.2 m **柱穴** ピット 2 口
埋土 4 層に大別される
A層: 黒色・黒褐色シルト主体。褐色シルト及び黒褐色・暗褐色シルトを粉〜粒状に含み、炭化物粒がわずかに混じる。
B層: 黒褐色シルト主体。褐色シルト及び黒色土を粉状に含み、焼土粒・炭化物粒がわずかに混じる。
J層: カマド崩壊土。赤褐色シルト・黒褐色シルト主体。黒褐色土・褐色シルトを粉〜粒状に含み、赤褐色焼土粒が混じる。
L層: 床構築土。褐色シルト主体。黒褐色土を粉〜粒状に多く含み、灰白色火山灰がわずかに混じる。
床の状態 床面南西部に焼け面あり、床構築土あり
出土遺物 (第97図、第15表) 土師器環・甕、須恵器環・甕、土製品(土鍾)
時期 平安時代(9世紀後葉)

RA615 (第61図)

位置 調査区北部 **平面形** 隅丸方形
規模 南北 3.95 m、東西 3.55 m、検出面からの深さ 0.2 m
カマド方向 N95° E、北カマド、長い煙道 (L6 m) **貯蔵穴** カマド右袖脇に 1 口 (pit1)
埋土 5 層に大別される
A層: 黒褐色土主体。褐色・黒色土を粉〜粒状に含み、焼土粒がわずかに混じる。
B層: 黒色・黒褐色土主体。褐色土を粉〜塊状に多く含み、小礫が混じる。
C層: 褐色土主体。黒褐色土を粉〜粒状に含む。
J層: カマド崩壊土。黒褐色・褐色土主体。褐色・暗褐色土及び赤褐色焼土を粒〜塊状に多く含み、炭化物粒が混じる。
L層: 床構築土。褐色シルト主体。黒褐色土を粉〜粒状に含み、焼土がわずかに混じる。
カマド 両袖残存、焚口の焼け面あり **床の状態** 周溝あり、床構築土あり
出土遺物 (第97・100・105図、第15・16・18表) 土師器環・甕、須恵器環・大甕、土製品(土鍾)、鉄製品(鉄釘)、寛永通寶(攪乱)
時期 平安時代(9世紀中葉)

RA616 (第64図)

位置 調査区北部 **平面形** 不整隅丸方形
規模 東西 4.85 m、南北 4.35 m、検出面からの深さ 0.1 ~ 0.15 m

カマド方向 煙道なし **柱穴** ビット1口

埋土 4層に大別される

A層：黒褐色シルト主体。灰白色火山灰を塊状に含み、径1～5cmの礫が多く混じる。

B層：暗褐色シルト主体。黄褐色砂礫が混じる。

C層：注記なし

L層：床構築土。褐色シルト主体。黒褐色シルトを塊状に含み、礫が多く混じる。

床の状態 床面北東部と南東部に焼け面2箇所、床構築土あり

出土遺物 (第97図、第15表) 土師器坏・高台付坏・甕、須恵器坏・甕・長頸瓶、あかやき土器坏、鉄製品(刀子・鉄釘)

時期 平安時代(9世紀)

RA617 (第62図)

位置 調査区中央部 **重複関係** RD2008(新)、RD2009(新)、ビット(新)

平面形 隅丸方形 **規模** 東西4.25m、南北4.45m、検出面からの深さ0.3m

カマド方向 W155°N、西カマド、長い煙道(1.55m) **柱穴** ビット4口

埋土 5層に大別される

A層：黒褐色土主体。褐色土を粒状にわずかに含み、灰白色火山灰が混じる。

B層：黒褐色土主体。黒色・褐色土を粉～塊状、赤褐色焼土を粒～塊状に含み、炭化物粒が少し混じる。

C層：黒色・黒褐色土主体。褐色土を粉～粒状にわずかに含む。

J層：カマド崩壊土。黒色・黒褐色・褐色土主体。黒褐色・褐色土を粉～粒状に含み、炭化物粒・焼土粒・砂礫が少し混じる。

L層：床構築土。褐色土主体。黒褐色土を粉～塊状、赤褐色焼土を粒状に含み、炭化物粒が少し混じる。

カマド 両袖残存 **床の状態** 床面東部に焼け面あり、硬化面あり、床構築土あり

出土遺物 (第98・100図、第15・16表) 土師器坏(非ロクロ)・高台付坏・甕、須恵器坏・大甕、土製品(土錘)、石製品(軽石)、鉄製品(鉄釘・刀子)

時期 平安時代(9世紀中葉)

RA618 (第59図)

位置 調査区中央部 **重複関係** RD2006(新) **平面形** 隅丸方形?(一部のみ)

規模 北東-南西14m以上、北西-南東2.3m以上、検出面からの深さ0.2m

埋土 2層に大別される

A層：黒色・黒褐色土主体。黒褐色・暗褐色土を粉状に含み、径3～5cmの礫と灰白色火山灰が粒～塊状に混じる。

B層：黒色シルト主体。砂粒及び径2cmの礫が混じる。

出土遺物 土師器坏・甕、須恵器坏、あかやき土器坏、鉄製品(刀子) **時期** 平安時代(9世紀)

RA619 (第63図)

位置 調査区中央部 **重複関係** RD2010(新)、RG524(新)、ビット(新) **平面形** 隅丸方形

規模 東西 4.2 m, 南北 4.6 m, 検出面からの深さ 0.1 ~ 0.15 m

カマド方向 E8.0° N, 東カマド, 長い煙道 (1.5 m)

埋土 3層に大別される

A層: 黒色・黒褐色土主体。褐色土を粉～粒状, 赤褐色焼土を粒状に含み, 炭化物粒及び砂礫が混じる。

J層: カマド崩壊土。黒褐色・褐色土主体。暗褐色・褐色・赤褐色シルトを粉～塊状に含み, 砂礫・焼土粒・炭化物粒が混じる。

L層: 黒褐色シルト主体。褐色シルトを粒～塊状に多く含み, 赤褐色焼土が粒～塊状に, 炭化物が粒状に混じる。

カマド 右袖残存, 焚口の焼け面あり 床の状態 床構築土あり

出土遺物 (第 97 図, 第 15 表) 土師器坏・高台付坏・甕, 須恵器坏・甕, あかやき土器坏

時期 平安時代 (9 世紀)

・掘立柱建物跡

R B O 5 4 (第 64 図)

位置 調査区南部 重複関係 R G 5 2 0 (新)

構造 南北桁行 4 間・東西梁行 2 間の身舎に, 西側 2 間の廂または下屋が付く。

棟方向 南北棟, 西側柱筋 N4.0° E・東側柱筋 N5.0° E

規模

身舎: 桁行-総長 10.2 m (34 尺), 柱間 2.55 m (8.5 尺) 等間

梁行北側柱筋-総長 5.4 m (18 尺), 柱間西から 2.85 m (9.5 尺) + 2.55 m (8.5 尺)

梁行南側柱筋-総長 5.25 m (17.5 尺), 柱間西から 2.4 m (8 尺) + 2.85 m (9.5 尺)

廂 (下屋): 桁行-総長 5.1 m (17 尺), 柱間 2.55 m (8.5 尺) 等間

梁行-南北とも 1.05 m (3.5 尺)

柱掘方

	掘方 1	掘方 2	掘方 3	掘方 4	掘方 5	掘方 6
直径 (m)	0.3 ~ 0.35	0.35 ~ 0.4	0.4 ~ 0.5	0.3	0.35 ~ 0.4	0.35
深さ (m)	0.4	0.15	0.4	0.3	0.4	0.5
平面形	不整形	不整形	不整形	不整形	不整形	不整形
柱痕跡	あり	なし	あり	あり	あり	あり

	掘方 7	掘方 8	掘方 9	掘方 10	掘方 11	掘方 12
直径 (m)	0.3	0.3 ~ 0.35	0.4	0.3 ~ 0.35	0.35 ~ 0.4	0.25 ~ 0.3
深さ (m)	0.4	0.4	0.3	0.3	0.45	0.4
平面形	不整形	不整形	不整形	不整形	不整形	不整形
柱痕跡	あり	あり	あり	あり	あり	なし

	掘方 13	掘方 14	掘方 15
直径 (m)	0.3 ~ 0.35	0.35	0.35 ~ 0.4
深さ (m)	0.7	0.4	0.35
平面形	不整形	不整形	不整形
柱痕跡	あり	あり	あり

出土遺物 (第 105 図, 第 18 表) 天聖元寶 (北宋銭, 掘方 6), 皇宋通寶 (北宋銭, 掘方 1), 寛永通寶 (古寛永, 掘方 11)

時期 近世以降

RB055 (第 64 図)

位置 調査区中央部 重複関係 RG521 (新)

構造 東西桁行 3 間・南北梁行 2 間 棟方向 東西棟, 桁行柱筋 E120° N

規模 桁行-総長 8.1 m (27 尺), 柱間 2.7 m (9 尺) 等間

梁行-総長 5.7 m (19 尺), 柱間 2.85 m (9.5 尺) 等間

柱掘方

	掘方 1	掘方 2	掘方 3	掘方 4	掘方 5	掘方 6
直径 (m)	0.4 ~ 0.45	0.35 ~ 0.4	0.35 ~ 0.45	0.3 ~ 0.35	0.35	0.3 ~ 0.5
深さ (m)	0.3	0.5	0.55	(0.5)	0.3	0.35
平面形	不整形	不整形	不整形	不整形	不整形	不整形
柱痕跡	あり	あり	あり	あり	あり	あり

	掘方 7	掘方 8	掘方 9	掘方 10
直径 (m)	0.4 ~ 0.45	0.35	0.35	0.4 ~ 0.45
深さ (m)	0.3	0.5	0.5	0.45
平面形	不整形	不整形	不整形	不整形
柱痕跡	なし	あり	あり	あり

時期 近世以降

・土坑

RD2005 (第 65 図)

位置 調査区南部 平面形 不整形 規模 長軸 1.95 m・短軸 0.9 m, 検出面からの深さ 0.3 m

埋土 A層: 黒褐色土・焼土主体。褐色・黒褐色土を含み, 炭化物が粒~塊状に, 径 3 ~ 10cm の礫が混じる。

出土遺物 土師器破片

RD2006 (第 65 図)

位置 調査区中央部 重複関係 RA618 (古), RD2007 (古), RD2008 (古)

平面形 不整楕円形 **規模** 長軸 7.8 m・短軸 5.1 m, 検出面からの深さ 0.3～0.5 m

埋土 A層: 黒褐色土主体。褐色土・黒色土を粉～粒状に含む。A1層に灰白色火山灰がわずかに混じり、A2層がややグライ化, A3・4層には礫がわずかに混じる。

B層: 水成堆積土。黒褐色土主体。褐色・黒色シルトを粉～塊状に多く含む, 酸化鉄が混じる。

C層: 黒褐色土主体。暗褐色・褐色土を粉～粒状に含む, C1・4・6・7・8・9層に砂礫が混じる。

出土遺物 (第99・100図, 第15・16表) 土師器坏・甕, 須恵器坏・大甕, あかやき土器坏・甕, 砥石, 鉄製品 (鉄釘)

RD2007 (第65図)

位置 調査区中央部 **重複関係** RD2006 (新)

平面形 不整隅丸長方形 **規模** 長辺 3.0 m・短辺 2.6 m, 検出面からの深さ 0.25～0.3 m

埋土 A層: 黒褐色土主体。黒色土・褐色シルトを粉状に含む, 炭化物粒及び径 0.5～10cmの礫が混じる。

B層: 黒褐色土主体。褐色シルトを粉～塊状に含む, 径 0.5～10cmの砂礫が多く混じる。

出土遺物 土師器坏・甕, 須恵器坏, あかやき土器坏

RD2008 (第65図)

位置 調査区中央部 **重複関係** RD2006 (新), RD2010 (古)

平面形 不整楕円形 **規模** 長軸 6.6 m・短軸 3.5 m, 検出面からの深さ 0.25～0.5 m

埋土 A層: 黒褐色シルト主体。暗褐色・褐色シルトを粒～塊状に含む, 砂及び径 1～3cmの礫が混じる。

B層: 黒褐色シルト主体。褐色砂を含み, 径 1～3cmの礫が多く混じる。

C層: 黒褐色・暗褐色シルト主体。褐色シルトを粒～塊状に含む, 砂礫が混じる。C10層に灰白色火山灰が粒～塊状に混じる。

出土遺物 (第99図, 第15表) 土師器坏・高台付坏・甕, 須恵器坏・大甕, あかやき土器坏・甕, 鉄製品 (刀子)

RD2009 (第65図)

位置 調査区中央部 **重複関係** RA617 (古) **平面形** 不整隅丸長方形

規模 長辺 1.9 m・短辺 1.7 m, 検出面からの深さ 0.45 m **特徴** 南東隅に袋状ピット1口

埋土 A層: 黒褐色土主体。黒色・褐色土を粉状に含む。

B層: 黒色・黒褐色シルト主体。黒褐色・褐色シルトを粉～粒状に含む, B1層に灰白色火山灰が粒状に少し混じる。

C層: 黒色シルト主体。黒褐色・褐色シルトを粉状に含む。

D層: 袋状ピット埋土。黒褐色土主体。暗褐色・褐色土を粉～粒状に多く含む, E2層に焼土粒・炭化物粒がわずかに混じる。

出土遺物 (第99図, 第15表) 土師器坏・甕, 土製品 (土錘)

RD2010 (第65図)

位置 調査区中央部 **重複関係** RD2008 (新)

平面形 不整楕円形 **規模** 長軸 4.8 m・短軸 1.7 m, 検出面からの深さ 0.1～0.2 m

埋土 A層：黒色・黒褐色土主体。暗褐色・褐色シルトを紛～粒状に多く含み、灰白色火山灰が粒～塊状に少し混じる。

出土遺物 土師器環・甕、須恵器環・甕

・満跡

RG520 (第66・67図)

位置 調査区南部 **重複関係** RG521

規模 幅0.55～0.9m、延長19.7m以上(調査区外)、検出面からの深さ0.3～0.4mをはかり、東北東から西南西に走る。

埋土 A層：黒色・黒褐色土主体。暗褐色土を紛状に含み、径1～3cmの礫がわずかに混じる。

B層：黒褐色土主体。黒色土を粉状に含み、砂礫が多く混じる。

出土遺物 土師器環・甕、須恵器甕

RG521 (第66・67図)

位置 調査区南部 **重複関係** RG520・522

規模 幅0.25～0.55m、総延長32.5m以上(調査区外)、検出面からの深さ0.05～0.15mをはかり、途切れながら東西に走り、屈曲して南北に走る。

埋土 A層：黒褐色シルト主体。暗褐色・褐色シルトを紛～粒状に含む。

RG522 (第67図)

位置 調査区南部 **重複関係** RG521

規模 幅0.35～0.4m、延長4.15m、深さ0.05mをはかり、途切れながら東北東から西南西に走る。

埋土 A層：黒褐色土主体。褐色土を紛～粒状に含む。

RG523 (第67図)

位置 調査区北部 **重複関係** RA616(古)

規模 幅0.2～0.35m、延長6.6m以上(調査区外)、検出面からの深さ0.05～0.2mをはかり、東北東から西南西に走る。

埋土 A層：黒色・黒褐色土主体。暗褐色土を紛状に含み、径1cmの礫がわずかに混じる。

出土遺物 土師器環・甕

RG524 (第67図)

位置 調査区中央部 **重複関係** RA619(古)

規模 幅0.4～0.5m、延長2.8m、検出面からの深さ0.1mをはかり、南北に走る。

埋土 A層：黒褐色土主体。褐色土を粒状に含む。

出土遺物 土師器環・甕

・ビット

調査区内に古代以降のビット43口を検出した(第68・69図)。各ビットの規模は第4表のとおりである。埋土より土師器坏・甕、須恵器坏・甕、あかやき土器坏の破片が出土している。

・遺構外

調査区内の遺構検出面から、古銭が出土している(第105図、第18表)。263は中国、北宋銭(祥符通寶?)と考えられ、264は近世の寛永通宝(新寛永)である。

第4章 総括

1. 調査のまとめ

盛岡市教育委員会で行った平成13～18年度の台太郎遺跡の発掘調査により、第3章に記載した内容の成果を得ることができた。

以下、遺構の精査を行った各次本調査の内容のまとめを行い、総括とする。なお、精査を行った竪穴住居跡の一覧は第19表のとおりである。

第37次調査

遺跡の中央部で実施した第37次調査では、奈良時代の竪穴住居跡1棟(RA523)、古代以降の土坑5基(RD959～963)・溝跡2条(RG403・404)を検出した。

RA523住居跡は、調査区北西部に検出され、一辺約4.9mと中規模な住居跡である。北西カマドであり、両袖とも残存しないが、焚口の焼け面がある。床面に炭化材と焼土があり、埋土にも炭化物粒と焼土粒が混じる。出土した土器は土師器杯(非ロクロ)・甕が出土しており、年代は8世紀後半と考えられる。

第39次調査

遺跡の中央部で実施した第39次調査では、平安時代の竪穴住居跡12棟(RA524～535)、土坑10基(RD964～973)・溝跡18条(RG405～422)・焼土遺構(RF043)、中世の掘立柱建物跡1棟(RB043)・堀跡2条(RG042・424)、近世以降の溝跡1条(RG423)、古代以降のピット111口を検出した。後述する第45次調査区に隣接している。

平安時代の竪穴住居跡12棟は、調査区内に点在しており、調査区外へのびる、または中央に走る中世の堀跡RG042・424に重複して切られているなどして、全体形を検出したものはない。住居跡が重複しているのはRA529とRA531のみである。住居跡の規模をみると、一辺5m以上の大形が2棟(RA528・529)、一辺3m以上5m未満の中形が5棟(RA525・526・530・534・535)、一辺3m未満の小形が3棟(RA524・527・532)であり、中形住居が多い。カマド方向は、北東カマドが1棟(RA535)、東カマドが1棟(RA525)、西カマドが1棟(RA526)、北西カマドが3棟(RA524・530・534)であり、北西カマドが多い。煙道は、すべて在地型の長い煙道であり、RA530のみトンネル状となっている。カマドの袖は、RA525・526・530・534の4棟のみ残存している。RA525はカマド右袖脇に貯蔵穴がある。床に硬化面のある住居跡は、6棟(RA526・528・529・530・534・535)ある。主柱穴のある住居はない。RA534の床面からは、土師器の長胴甕が5個体まとまって出土している。RA525・526・535の3棟は、埋土上層A層に十和田a火山灰(To-a、915年降下)と考えられる灰白色火山灰が混じる。住居跡から出土した土器は、土師器杯(ロクロ)・甕、須恵器杯・大甕、あかやき土器杯・甕などであるが、あかやき土器は少ない。RA529の床面より、奈良時代に特徴的な球胴甕が出土している。年代としては、RA529・

535が9世紀前葉～中葉、RA525・528・534が9世紀中葉、RA524・526が9世紀中葉～後葉と考えられる。土製品としては、RA525より土鍾、RA534より紡錘車が出土している。鉄製品としては、RA525より釘、RA526より刀子、RA528より刀子・釘・鐵、RA529床面より鈍（やりがんな）が出土している。

中世の堀跡RG042W・Eは、調査区内を東北東から西南西に走り、調査区北西部で南南東方向へ屈曲している。RG424は、RG042より分岐して、屈曲したRG042に並行して北北西から南南東に走る。堀跡の規模は、RG042が幅32～51m・深さ0.9～1.5m、RG424が幅3.1～4.0m・深さ0.65～0.7mと、RG042が幅・深さともやや規模が大きい。並行して走る部分のRG042とRG424の間隔は、悉々で約17m、上端で124～134mをはかる。RG042とRG424の南端は、隣接する市教委第45次調査区へ続いている。また、RG042の東端は隣接する県埋文センター第18次調査区へ続いている。これらの堀跡は、東西約160m・南北約110mの範囲を不正五角形に堀が囲む中世の居館跡の北西部にあたり、内側のRG424は古い時期の一回り小さな区画の堀の一部と考えられる。RG042からは、古代の土器も多く出土しているものの、中国青磁（竜泉窯系）・常滑・甕器系陶器・須恵器系陶器の破片が出土しており、13～14世紀の年代が考えられる。RG424からは、古代の土器が出土するのみで、中世の年代を示す遺物は出土していない。

掘立柱建物跡RB043が、2条の堀跡RG042と424の間に検出されている。桁行3間・梁行1間の小規模な東西棟であるが、中世の居館の一部を構成するものである可能性がある。

第42次調査

遺跡の北西部で実施した第42次調査では、平安時代の竪穴住居跡1棟（RA546）・土坑2基（RD982・983）・溝跡2条（RG440・441）を検出した。

平安時代の竪穴住居跡RA546は、調査区南東端に検出されたものであるが、削平されて平面形は不明であり、カマド焚口の焼け面と考えられる焼土と、貯蔵穴と考えられるピットのみが確認された。

調査区東部には、南北に走る溝跡RG440、北東から南西に走る溝跡RG441を検出しており、調査区南端で交差している。溝跡からは、ロクロ使用の土師器坏、須恵器坏が出土しており、平安時代9世紀の年代が考えられる。

第45次調査

遺跡の中央部で実施した第45次調査では、平安時代の竪穴住居跡13棟（RA565～577）古代の竪穴状遺構4基（RE057～060）、古代以降の土坑36基（RD1077～1081・1084～1114）・溝跡11条（RG467～477）、中世の堀跡2条（RG042・424）・掘立柱建物跡5棟（RB049～053）・掘立柱列跡1列（RC003）を検出した。前述した第39次調査区に隣接している。

平安時代の竪穴住居跡13棟は、調査区内に点在しており、RA570とRA576、RA573とRA574のみが重複している。複数の煙道があり、建替えが認められる住居跡はRA565・569・570の3棟である。住居跡の規模をみると、一辺5m以上の大形が2棟（RA565・569）、一辺3m以上5m未満の中形が8棟（RA566・567・568・571・572・573・575・576）、一辺3m未満の小形が2棟（RA569・574）であり、中形住居が多い。カマド方向は、北カマドが3棟（RA565b・570a・572）、北東カマドが1棟（RA565a）、東カマドが3棟（RA565c・565d・577）、南東カマドが1棟（RA569b）、西カマドが3棟（RA568・569a・

570b) であり、北・東・西方向とまとまりはない。複数の煙道がある住居跡をみると、RA565では北カマド1基・北東カマド1基・東カマド2基、RA569では南東カマド1基・西カマド1基、RA570では北カマド1基・西カマド1基となっている。煙道は、すべて在地型の長い煙道であり、大形住居であるRA565a・b・c・dのみトンネル状となっている。カマドの袖は、RA565a・568・572の3棟のみ両袖が残存している。貯蔵穴をもつ住居跡はない。床に硬化面のある住居跡はRA568のみである。主柱穴のある住居跡は、大形住居であるRA565のみであり、6口の柱穴を確認している。RA565は埋土中層C層に多く、RA572・573は埋土上層A層に十和田火山灰と考えられる灰白色火山灰が混じる。住居跡から出土した土器は、土師器(ロクロ)・甕、須恵器(長頸瓶・甕・大甕、あかやき土器)・甕などであり、特に大形住居であるRA565からは多量の土器が出土し、あかやき土器・甕が多い。年代としては、RA570・572が9世紀前葉～中葉、RA566・567・573が9世紀中葉、RA565はあかやき土器の出土量が特徴的に多く9世紀後葉と考えられる。文字資料として、刻書・墨書土器が出土しており、刻書では「体?」(RA565c)、墨書では「山?」(RA565)・「志?」(RA572)の文字がみられる。土製品としては、RA565より土鍬が1点出土している。鉄製品としては、RA565より刀子・足金物、RA570より手鍬が出土している。以上、堅穴住居跡について概観すると、RA565は、調査区内で唯一主柱穴をもつ大形住居であるとともに、カマドを4期にわたって造り替えて長期間継続して使用されたと考えられ、また多量の土器が出土し、刀器具である足金物が出土するなど、集落の中で地位の高い人物の住居であったことが考えられる。また、RA527出土の墨書土器「志?」は、欠損があり文字全体が残存していないため他の文字である可能性は残るものの、弘仁2年(811)に建部の記述がみられる「斯波(志波)郡」を示すものと考えられる。

中世の堀跡RG042は、調査区北西部を北北西から南南東に走る。RG424Wは、調査区北西部でRG042に並行して北北西から南南東に走り、調査区外で屈曲してRG424Eへ続き、東西に走る。堀跡の規模は、RG042が幅5.4～5.5m・深さ1.5～2.0m、RG424Wが幅3.25～3.75m・深さ0.88m、RG424Eが幅3.6～4.1m・深さ0.97mと、RG042が幅・深さともやや規模が大きい。調査区北西部で並行して走るRG042とRG424Wの間隔は、芯々で約17m、上端で12.4～12.8mをはかる。RG042とRG424Wの北端は、隣接する市教委第39次調査区へ続いている。また、RG424Eの東端は、隣接する原埋文第18次調査区へ続いている。これらの堀跡は、前述のとおり不正五角形に堀が囲む中世の居館跡の南西部にあたる。RG042からは、古代の土器も出土しているものの、瓷器系陶器の破片が出土している。また、RG424からも、古代の土器が出土しているものの、中国青磁(竜泉窯系)の破片が出土していることから、ともに13～14世紀の年代が考えられる。

中世の掘立柱建物跡5棟は、調査区西半東部にまとまって確認された。そのうちRB049・050・051の3棟が重複しており、建て替えがされている。RB049は、桁行6間・梁行5間の総柱の東西棟の掘立柱建物であるが、南北と西の1間分の柱間が他より狭いことから、桁行5間・梁行3間の身舎に三面廂が付き、床束を持つ高床の建物であったと考えられる。柱の掘方の一部から鉄製品が出土している。RB050は、桁行5間・梁行2間の南北棟の掘立柱建物である。棟方向の傾きが、RB049にはほぼ直角に重複している。この建物の西側に隣接するRC003柱列跡は、RB050に付属する板扉と考えられる。RB051も南北棟であり、桁行7間・梁行2間の身舎に東廂が付く。棟方向の傾きは真北に近い。RB052は、桁行2間・梁行2間の総柱の掘立柱建物であり、「田」字形の柱配置から、高床倉庫と考えられる。柱方向が真北であり、RB051に揃うことから、この2棟は同時存在していたものと考えられる。また、こ

れら2棟の建物の南側柱筋が揃っており、計画的な配置とみられる。RB053は、桁行2間・梁間1行の小規模な掘立柱建物であるが、棟方向の傾きがRB050に近く、この2棟は同時存在していたものと考えられる。これら掘立柱建物と堀によって居館が構成され、遺構の重複関係から次のような時期変遷が考えられる。

1期：堀跡RG424Wと、掘立柱建物跡RB050・RB053

2期：堀跡RG042と、掘立柱建物跡RB049

3期：堀跡RG042と、掘立柱建物跡RB051・RB052

これら3期のうち、第2期のRB049掘立柱建物跡が三面廂で高床であり、構造上最も格式が高いことから、居館の中心的建物の一つであったと考えられる。

この他、中世の遺構としては、SB053掘立柱建物跡の東方にRD1088土坑がある。隅丸方形の大形土坑であり、埋土より陶磁器（古瀬戸、中国青磁・白磁）の破片、北宋銭（天観通寶、天聖元寶）、鉄製品（鉄釘・棒状鉄製品）、馬歯骨などが出土している。性格は不明であるが、埋土に焼土や炭化物が混じっており、何らかの儀式的遺構である可能性が考えられる。

第46次調査

遺跡の中央部で実施した第46次調査では、奈良時代の堅穴住居跡2棟（RA578・579）を検出した。

奈良時代の堅穴住居跡2棟は、調査区南東部に確認された。住居跡の規模をみると、2棟とも一辺5m以上の大形住居であり、カマド方向も北西カマドで共通している。煙道は、ともに在地型の長い煙道であり、RA578のみカマドの両袖が残存している。またRA578は、床面北東隅に貯蔵穴を1基もつ。2棟とも主柱穴があり、RA579は4口で4本柱、RA578は調査区内で1口、原埋文第26次調査RA441として4口を検出しており、6本柱であったと考えられる。住居跡から出土した土器は、土師器坏（非ロクロ）・高台付坏（非ロクロ）・小形壺・甕・球胴甕・長頸瓶などであり、RA578からは朱彩壺・朱彩球胴甕が出土している。年代としては、8世紀後半～9世紀前半と考えられる。この他、RA578からはミニチュア土器・土製勾玉のほか、刀装具である鉄製品の切羽が出土している。原埋文センター第26次調査RA441部分では、床面より土製紡錘車・切子玉・ガラス玉が床面より出土している。RA578住居跡は、6本柱の大形堅穴住居であり、装飾品である土製勾玉や切子玉・ガラス玉、刀装具である切羽などの威信財が出土していること、また儀式的用途に使用したと考えられる朱彩土器が出土していることから、血縁集団における家長的人物の住居であったと考えられる。

遺構外ではあるが、中国銭である唐銭・北宋銭がまとまって出土しており、付近に中世の遺構があった可能性がある。

第56次調査

遺跡の中央部で実施した第56次調査では、平安時代の土坑1基（RD2004）を検出した。

土坑は、平面形が不整形円形の小規模なもので、埋土に炭化物粒が混じる。出土遺物がなく、性格は不明である。

第57次調査

遺跡の西部で実施した第57次調査では、平安時代の堅穴住居跡6棟（RA614～619）・土坑1基（RD2009）、

近世以降の掘立柱建物跡2棟(RB054・055)・土坑5基(RD2005～2008・2010)・溝跡5条(RG520～524)・ピット43口を検出した。

平安時代の竪穴住居跡6棟は、南北に長い調査区の北半部にまとまって検出された。住居跡の重複はない。住居跡の規模をみると、全体形が不明なRA618を除き、すべて一辺3m以上5m未満の中形である。カマド方向は、北カマドが1棟(RA615)、東カマドが1棟(RA619)、西カマドが1棟(RA617)であり、まとまりを示さない。煙道は、すべて在地型の長い煙道であるが、RA614・615は床に焼け面があるだけで、煙道は検出されなかった。カマドの袖は、RA615・617が両袖残存、RA619は右袖のみ残存していた。貯蔵穴は、RA615のカマド右袖脇に1基検出された。このRA615の壁際には周溝が廻っている。床の硬化面があるのはRA617のみである。支柱穴のある住居跡はない。RA616・617・618は、埋土上層A層に十和田a火山灰と考えられる灰白色火山灰が混じる。住居跡から出土した土器は、土師器坏(ロクロ)・甕、須恵器坏・大甕、あかやき土器坏・甕などであり、年代としては、RA615・617が9世紀中葉、RA614が9世紀後葉と考えられる。土製品としては、RA615・617より土錘が出土している。

平安時代の土坑RD2009は、RA617住居跡と重複して検出された。一辺17～19mの不整隅丸長方形であり、壁際に袋状ピットがある。埋土からは、あかやき土器の甕が出土している。袋状ピットを持つ土坑は、北の統縄文文化の影響を受けたものとして、古墳時代から盛岡市内の永福寺山遺跡・薬師社脇遺跡(中津川地区)で確認されており、当該土坑も、その流れを汲む墓塚と考えられる。盛南地区では、野古A遺跡第6次調査のRD009土坑が、袋状ピットをもつ墓塚として類例がある。

近世の掘立柱建物跡2棟は、調査区南半部に確認された。RB054は、桁行4間・梁行2間の身舎に、西側2間の廂または下屋が付く南北棟であり、柱配置にやや歪みがある。ほとんどの柱の掘方に柱痕跡がみられる。掘方の一部より中国銭である北宋銭(天聖元寶)が出土している。RG521溝が、RB054建物を囲うように走っており、何らかの区画溝である可能性がある。RB055は、RB054の北側に位置し、桁行3間・梁行2間の東西棟であり、やはり柱配置にやや歪みがある。ほとんどの柱の掘方に柱痕跡がみられる。RB055建物は、RG521溝を跨いで建てられており、RG521溝がRB054建物に関係する区画溝であったとすると、RB054とRB055の建築に時期差があると考えられる。

表

第1表 第39次調査ビット計測表

No.	径 (m)	深さ (m)	No.	径 (m)	深さ (m)	No.	径 (m)	深さ (m)
1	0.38~0.52	0.22	38	0.40~0.50	0.10	75	0.24~0.32	0.14
2	0.21~0.32	0.22	39	0.20~0.28	0.18	76	0.37~0.51	0.20
3	0.26~0.36	0.24	40	0.20~0.32	0.38	77	0.20~1.02	0.22
4	0.22~0.34	0.10	41	0.32~0.36	0.20	78	0.13~0.26	0.20
5	0.23~0.38	0.10	42	0.23~0.30	0.10	79	0.32~0.40	0.26
6	0.22~0.28	0.08	43	0.26~0.36	0.12	80	0.27~0.34	0.44
7	0.36~0.50	0.10	44	0.25~0.37	0.42	81	0.32~0.38	0.16
8	0.30~0.52	0.12	45	0.36~0.55	0.42	82	0.24~0.30	0.22
9	0.36~0.55	0.31	46	0.24~0.34	0.33	83	0.23~0.37	0.12
10	0.37~0.50	0.23	47	0.14~0.38	0.13	84	0.29~0.38	0.18
11	0.22~0.27	0.13	48	0.43~0.64	0.64	85	0.25~0.32	0.22
12	0.13~0.20	0.11	49	0.27~0.40	0.14	86	0.32~0.38	0.14
13	0.30~0.41	0.35	50	0.23~0.47	0.42	87	0.28~0.38	0.25
14	0.20~0.27	0.09	51	0.57~0.66	0.45	88	0.36~0.44	0.24
15	0.20~0.24	0.14	52	0.24~0.31	0.22	89	0.42~0.54	0.34
16	0.24~0.30	0.40	53	0.33~0.44	0.48	90	0.28~0.35	0.10
17	0.17~0.26	0.30	54	0.52~0.60	0.13	91	0.33~0.44	0.22
18	0.30~0.42	0.28	55	0.30~0.40	0.50	92	0.26~0.33	0.36
19	0.50~0.58	0.43	56	0.40~0.50	0.22	93	0.26~0.32	0.20
20	0.30~0.37	0.18	57	0.46~0.56	0.51	94	0.24~0.32	0.24
21	0.25~0.34	0.09	58	0.28~0.45	0.31	95	0.26~0.37	0.12
22	0.32~0.40	0.10	59	0.25~0.32	0.40	96	0.37~0.66	0.18
23	0.34~0.66	0.52	60	0.37~0.54	0.42	97	0.26~0.30	0.16
24	0.35~0.42	0.12	61	0.26~0.40	0.52	98	0.20~0.26	0.12
25	0.42~0.53	0.44	62	0.40~0.55	0.26	99	0.28~0.34	0.10
26	0.30~0.38	0.52	63	0.42~0.67	0.26	100	0.18~0.25	0.12
27	0.40~0.57	0.47	64	0.20~0.26	0.22	101	0.20~0.26	0.14
28	0.36~0.50	0.39	65	0.30~0.37	0.26	102	0.22~0.28	0.12
29	0.22~0.32	0.16	66	0.40~0.50	0.12	103	0.24~0.30	0.20
30	0.29~0.40	0.09	67	0.20~0.30	0.12	104	0.29~0.34	0.18
31	0.39~0.48	0.20	68	0.23~0.40	0.22	105	0.21~0.28	0.23
32	0.32~0.40	0.12	69	0.42~0.58	0.15	106	0.23~0.34	0.30
33	0.23~0.30	0.12	70	0.36~0.42	0.10	107	0.24~0.32	0.20
34	0.22~0.27	0.20	71	0.52~0.66	0.14	108	0.21~0.26	0.16
35	0.29~0.38	0.09	72	0.27~0.34	0.38	109	0.28~0.34	0.36
36	0.36~0.50	0.07	73	0.27~0.38	0.38	110	0.28~0.34	0.28
37	0.74~0.85	0.22	74	0.35~0.56	0.24	111	0.52~0.72	0.26

第2表 第45次調査ビット計測表(1)

No.	径 (m)	深さ (m)	No.	径 (m)	深さ (m)	No.	径 (m)	深さ (m)
1	0.21~0.30	0.20	36	0.22~0.33	0.12	71	0.20~0.27	0.34
2	0.31~0.38	0.22	37	0.22~0.26	0.13	72	0.33~0.54	0.36
3	0.26~0.31	0.28	38	0.27~0.35	0.24	73	0.52~0.86	0.10
4	0.30~0.35	0.22	39	0.28~0.43	0.26	74	0.36~0.55	0.42
5	0.28~0.36	0.19	40	0.25~0.30	0.15	75	0.39~0.44	0.36
6	0.28~0.32	0.32	41	0.22~0.27	0.28	76	0.32~0.46	0.55
7	0.31~0.43	0.32	42	0.40~0.55	0.34	77	0.34~0.68	0.39
8	0.28~0.36	0.18	43	0.28~0.31	0.18	78	0.30~0.40	0.40
9	0.25~0.32	0.34	44	0.26~0.31	0.18	79	0.56~0.66	0.38
10	0.18~0.45	0.22	45	0.27~0.47	0.40	80	0.30~0.48	0.50
11	0.26~0.35	0.54	46	0.62~0.78	0.46	81	0.26~0.31	0.17
12	0.46~0.62	0.31	47	0.47~0.61	0.32	82	0.29~0.36	0.19
13	0.24~0.29	0.16	48	0.17~0.36	0.36	83	0.31~0.40	0.19
14	0.22~0.33	0.40	49	0.47~0.54	0.13	84	0.35~0.44	0.42
15	0.33~0.38	0.18	50	0.20~0.27	0.18	85	0.34~0.40	0.16
16	0.44~0.45	0.14	51	0.19~0.25	0.14	86	0.34~0.47	0.22
17	0.28~0.35	0.24	52	0.21~0.30	0.32	87	0.35~0.54	0.30
18	0.37~0.47	0.41	53	0.40~0.47	0.23	88	0.41~0.50	0.53
19	0.23~0.32	0.28	54	0.23~0.28	0.26	89	0.54~0.66	0.49
20	0.26~0.32	0.36	55	0.20~0.28	0.20	90	0.39~0.48	0.44
21	0.31~0.36	0.20	56	0.40~0.50	0.32	91	0.36~0.50	0.20
22	0.19~0.24	0.27	57	0.20~0.28	0.17	92	0.30~0.40	0.12
23	0.28~0.35	0.14	58	0.26~0.30	0.16	93	0.28~0.33	0.14
24	0.26~0.36	0.23	59	0.21~0.30	0.14	94	0.30~0.45	0.30
25	0.27~0.31	0.18	60	0.39~0.46	0.38	95	0.34~0.57	0.17
26	0.22~0.27	0.16	61	0.26~0.33	0.15	96	0.38~0.46	0.30
27	0.37~0.45	0.44	62	0.24~0.38	0.13	97	0.46~0.52	0.42
28	0.22~0.31	0.24	63	0.32~0.36	0.23	98	0.28~0.32	0.28
29	0.27~0.36	0.13	64	0.36~0.56	0.20	99	0.50~0.65	0.42
30	0.25~0.32	0.22	65	0.51~0.56	0.46	100	0.31~0.35	0.20
31	0.28~0.34	0.26	66	0.26~0.30	0.28	101	0.27~0.36	0.16
32	0.21~0.24	0.30	67	0.60~0.73	0.42	102	0.48~0.58	0.70
33	0.35~0.46	0.23	68	0.36~0.45	0.24	103	0.46~0.50	0.44
34	0.23~0.33	0.18	69	0.36~0.40	0.28	104	0.32~0.36	0.22
35	0.36~0.45	0.17	70	0.30~0.50	0.44	105	0.22~0.36	0.16

第3表 第45次調査ビット計測表(2)

No.	径 (m)	深さ (m)	No.	径 (m)	深さ (m)	No.	径 (m)	深さ (m)
106	0.46~0.55	0.38	136	0.34~0.40	0.35	166	0.23~0.30	0.19
107	0.30~0.38	0.20	137	0.38~0.46	0.16	167	0.30~0.39	0.46
108	0.31~0.36	0.20	138	0.28~0.32	0.22	168	0.26~0.38	0.20
109	0.20~0.23	0.10	139	0.55~0.67	0.25	169	0.48~0.64	0.26
110	0.20~0.26	0.07	140	0.40~0.53	0.23	170	0.33~0.48	0.21
111	0.16~0.24	0.13	141	0.64~0.78	0.47	171	0.35~0.68	0.36
112	0.50~0.59	0.38	142	0.59~0.70	0.26	172	0.38~0.46	0.34
113	0.40~0.48	0.10	143	0.42~0.50	0.38	173	0.55~0.67	0.20
114	0.31~0.37	0.16	144	0.28~0.36	0.28	174	0.48~0.70	0.19
115	0.49~0.58	0.42	145	0.30~0.37	0.28	175	0.27~0.32	0.20
116	0.50~0.64	0.42	146	0.30~0.35	0.38	176	0.28~0.42	0.16
117	0.21~0.32	0.20	147	0.33~0.39	0.24	177	0.19~0.23	0.11
118	0.50~0.68	0.56	148	0.36~0.60	0.40	178	0.37~0.47	0.12
119	0.24~0.40	0.13	149	0.29~0.34	0.40	179	0.66~0.95	0.18
120	0.46~0.53	0.48	150	0.44~0.51	0.45	180	0.26~0.33	0.22
121	0.50~0.59	0.15	151	0.60~0.68	0.40	181	0.30~0.39	0.34
122	0.50~0.77	0.40	152	0.57~0.66	0.27	182	0.32~0.55	0.29
123	0.32~0.41	0.28	153	0.40~0.47	0.28	183	0.24~0.31	0.28
124	0.30~0.40	0.30	154	0.30~0.39	0.20	184	0.33~0.40	0.45
125	0.31~0.41	0.27	155	0.29~0.37	0.23	185	0.40~0.52	0.10
126	0.26~0.33	0.06	156	0.31~0.40	0.30	186	0.36~0.44	0.30
127	0.45~0.54	0.32	157	0.26~0.32	0.18	187	0.40~0.45	0.30
128	0.42~0.50	0.47	158	0.42~0.50	0.16	188	0.53~0.80	0.16
129	0.45~0.60	0.24	159	0.28~0.35	0.16	189	0.32~0.36	0.18
130	0.32~0.46	0.30	160	0.45~0.56	0.16	190	0.28~0.37	0.10
131	0.55~0.60	0.36	161	0.24~0.28	0.16	191	0.38~0.44	0.18
132	0.32~0.47	0.22	162	0.32~0.40	0.18	192	0.63~0.72	0.18
133	0.30~0.35	0.24	163	0.30~0.38	0.16	193	0.30~0.33	0.42
134	0.18~0.45	0.38	164	0.26~0.31	0.28	194	0.31~0.34	0.30
135	0.38~0.60	0.44	165	0.40~0.48	0.50			

第4表 第57次調査ビット計測表

No.	径 (m)	深さ (m)	No.	径 (m)	深さ (m)	No.	径 (m)	深さ (m)
1	0.32~0.38	0.11	16	0.36~0.42	0.26	31	0.46	0.22
2	0.32~0.44	0.14	17	0.30~0.41	0.23	32	0.35~0.43	0.30
3	0.36~0.46	0.16	18	0.34~0.44	0.23	33	0.28~0.36	0.28
4	0.25~0.30	0.15	19	0.25~0.33	0.29	34	0.30~0.41	0.22
5	0.46~0.52	0.23	20	0.34~0.42	0.33	35	0.38~0.54	0.18
6	0.28~0.34	0.17	21	0.46~0.58	0.16	36	0.29~0.34	0.32
7	0.18~0.30	0.09	22	0.36~0.48	0.40	37	0.40~0.56	0.27
8	0.33~0.42	0.23	23	0.33~0.44	0.24	38	0.26~0.30	0.16
9	0.46~0.50	0.17	24	0.32~0.39	0.32	39	0.23~0.37	0.30
10	0.30~0.36	0.16	25	0.50~0.68	0.44	40	0.23~0.30	0.21
11	0.30~0.31	0.14	26	0.40~0.64	0.42	41	0.37~0.40	0.37
12	0.32~0.40	0.14	27	0.30~0.38	0.44	42	0.24~0.33	0.26
13	0.45~0.59	0.46	28	0.34~0.48	0.24	43	0.35~0.42	0.32
14	0.39~0.44	0.28	29	0.32~0.43	0.36			
15	0.34~0.45	0.42	30	0.40~0.52	0.62			

第7表 第39次調査出土土器観察表(2)

調査番号	発見時期	遺跡名	検出層	次層	遺跡No.	形制		土質		寸法 (cm) ※形状・破片のみ				調査記録番号	調査箇所		調査年・特長				
						形状	破片	平位置	層位	高さ	口径	外径	体径		厚さ	口縁形状		口縁傾斜	外底	内底	
BD 046	27	牧志野	COF	39	RA524	1	土師器	赤	16.1	赤黒	4.0	13.6	—	4.8	2.0	2.8	調査中(調査中)	—	→今土器・黒色灰土	—	
BD 047	27	牧志野	COF	39	RA525	1	赤土中土師器	赤	赤黒(2)赤	B	5.5	16.0	—	6.2	2.0	2.9	調査中(調査中)	—	→今土器・赤黒	→今土器・赤黒	
BD 048	—	牧志野	COF	39	RA526	2	土師器	赤	赤黒	赤黒	4.9	16.0	—	7.0	2.3	3.3	—	→今土器・赤黒	→今土器・赤黒	→今土器・赤黒	
BD 049	27	牧志野	COF	39	RA527	6	土師器	赤	赤黒	赤	5.3	14.5	—	6.0	2.4	2.7	—	→今土器・赤黒	→今土器・赤黒	→今土器・赤黒	
BD 050	29	牧志野	COF	39	RA529	1	土師器	赤黒	赤黒	赤黒	—	18.2	21.0	—	0.9	—	—	—	→今土器・赤黒	→今土器・赤黒	→今土器・赤黒
BD 051	—	牧志野	COF	39	RA533	1	赤土中土師器	赤	—	A	—	19.6	19.5	—	1.0	—	—	—	→今土器	→今土器・赤黒	→今土器・赤黒

第8表 第39次調査出土土器観察表

調査番号	発見時期	遺跡名	検出層	次層	遺跡No.	形制		土質		寸法 (cm)				調査記録番号	調査箇所	調査年・特長	
						形状	破片	平位置	層位	高さ	口径	外径	体径				厚さ
BD 052	39	牧志野	COF	39	RA525	1	土師器	土師	S902	赤	—	13.0	1.6	F90	赤土・灰黒	—	
BD 053	39	牧志野	COF	39	RG042	4	土師器	土師	—	赤土	—	13.0	2.2	F90	赤土・灰黒	—	
BD 054	39	牧志野	COF	39	RA534	2	土師器	赤黒	赤黒	赤土(1)	A	4.8	1.9	—	—	→今土器	→今土器
BD 055	39	牧志野	COF	39	RG039	3	土師器	N7 BC1	—	A	—	14.9	16.1	F90	赤土・灰黒	—	
BD 056	39	牧志野	COF	39	RA529	6	赤土中土師器	赤	—	赤黒	—	13.9	12.0	12.0	—	→今土器・赤黒	→今土器・赤黒
BD 057	39	牧志野	COF	39	RA526	2	赤土中土師器	赤	赤黒	赤	—	11.0	7.1	0.4	—	→今土器・赤黒	→今土器・赤黒
BD 058	—	牧志野	COF	39	RA528	5	赤土中土師器	赤	赤黒	赤	—	12.0	11.7	0.4	—	→今土器・赤黒	→今土器・赤黒
BD 059	—	牧志野	COF	39	RG043	12	赤土中土師器	赤	赤黒	赤	—	13.0	11.9	0.5	—	→今土器・赤黒	→今土器・赤黒
BD 060	—	牧志野	COF	39	RG042	11	赤土中土師器	赤	赤黒	赤	—	14.0	12.1	0.6	—	→今土器・赤黒	→今土器・赤黒
BD 061	—	牧志野	COF	39	RA526	4	赤土中土師器	赤	S902	赤土	—	17.5	0.9	0.8	—	→今土器・赤黒	→今土器・赤黒
BD 062	—	牧志野	COF	39	RA528	3	赤土中土師器	赤	S902	赤土	—	16.0	0.7	0.8	—	→今土器・赤黒	→今土器・赤黒
BD 063	39	牧志野	COF	39	RG042	8	赤土中土師器	赤	赤	赤	B	4.2	0.4	0.5	—	→今土器・赤黒	→今土器・赤黒
BD 064	—	牧志野	COF	39	RA525	1	赤土中土師器	赤	S902	赤	—	13.7	0.5	0.5	—	→今土器・赤黒	→今土器・赤黒
BD 065	—	牧志野	COF	39	RG042	10	赤土中土師器	赤	—	赤	—	12.7	0.7	0.5	—	→今土器・赤黒	→今土器・赤黒
BD 066	—	牧志野	COF	39	RG042	7	赤土中土師器	赤	赤	赤	B	14.2	0.6	0.5	—	→今土器・赤黒	→今土器・赤黒

第9表 第42次調査出土土器観察表

調査番号	発見時期	遺跡名	検出層	次層	遺跡No.	形制		土質		寸法 (cm) ※形状・破片のみ				調査記録番号	調査箇所		調査年・特長			
						形状	破片	平位置	層位	高さ	口径	外径	体径		厚さ	口縁形状		口縁傾斜	外底	内底
BD 067	30	牧志野	COF	40	RG443	9	土師器	赤	—	A	5.2	13.6	—	6.2	2.2	2.8	調査中(調査中)	—	→今土器・赤黒	→今土器・赤黒
BD 068	30	牧志野	COF	40	RG443	8	土師器	赤	—	A	4.9	13.6	—	5.8	2.3	2.9	—	→今土器・赤黒	→今土器・赤黒	→今土器・赤黒
BD 069	30	牧志野	COF	40	RG443	10	土師器	赤	—	A	5.2	13.6	—	5.8	2.4	2.7	—	→今土器・赤黒	→今土器・赤黒	→今土器・赤黒
BD 070	30	牧志野	COF	40	RG443	2	赤土中土師器	赤	—	A	4.7	13.0	—	5.6	2.4	2.8	—	→今土器・赤黒	→今土器・赤黒	→今土器・赤黒
BD 071	30	牧志野	COF	40	RG443	1	赤土中土師器	赤	—	A	4.6	13.6	—	5.2	2.0	3.0	—	→今土器・赤黒	→今土器・赤黒	→今土器・赤黒
BD 072	—	牧志野	COF	40	RG443	3	赤土中土師器	赤	—	A	4.7	13.6	—	5.6	2.5	2.9	—	→今土器・赤黒	→今土器・赤黒	→今土器・赤黒
BD 073	—	牧志野	COF	40	RG443	6	赤土中土師器	赤	赤	—	—	—	—	—	—	—	—	→今土器・赤黒	→今土器・赤黒	→今土器・赤黒
BD 074	30	牧志野	COF	40	RG441	1	土師器	赤	—	A	6.6	15.0	—	6.2	2.4	2.3	—	→今土器・赤黒	→今土器・赤黒	→今土器・赤黒

第 15 表 第 57 次調査出土土器観察表

調査番号	発見時期	遺跡名	坑号	次第	遺物No.	形種	器種	平置位置	土質				寸法 (cm)				調査時期	観察箇所		備考	
									質地	色相	口縁	口径	口径	口径	口径	口径		口径	口径		口径
99-212	37	古土庫	CO1	57	FR614	2	土器類	中	NE1	灰黒	4.0	15.4	—	0.4	2.4	3.2	調査中(フナフナ内蔵)	—	—	フナフナ 調査中(調査中)	調査中(調査中)
99-213	37	古土庫	CO1	57	FR614	20	土器類	中	NE2	A	4.7	14.0	—	5.6	2.5	3.0	調査中(古土庫調査中)	—	—	調査中(調査中)	調査中(調査中)
99-214	37	古土庫	CO1	57	FR614	21	土器類	中	NE2	A	14.0	17.4	16.0	5.0	5.1	1.2	調査中(調査中)	—	—	調査中(調査中)	調査中(調査中)
別冊																					
土土																					
99-215	37	古土庫	CO1	57	FR615	13	土器類	中	NE2	B	5.1	15.4	—	5.0	2.0	3.0	調査中(調査中)	—	—	調査中(調査中)	調査中(調査中)
99-216	37	古土庫	CO1	57	FR615	6	土器類	中	NE2	B	—	18.0	19.4	—	1.0	—	調査中(調査中)	—	—	調査中(調査中)	調査中(調査中)
99-217	—	古土庫	CO1	57	FR615	21	土器類	中	NE2	A	—	—	—	—	—	—	調査中(調査中)	—	—	調査中(調査中)	調査中(調査中)
別冊																					
土土																					
99-218	37	古土庫	CO1	57	FR616	4	土器類	中	NE2	B	4.9	14.2	—	0.8	2.2	2.9	調査中(調査中)	—	—	調査中(調査中)	調査中(調査中)
別冊																					
土土																					
99-219	37	古土庫	CO1	57	FR616	15	土器類	中	NE2	B	6.0	16.0	—	6.0	2.5	3.5	調査中(調査中)	—	—	調査中(調査中)	調査中(調査中)
別冊																					
土土																					
100-220	—	古土庫	CO1	57	FR617	41	土器類	中	NE2	C	—	12.0	—	—	—	—	調査中(調査中)	—	—	調査中(調査中)	調査中(調査中)
100-221	—	古土庫	CO1	57	FR617	25	土器類	中	NE2	C	5.4	13.0	—	4.8	2.0	2.5	調査中(調査中)	—	—	調査中(調査中)	調査中(調査中)
100-222	—	古土庫	CO1	57	FR617	64	土器類	中	NE2	B	4.6	15.4	—	5.0	2.7	3.3	調査中(調査中)	—	—	調査中(調査中)	調査中(調査中)
100-223	37	古土庫	CO1	57	FR617	67	土器類	中	NE2	B	4.7	15.2	—	5.0	2.7	3.2	調査中(調査中)	—	—	調査中(調査中)	調査中(調査中)
100-224	—	古土庫	CO1	57	FR617	60	土器類	中	NE2	B	4.3	15.5	—	6.4	2.4	3.0	調査中(調査中)	—	—	調査中(調査中)	調査中(調査中)
100-226	37	古土庫	CO1	57	FR617	54	土器類	中	NE2	C	—	14.0	—	—	—	—	調査中(調査中)	—	—	調査中(調査中)	調査中(調査中)
100-228	—	古土庫	CO1	57	FR617	37	土器類	中	NE2	C	—	—	—	—	—	—	調査中(調査中)	—	—	調査中(調査中)	調査中(調査中)
100-227	—	古土庫	CO1	57	FR617	20	土器類	中	NE2	C	—	—	—	—	—	—	調査中(調査中)	—	—	調査中(調査中)	調査中(調査中)
別冊																					
土土																					
101-228	—	古土庫	CO1	57	RD000	1	土器類	中	NE1	粘土	—	20.0	24.0	—	0.0	—	調査中(調査中)	—	—	調査中(調査中)	調査中(調査中)
101-229	—	古土庫	CO1	57	RD000	6	土器類	中	C	—	—	—	—	—	—	—	調査中(調査中)	—	—	調査中(調査中)	調査中(調査中)
101-230	—	古土庫	CO1	57	RD000	10	土器類	中	C	—	—	—	—	—	—	—	調査中(調査中)	—	—	調査中(調査中)	調査中(調査中)
101-231	—	古土庫	CO1	57	RD000	11	土器類	中	A	—	—	—	—	—	—	—	調査中(調査中)	—	—	調査中(調査中)	調査中(調査中)

第 16 表 第 57 次調査出土遺物観察表

調査番号	発見時期	遺跡名	坑号	次第	遺物No.	区分	器種	平置位置	寸法 (cm)			形状	特徴	
									全長	幅	厚			
102-232	39	古土庫	CO1	57	RD015	1	土製品	土器	NE2	全長	8.2	2.0-2.5	7.90	穿孔
102-233	39	古土庫	CO1	57	RD017	1	土製品	土器	NE2	全長	5.1	2.1	7.60	穿孔
別冊														
土土														
102-234	39	古土庫	CO1	57	RD000	1	土製品	粘土	NE2	全長	6.1	5.7	2.2	内蔵状、自然石

第 17 表 第 39 次調査出土陶磁器観察表

調査 編號	出土 位置	調査 時期	調査 坑名	調査 次数	遺物名	形状No.	形制		胎土		寸法 (cm)				重量 (g)	調査 番号	観察時期		調査年・特記	
							器種	種類	平置位置	層位	器高	口径	口径	口径			口径	口径		口径
103	236	—	古土層	CO1	39	FG042	30	甕	甕	—	C	14.5	11.2	—	4.3	—	—	—	—	古土層、14世紀初葉
103	236	40	古土層	CO1	39	FG042	31	甕	甕	—	C	14.5	21.6	—	13.6	—	—	—	—	古土層、14世紀初葉
103	237	40	古土層	CO1	39	FG042	16	甕	甕	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	古土層、14世紀初葉
103	236	40	古土層	CO1	39	FG042	20	甕	甕	—	B	13.5	15.2	—	9.4	—	—	—	—	古土層、14世紀初葉
103	239	—	古土層	CO1	39	FG042	7	甕	甕	—	D	15.1	24.2	—	18.0	—	—	—	—	古土層、13-14世紀初葉
103	240	40	古土層	CO1	39	FG042	12	甕	甕	—	D	15.1	18.6	—	5.2	—	—	—	—	古土層、14世紀初葉
103	241	40	古土層	CO1	39	FG042	19	甕	甕	—	B	14.9	16.0	—	7.0	—	—	—	—	古土層、14世紀初葉
104	242	40	古土層	CO1	39	FG042	5	甕	甕	—	D	—	—	—	—	—	—	—	—	古土層、14世紀初葉
104	242	40	古土層	CO1	39	FG042	13	甕	甕	—	C	—	—	—	—	—	—	—	—	古土層、14世紀初葉
104	244	—	古土層	CO1	39	FG042	14	甕	甕	—	C	—	—	—	—	—	—	—	—	古土層、14世紀初葉
104	245	40	古土層	CO1	39	FG042	23	甕	甕	—	B	—	—	—	—	—	—	—	—	古土層、14世紀初葉
104	245	—	古土層	CO1	39	FG042	18	甕	甕	—	B	—	—	—	—	—	—	—	—	古土層、14世紀初葉

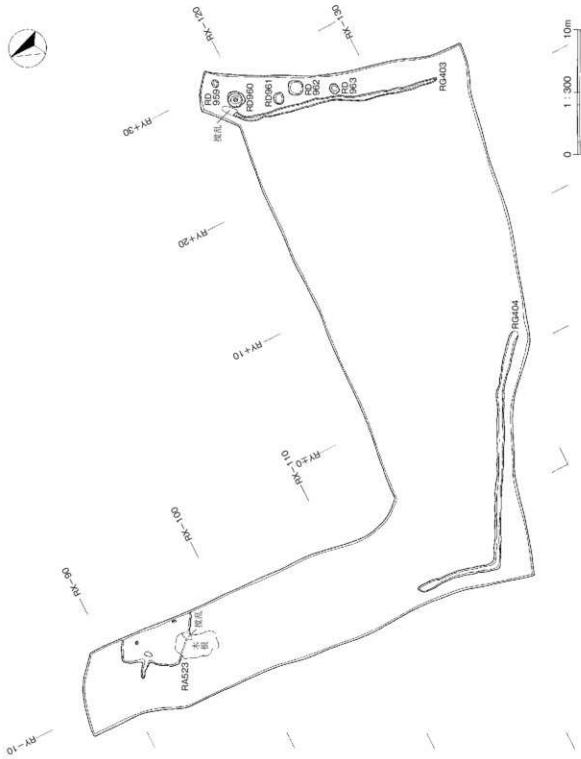
第 18 表 第 45・46・57 次調査出土古銭観察表

調査 編號	出土 位置	調査 時期	調査 坑名	調査 次数	遺物名	形状No.	形制		胎土		寸法 (cm)	特記等	
							区分	種類	平置位置	層位			器高
106	247	41	古土層	CO1	45	FD1080	2	右側	天智右錢	—	A	2.4	天智、1027年造
106	248	41	古土層	CO1	45	FD1080	1	右側	天智右錢	—	B	2.4	天智、1027年造
106	249	41	古土層	CO1	46	—	0	右側	天智右錢	—	—	2.5	唐銭、621年造
106	250	41	古土層	CO1	46	—	2	右側	天智右錢	—	—	2.4	天智、1026年造
106	251	41	古土層	CO1	46	—	6	右側	天智右錢	—	—	2.4	天智、1027年造
106	252	41	古土層	CO1	46	—	3	右側	天智右錢	—	—	2.4	天智、1024年造
106	253	41	古土層	CO1	46	—	11	右側	天智右錢	—	—	2.4	天智、1029年造
106	254	41	古土層	CO1	46	—	1	右側	天智右錢	—	—	2.3	天智、1026年造
106	255	41	古土層	CO1	46	—	5	右側	天智右錢	—	—	2.3	天智、1026年造
106	256	41	古土層	CO1	46	—	10	右側	天智右錢	—	—	2.4	天智、1027年造
106	257	42	古土層	CO1	46	—	9	右側	天智右錢	—	—	2.2	天智、1026年造
106	258	41	古土層	CO1	46	—	7	右側	天智右錢	—	—	2.3	天智、1026年造
106	259	41	古土層	CO1	46	—	12	右側	天智右錢	—	—	2.4	天智、1026年造
106	260	41	古土層	CO1	46	—	4	右側	天智右錢	—	—	2.3	天智、1024年造
107	261	41	古土層	CO1	57	FD015	1	右側	天智右錢	—	—	2.4	天智
107	262	41	古土層	CO1	57	FD015	3	右側	天智右錢	—	—	2.3	天智、1027年造
107	263	41	古土層	CO1	57	FD015	1	右側	天智右錢	—	—	2.4	天智、1027年造
107	264	41	古土層	CO1	57	FD015	0	右側	天智右錢	—	—	2.4	天智

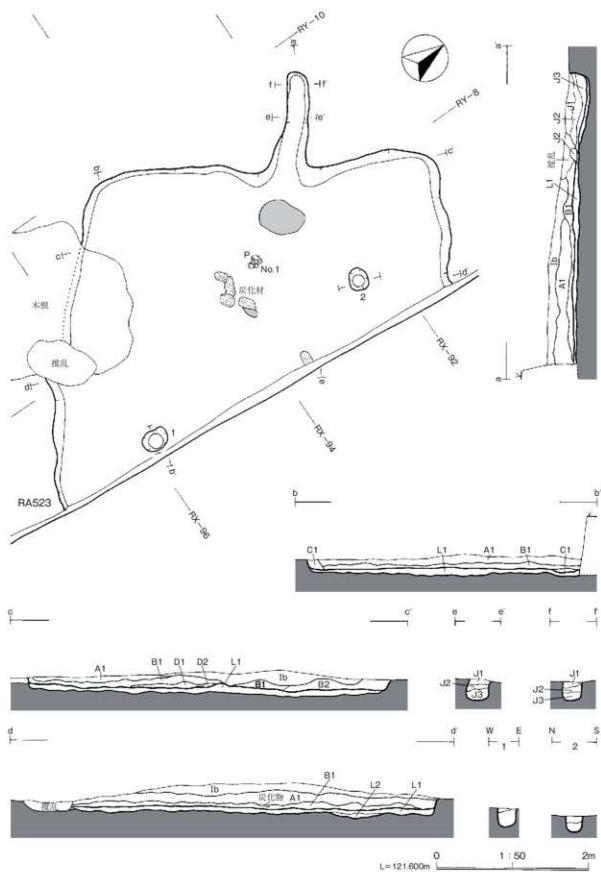
第19表 竪穴住居跡一覧表

次数	遺構名	カマド方向	煙道	カマド袖	一辺長 (m)	貯蔵穴	床礫化面	主柱穴	周溝	時期
37	RA523	W 40.0° N 北西	長い煙道	なし	4.90	なし	なし	なし	なし	9世紀後半
39	RA524	W 28.5° N 北西	長い煙道	なし	2.3~2.85	なし	なし	なし	なし	9世紀中葉~後葉
39	RA525	E 13.0° S 東	長い煙道	両袖残存	4.27~4.5	1基	なし	なし	なし	9世紀中葉
39	RA526	W 5.5° S 西	長い煙道	左袖残存	3.85	なし	あり	なし	なし	9世紀中葉~後葉
39	RA527	不明	不明	不明	2.90	なし	なし	なし	なし	9世紀
39	RA528	不明	不明	不明	6.30	なし	あり	なし	なし	9世紀中葉
39	RA529	不明	不明	不明	5.25	なし	あり	なし	なし	9世紀前半~中葉
39	RA530	W 22.5° N 北西	長い煙道 (トンネル状)	両袖残存	3.90以上	なし	あり	なし	なし	9世紀
39	RA531	不明	不明	不明	不明	なし	なし	なし	なし	9世紀
39	RA532	不明	不明	不明	2.50	なし	なし	なし	なし	9世紀
39	RA533	—	—	—	—	—	—	—	なし	9世紀
39	RA534	N 25.0° W 北西	長い煙道	両袖残存	4.30	なし	あり	なし	なし	9世紀中葉
39	RA535	N 42.0° E 北東	長い煙道	なし	4.55以上	なし	あり	なし	なし	9世紀前半~中葉
42	RA546	—	不明	不明	不明	1基	なし	なし	なし	9世紀
45	RA565a	N 26.0° E 北東	長い煙道 (トンネル状)	両袖残存	6.7~7.2	なし	なし	6口	なし	9世紀後葉
45	RA565b	N 18.0° E 北	長い煙道 (トンネル状)	なし	6.7~7.2	なし	なし	6口	なし	9世紀後葉
45	RA565c	E 13.0° S 東	長い煙道 (トンネル状)	なし	6.7~7.2	なし	なし	6口	なし	9世紀後葉
45	RA565d	E 6.5° S 東	長い煙道 (トンネル状)	なし	6.7~7.2	なし	なし	6口	なし	9世紀後葉
45	RA566	—	不明	不明	3.3以上	なし	なし	なし	なし	9世紀中葉
45	RA567	—	不明	不明	4.90	なし	なし	なし	なし	9世紀中葉
45	RA568	W 4.0° N 西	長い煙道	両袖残存	3.70	なし	あり	なし	なし	9世紀
45	RA569a	W 5.5° N 西	長い煙道	なし	2.40	なし	なし	なし	なし	9世紀中葉
45	RA569b	E 41.0° S 南東	長い煙道	なし	2.40	なし	なし	なし	なし	9世紀中葉
45	RA570a	N 5.0° E 北	長い煙道	なし	5.50	なし	なし	なし	なし	9世紀前半~中葉
45	RA570b	W 22.5° S 西	長い煙道	なし	5.50	なし	なし	なし	なし	9世紀前半~中葉
45	RA571	—	なし	なし	4.50	なし	なし	なし	なし	9世紀
45	RA572	N 19.0° W 北	長い煙道	両袖残存	4.30	なし	なし	なし	なし	9世紀前半~中葉
45	RA573	—	不明	不明	3.60	なし	なし	なし	なし	9世紀中葉
45	RA574	—	不明	不明	2.70	なし	なし	なし	なし	9世紀
45	RA575	—	不明	不明	4.7以上	なし	なし	なし	なし	9世紀
45	RA576	—	不明	不明	3.5~4.3	なし	なし	なし	なし	9世紀
45	RA577	E 2.5° S 東	長い煙道	—	—	—	—	—	—	9世紀
46	RA578	N 23.0° W 北西	長い煙道	両袖残存	6.30	1基	なし	1口	なし	9世紀後半~9世紀前半
46	RA579	N 42.0° W 北西	長い煙道	なし	5.1~5.65	なし	なし	4口	なし	9世紀後半~9世紀前半
57	RA614	—	なし	なし	2.90~3.05	なし	なし	なし	なし	9世紀後葉
57	RA615	N 9.5° E 北	長い煙道	両袖残存	3.55~3.95	1基	なし	なし	あり	9世紀中葉
57	RA616	—	なし	なし	4.35~4.85	なし	なし	なし	なし	9世紀
57	RA617	W 15.5° N 西	長い煙道	両袖残存	4.25~4.55	なし	あり	なし	なし	9世紀中葉
57	RA618	—	不明	不明	2.30以上	不明	不明	不明	なし	9世紀
57	RA619	E 8.0° N 東	長い煙道	右袖残存	4.20~4.60	なし	なし	なし	なし	9世紀

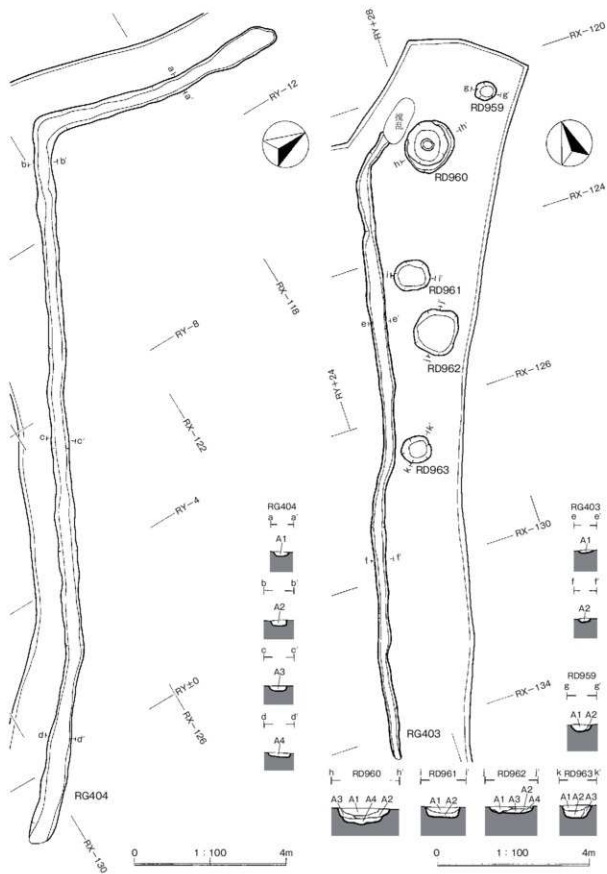
☒



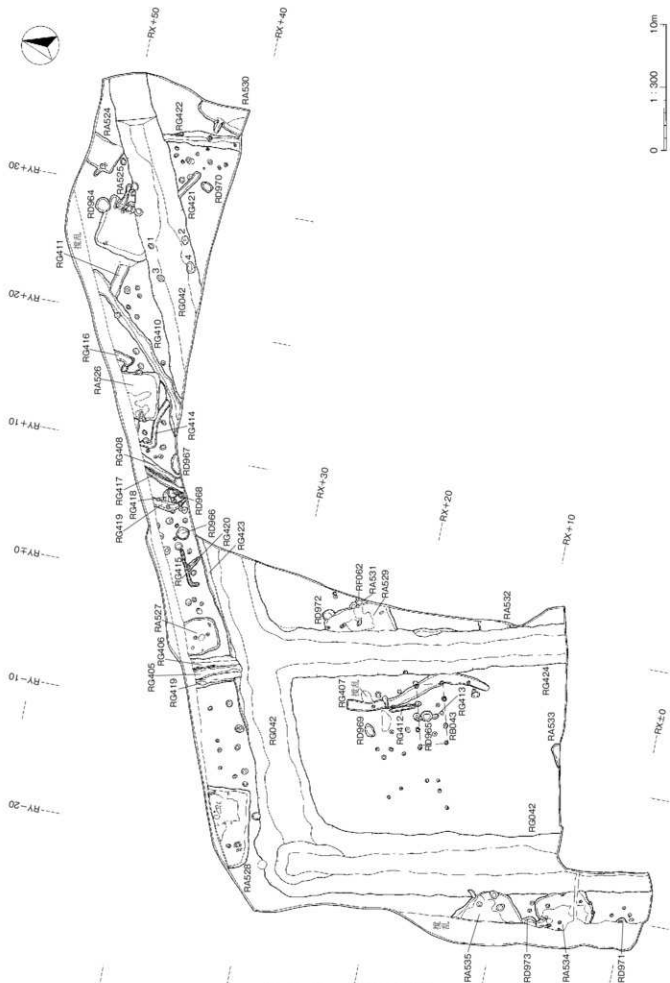
第1図 第37次調査区全体図



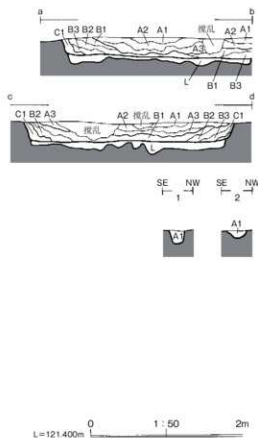
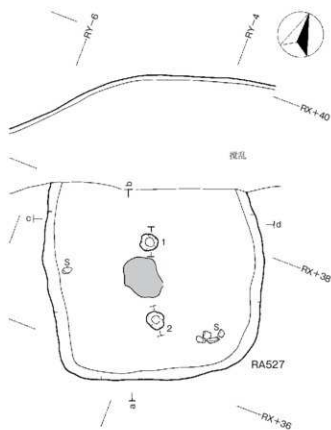
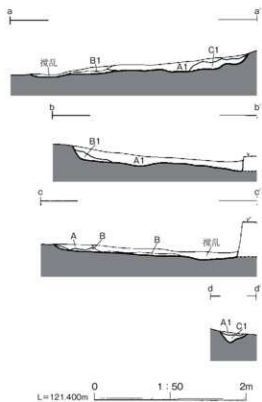
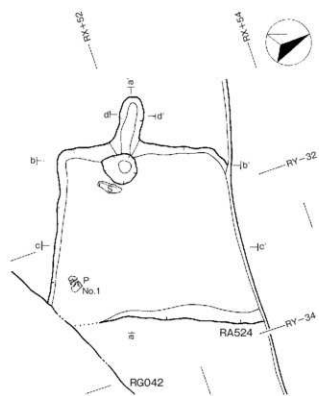
第2図 第37次調査 RA523 竪穴住居跡



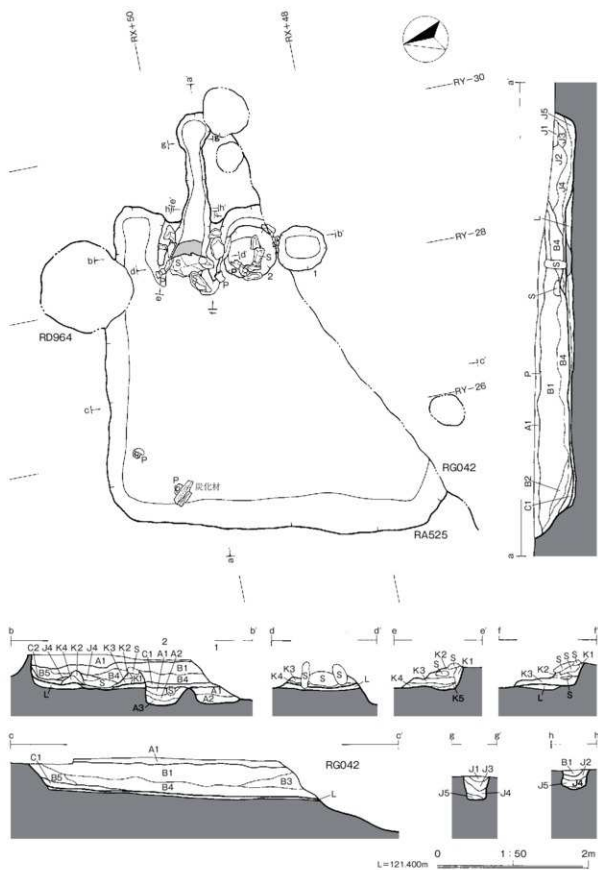
第3図 第37次調査RD959～963土坑, RG403・404溝跡



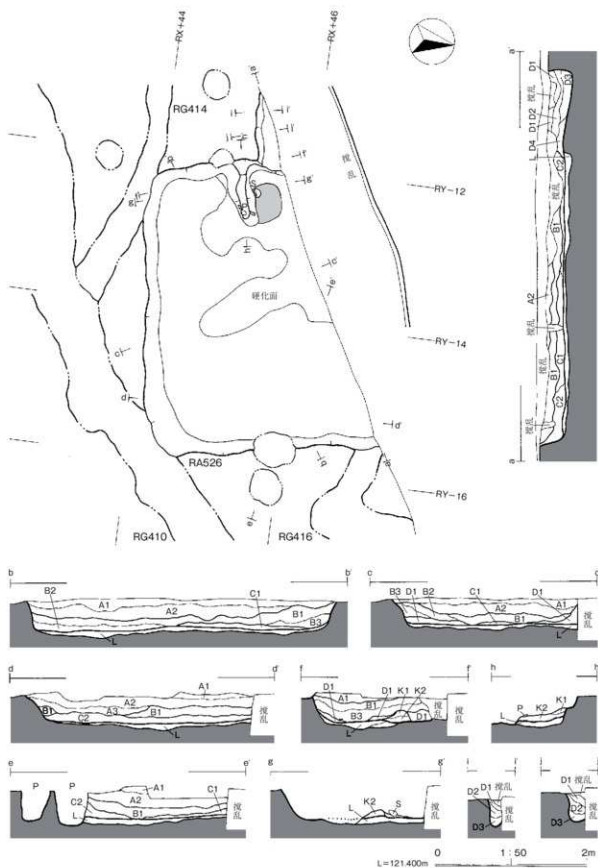
第4図 第39次調査区全体図



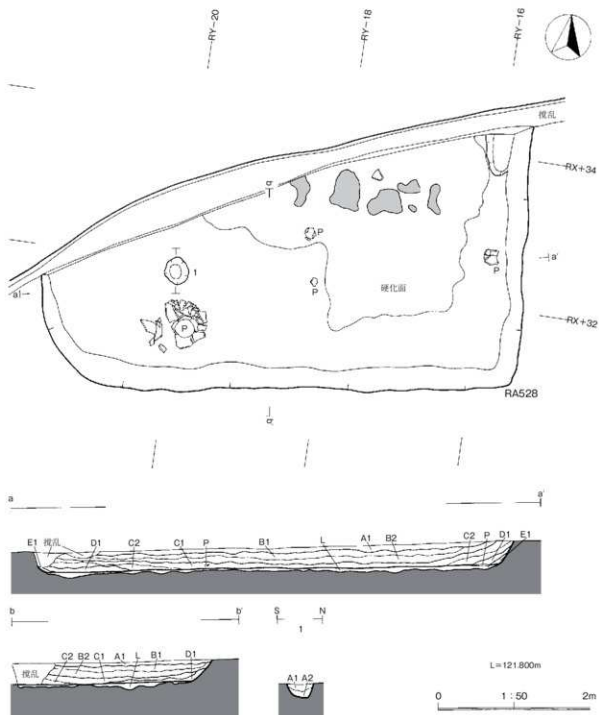
第5図 第39次調査RA524・527竪穴住居跡



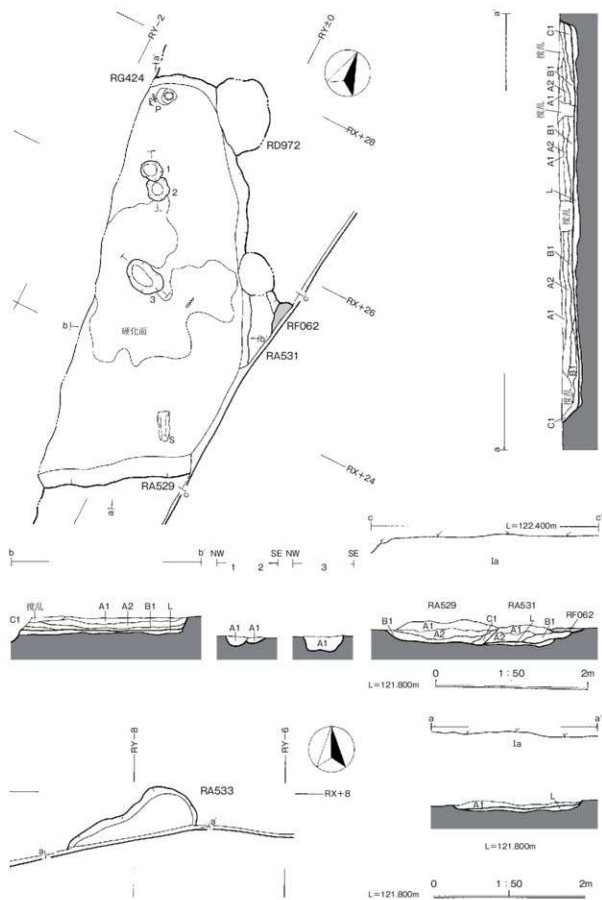
第 6 図 第 39 次調査 RA525 竪穴住居跡



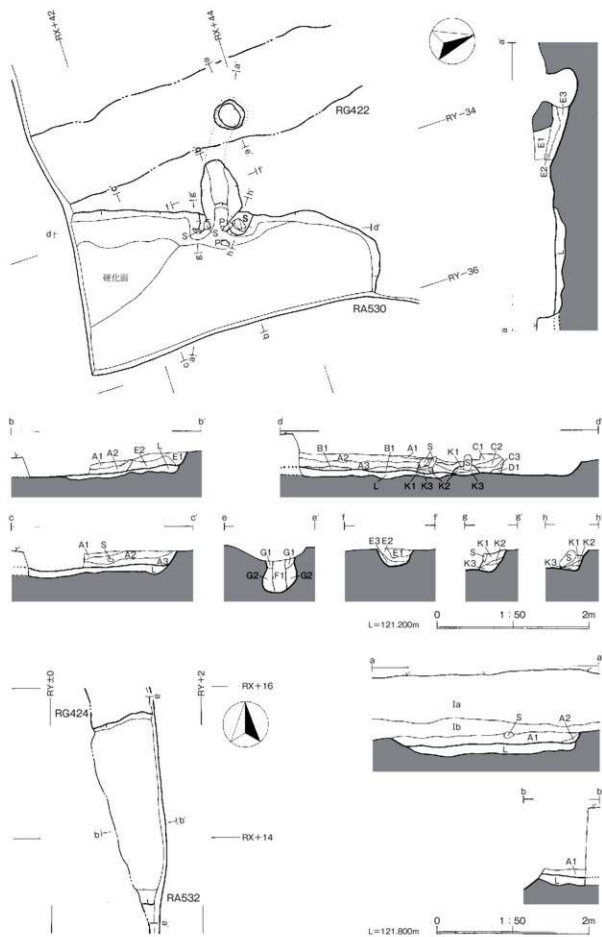
第7図 第39次調査 RA526 竪穴住居跡



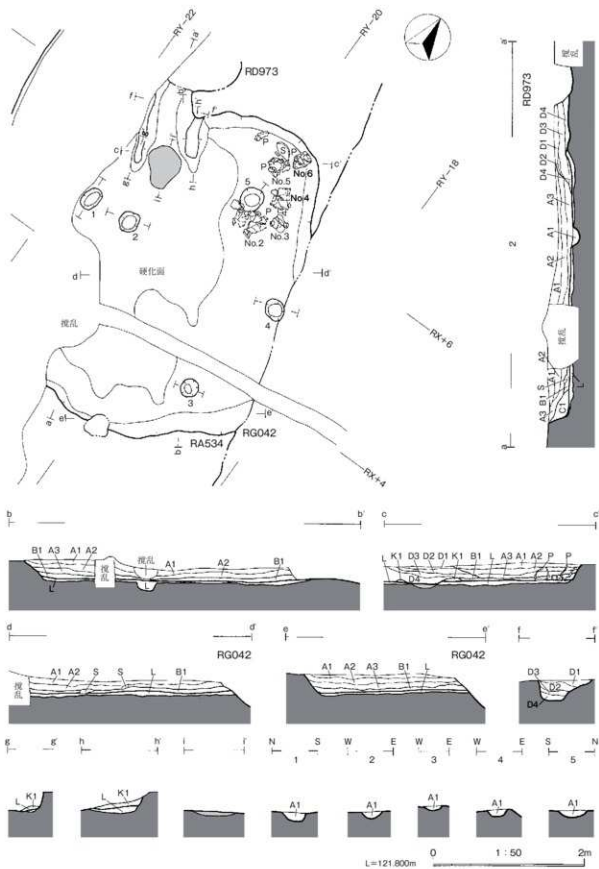
第8図 第39次調査 RA528 竅穴住居跡



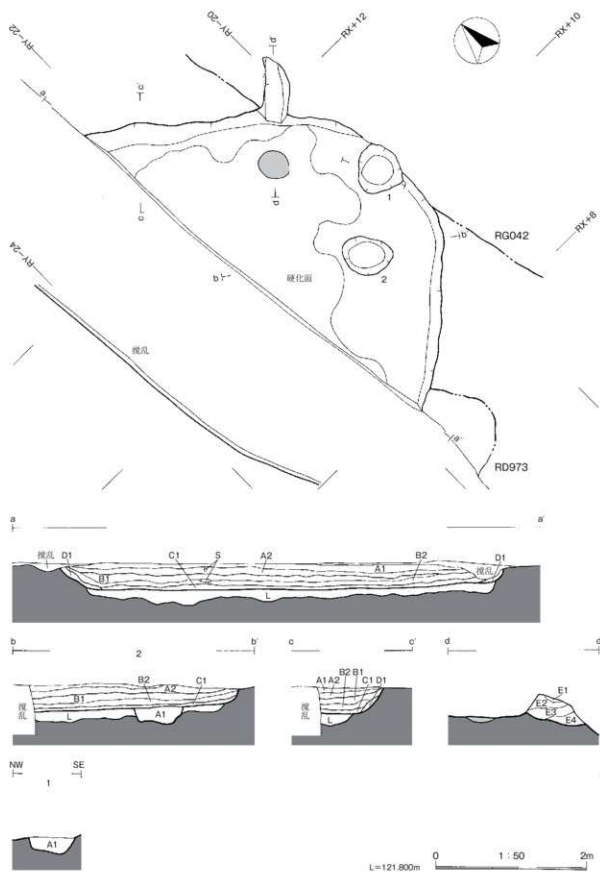
第9図 第39次調査 RA529・531・533 竪穴住居跡, RF062 焼土遺構



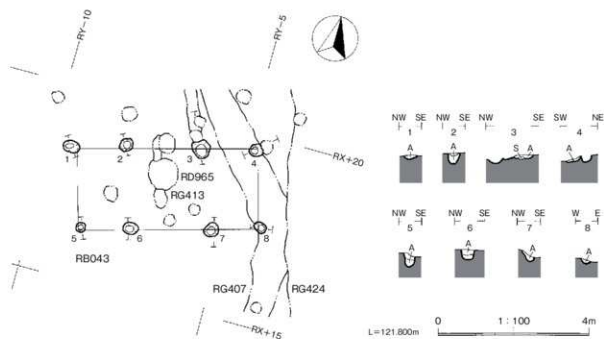
第10図 第39次調査 RA530・532 竪穴住居跡



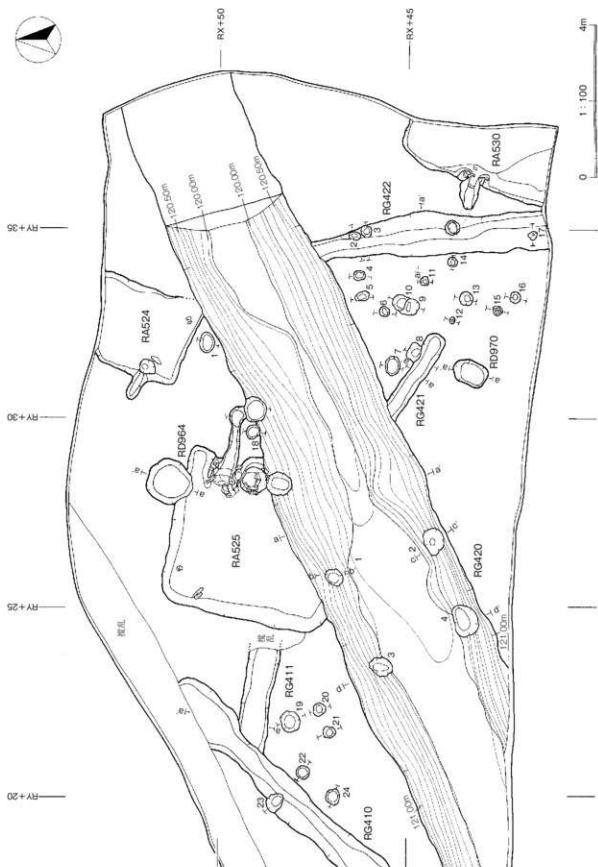
第 11 図 第 39 次調査 RA534 竪穴住居跡



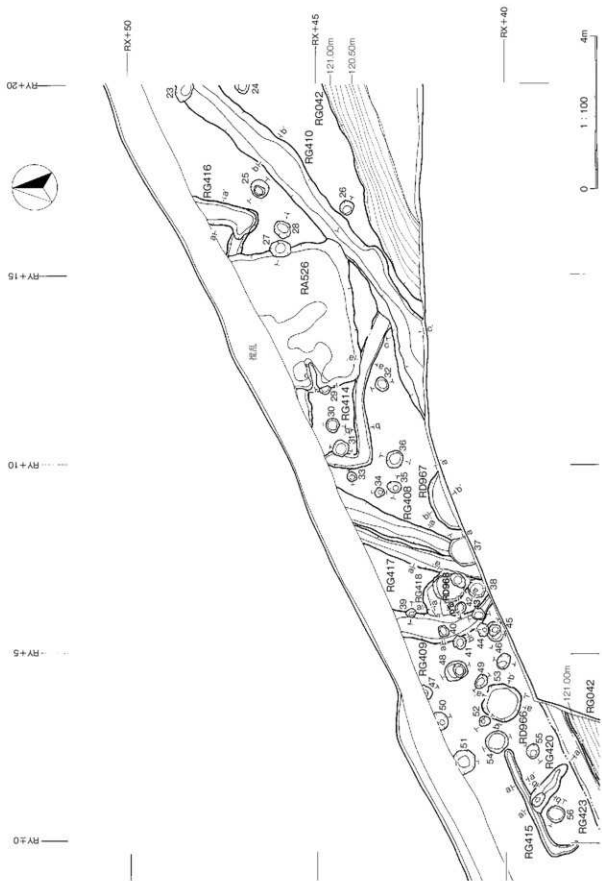
第 12 図 第 39 次調査 RA535 竪穴住居跡



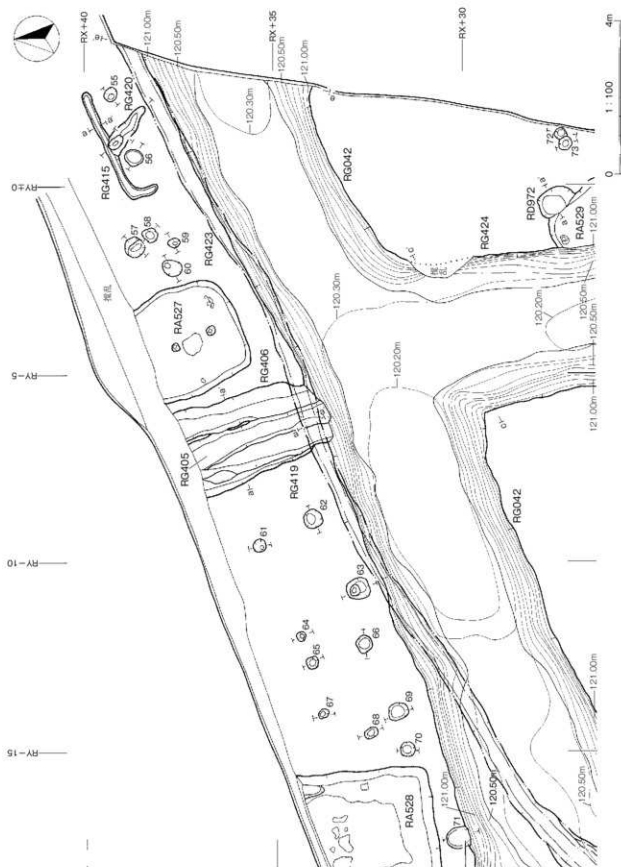
第 13 図 第 39 次調査 RB043 掘立柱建物跡



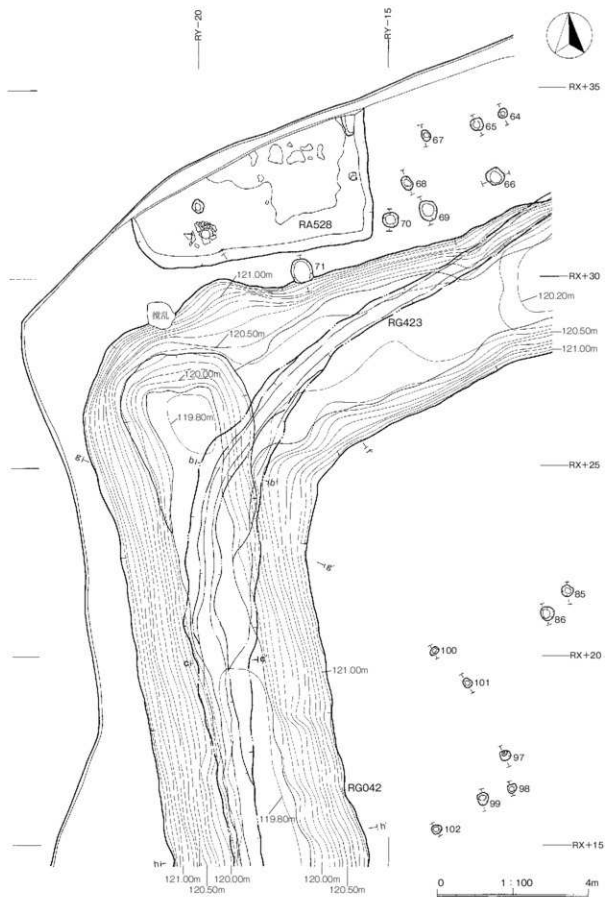
第14図 第39次調査 RD964・970土坑, RG042・410・411・421・422溝跡, ビット



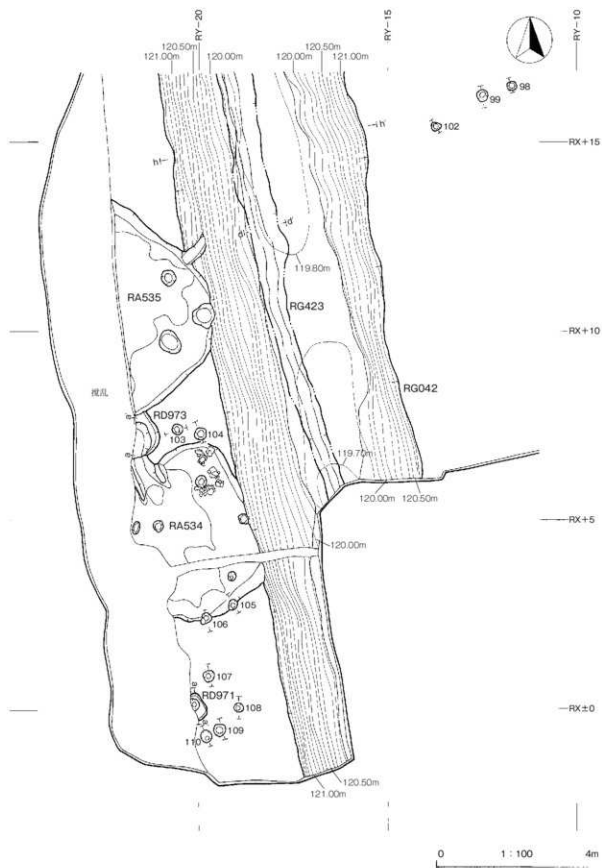
第15図 第39次調査RD966-967-968土坑, RG042-408-409-410-414-415-416-417-418-420-423溝跡, ビット



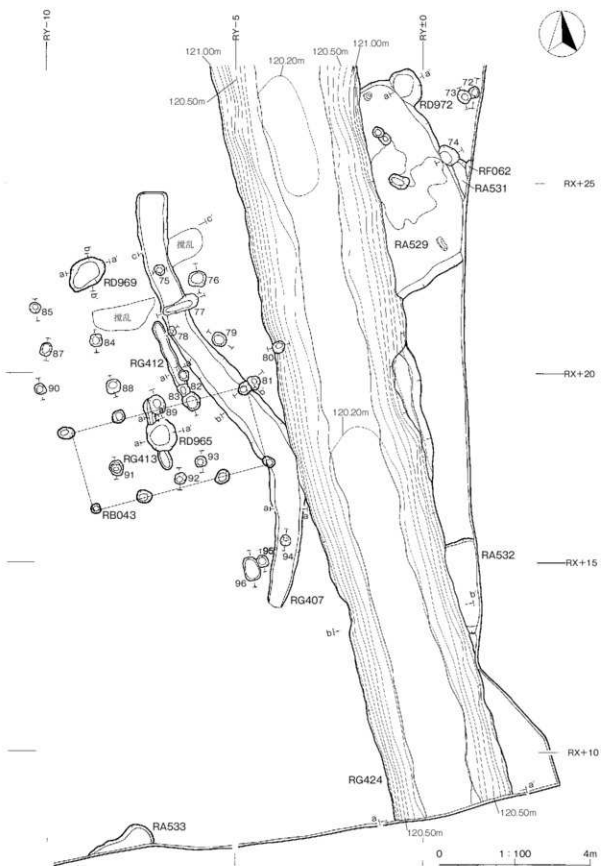
第16図 第39次調査RD972土坑, RG042・405・406・415・419・420・423・424溝跡, ピット



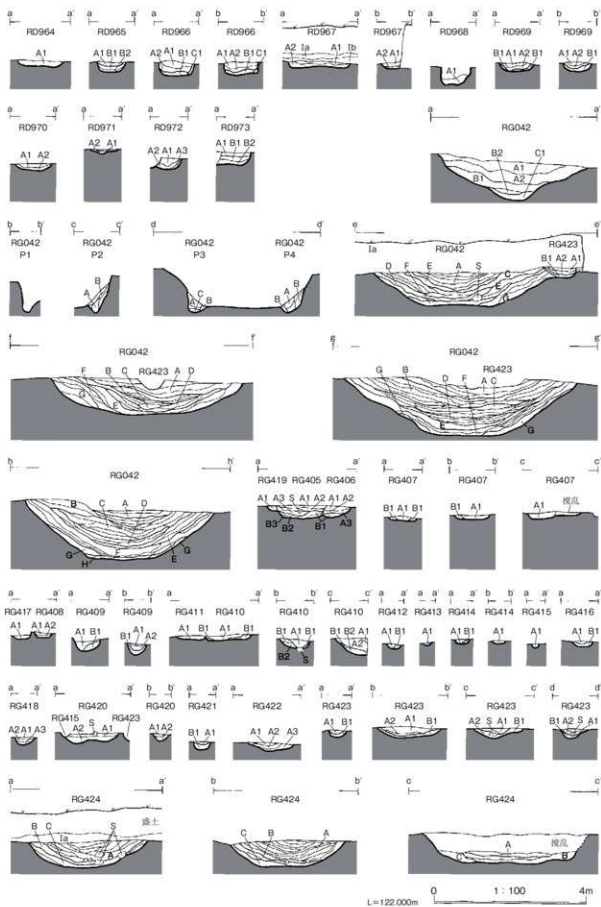
第 17 図 第 39 次調査 RG042・423 溝跡、ピット



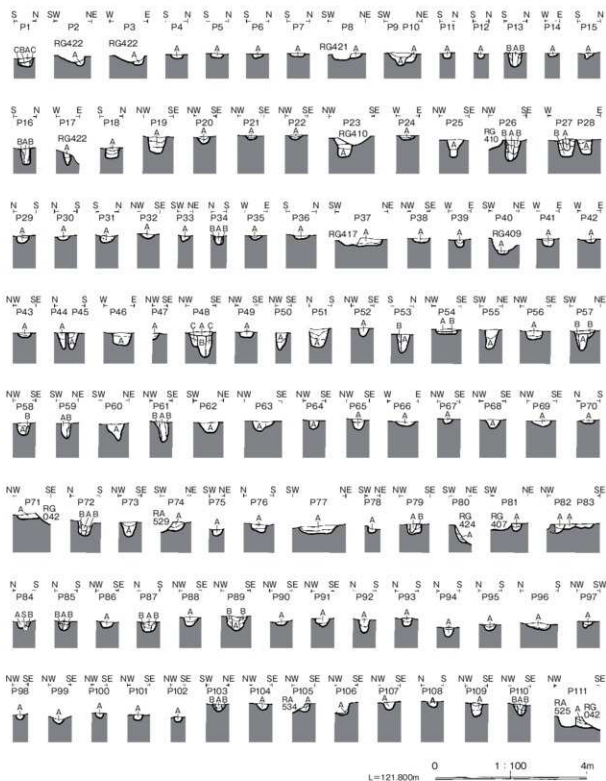
第18図 第39次調査RD971・973土坑, RG042・423溝跡, ビット



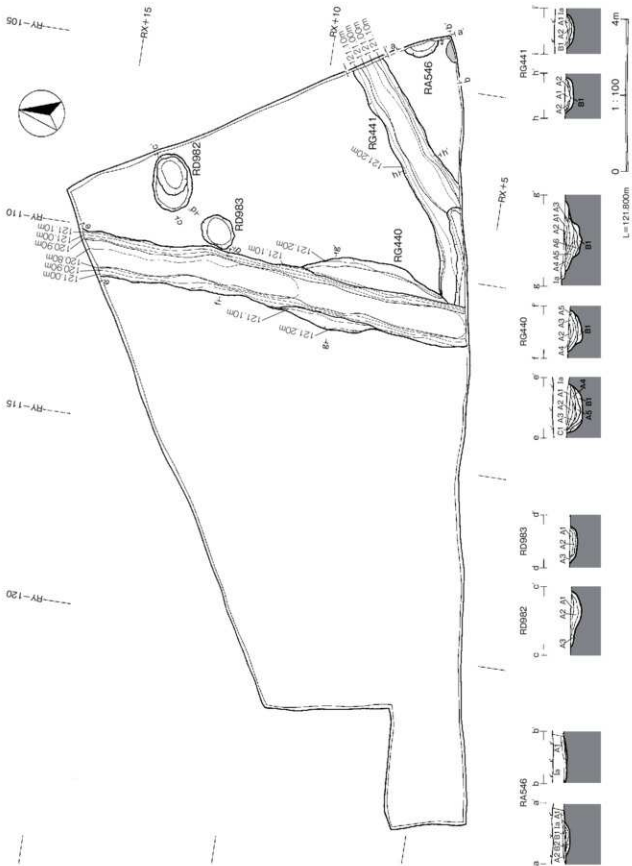
第19図 第39次調査 RD965・969・972土坑, RG407・412・413・424溝跡, ビット



第20图 第39次调查 土坑·沟迹, 断面图



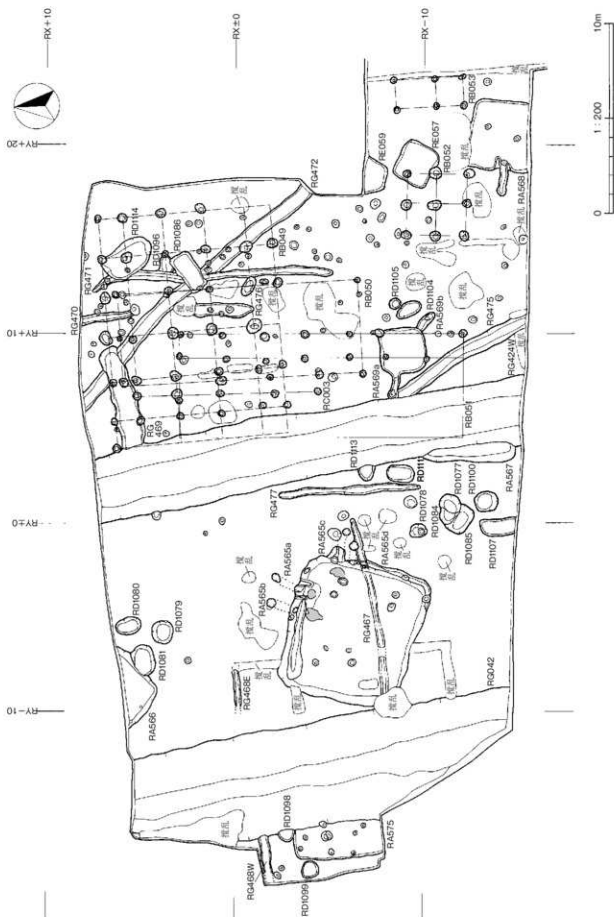
第 21 図 第 39 次調査 ビット断面図



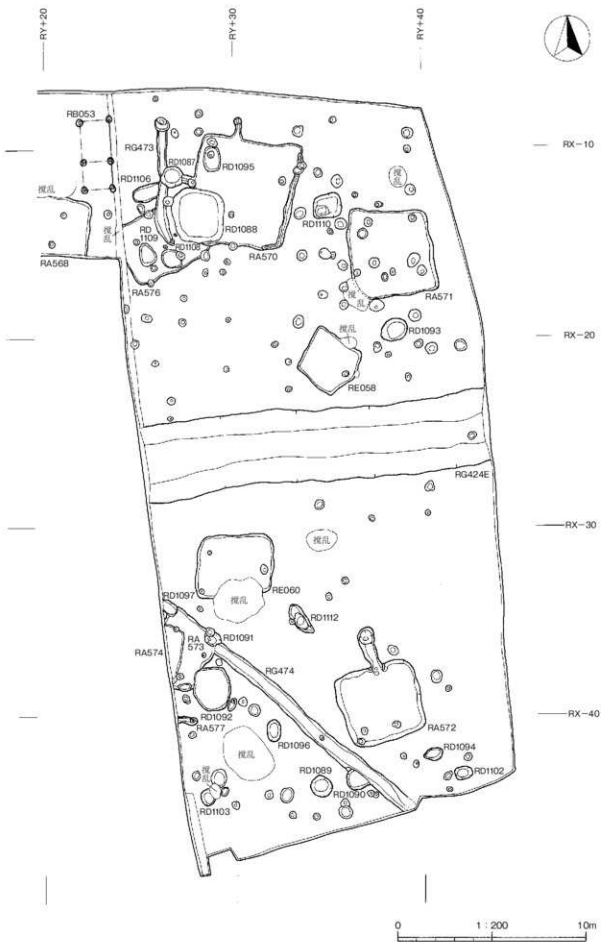
第 22 图 第 42 次調査区全体図



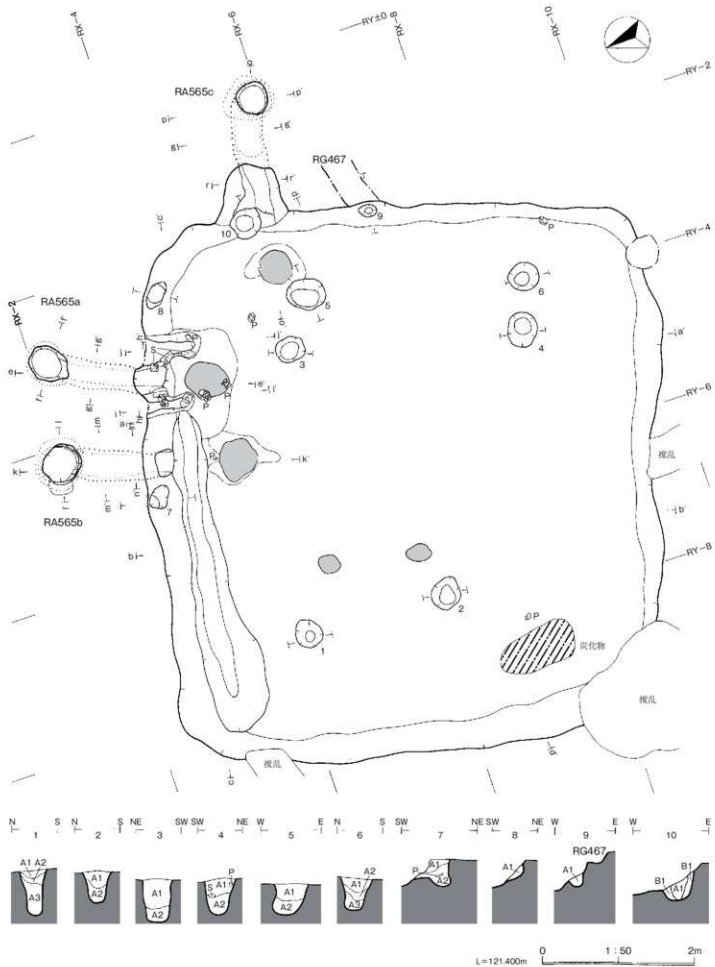
第 23 图 第 45 次調査区全体图



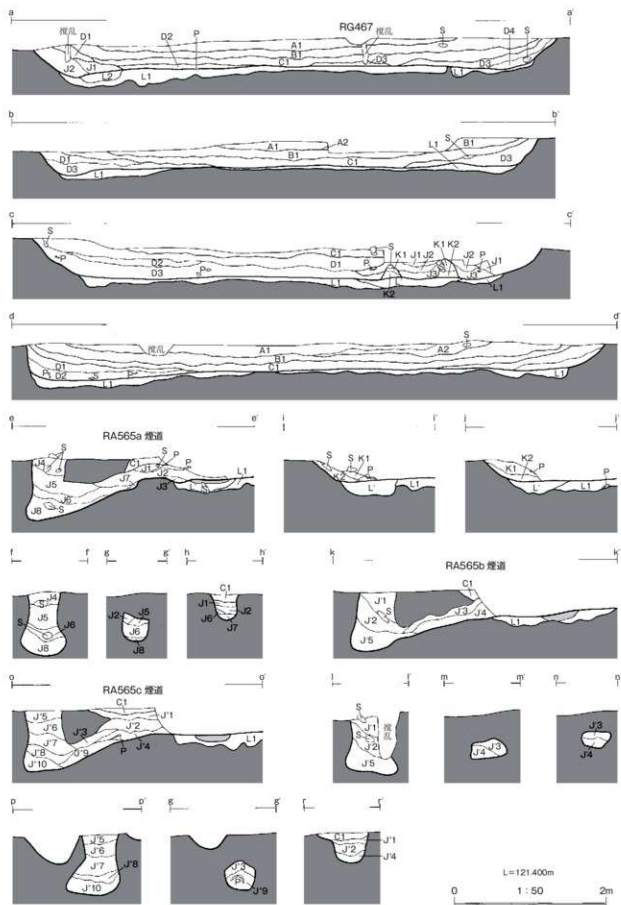
第 24 图 第 45 次調査区西半分全体图



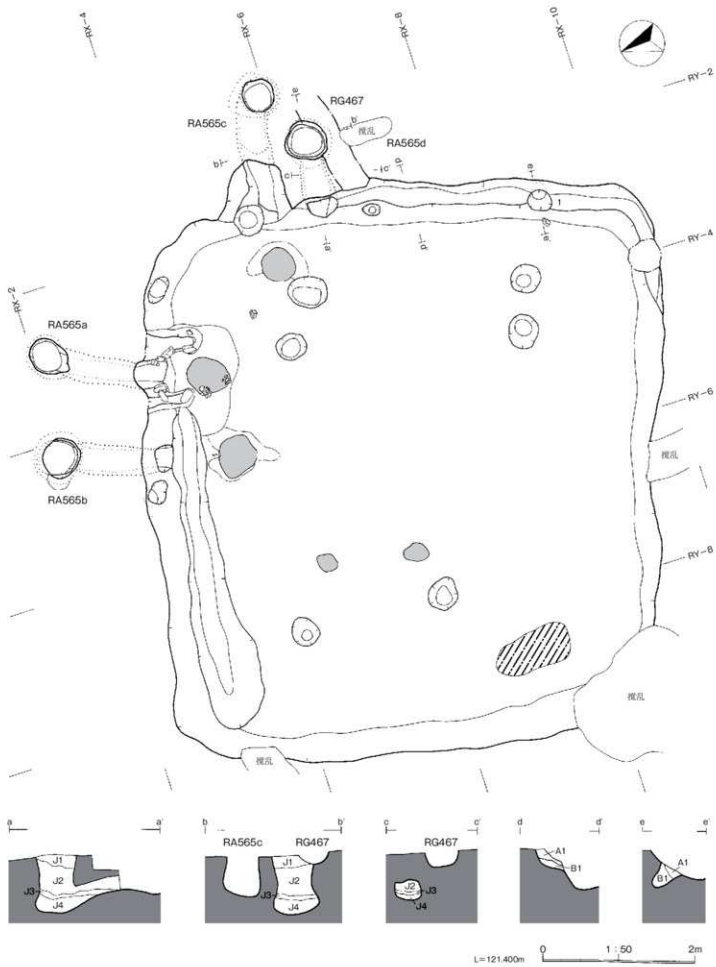
第 25 図 第 45 次調査区東半分全体図



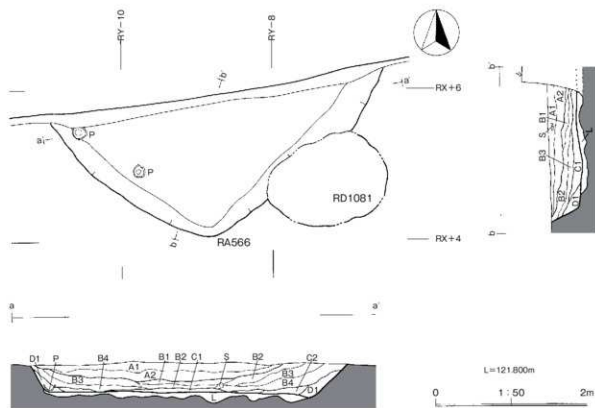
第26図 第45次調査RA565a・b・c竪穴住居跡(1)



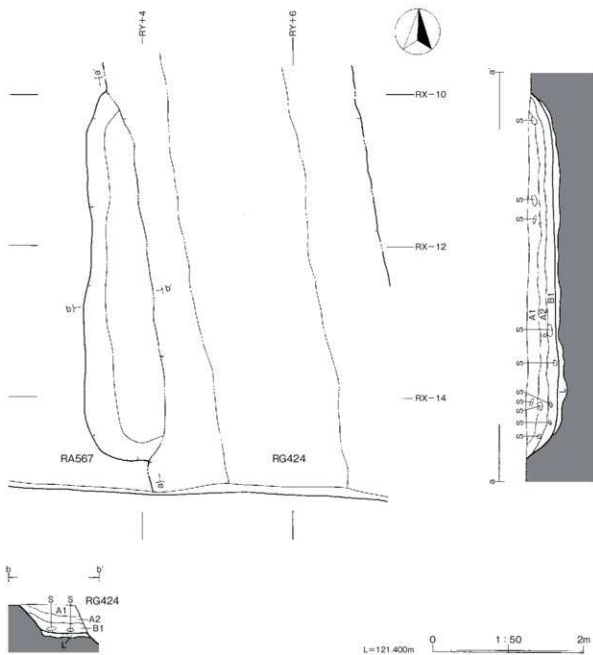
第27图 第45次調査RA565a・b・c 竪穴住居跡 (2)



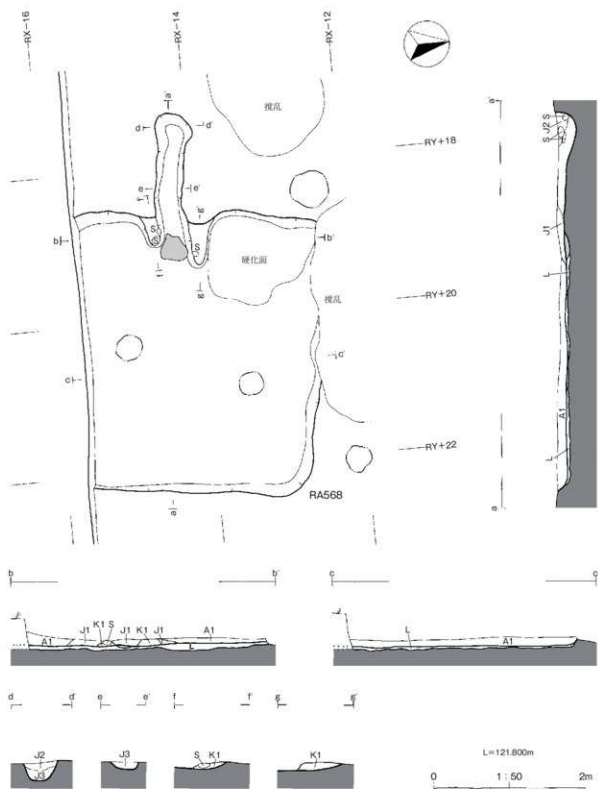
第28図 第45次調査 RA565d 竪穴住居跡



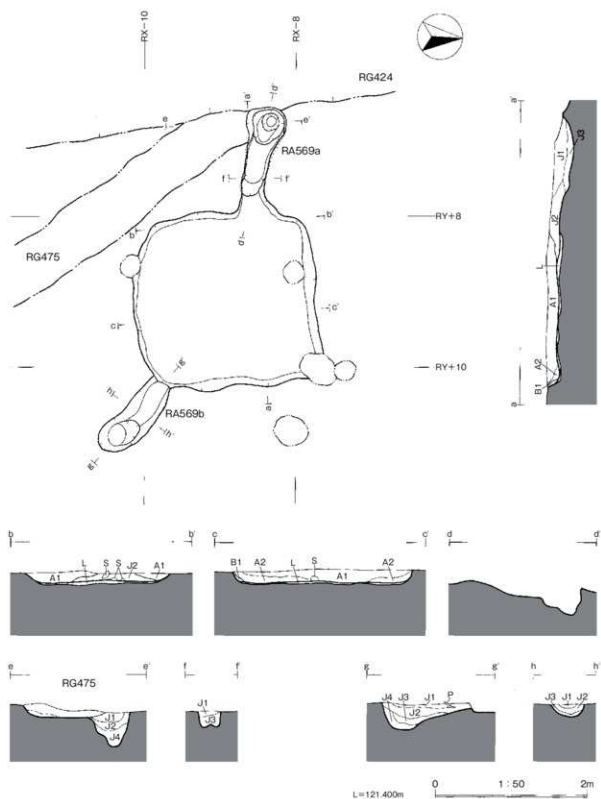
第 29 図 第 45 次調査 RA566 竪穴住居跡



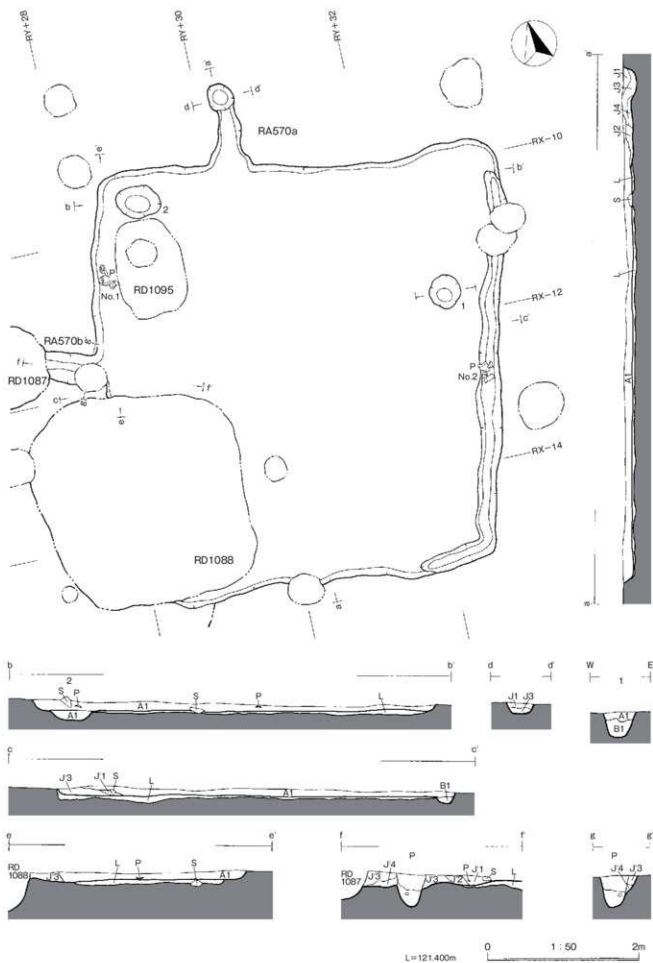
第 30 図 第 45 次調査 RA567 竪穴住居跡



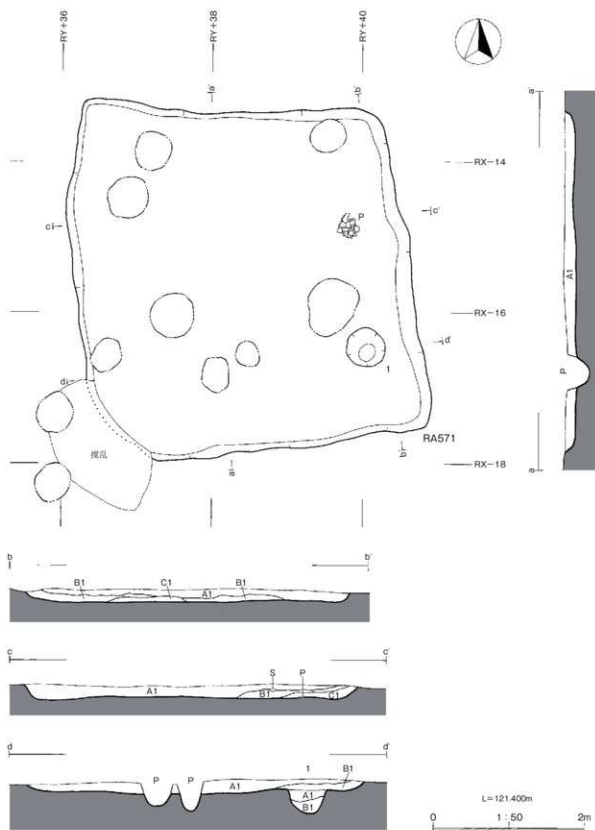
第 31 図 第 45 次調査 RA568 竪穴住居跡



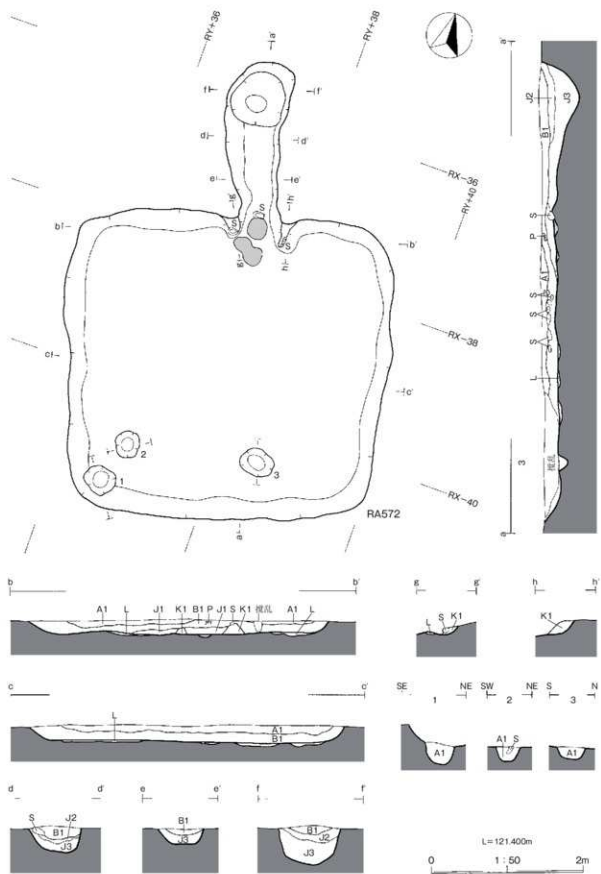
第32図 第45次調査 RA569a・b 竪穴住居跡



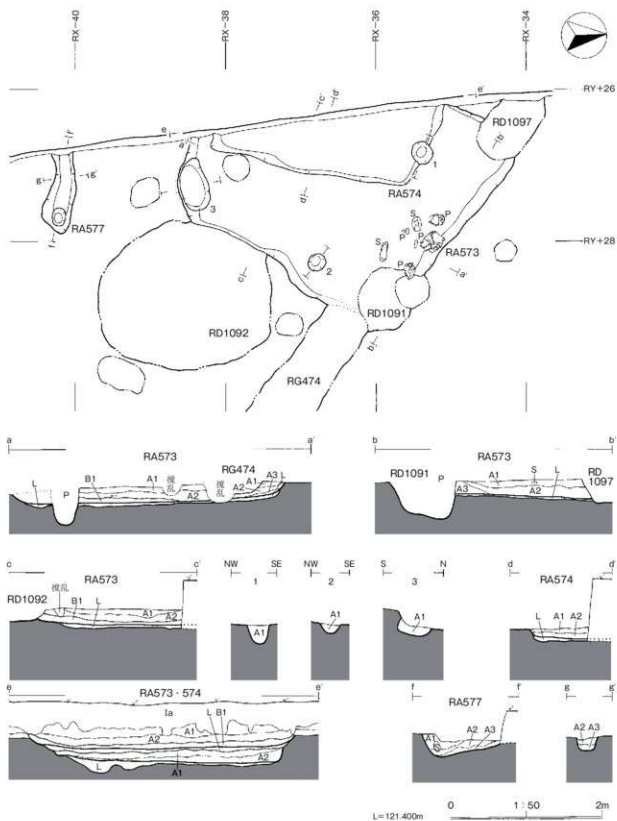
第33図 第45次調査 RA570a・b 竪穴住居跡



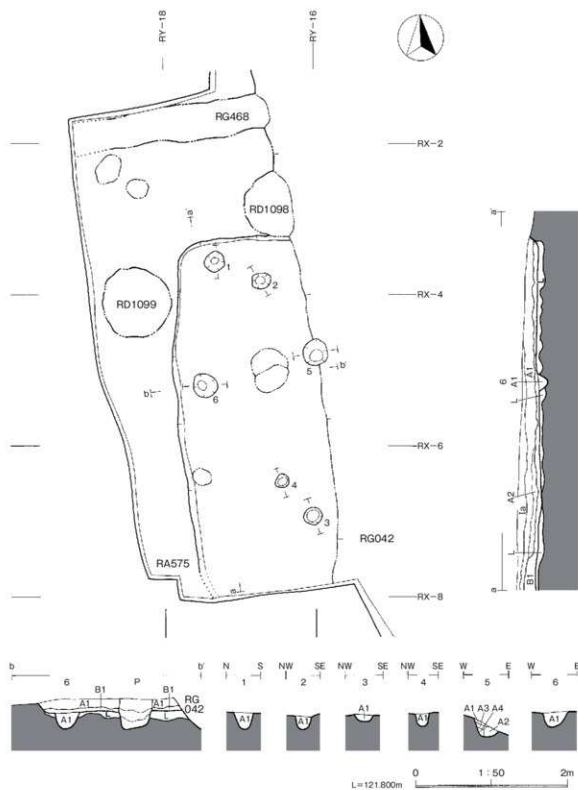
第34図 第45次調査 RA571 竪穴住居跡



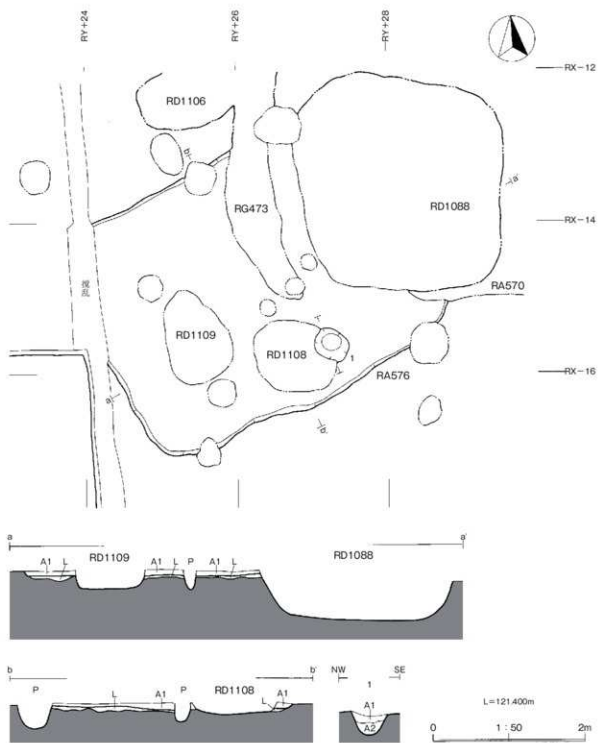
第35図 第45次調査 RA572 竪穴住居跡



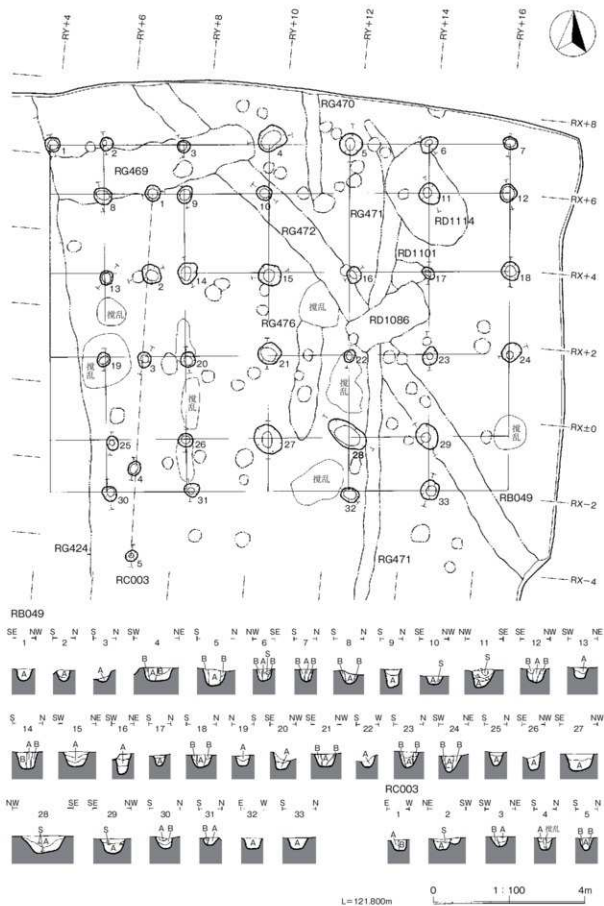
第36図 第45次調査RA573・574・577 竖穴住居跡



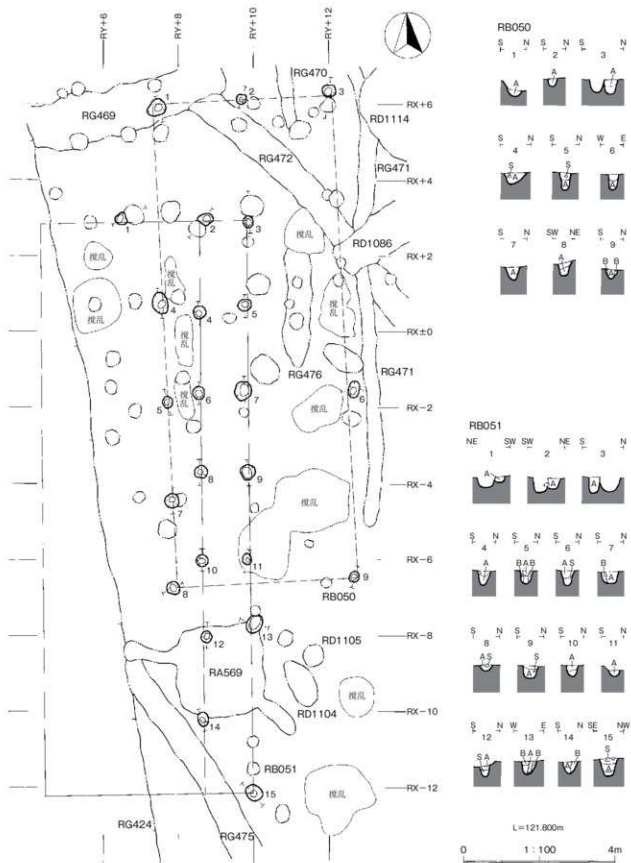
第 37 图 第 45 次調査 RA575 竪穴住居跡



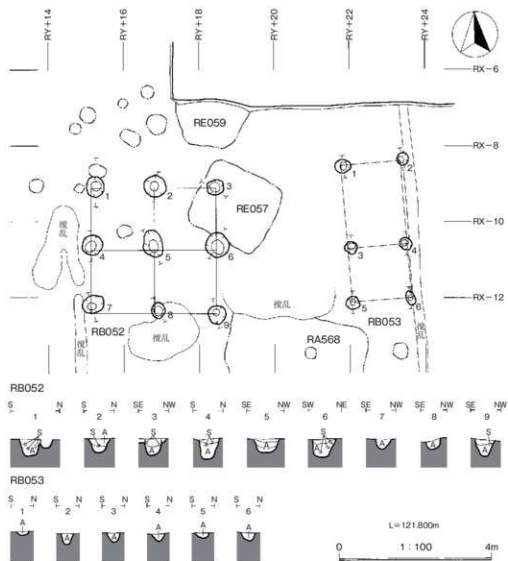
第 38 图 第 45 次調査 RA576 竖穴住居跡



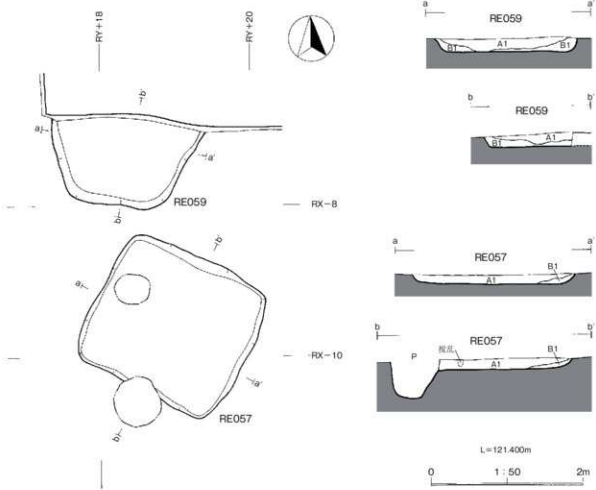
第39图 第45次調査RB049掘立柱建物跡、RC003柱列跡



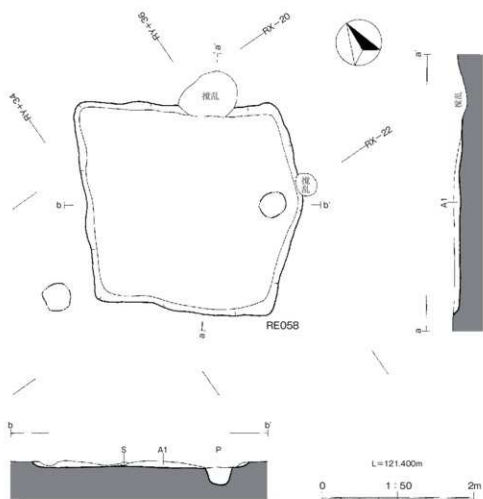
第 40 图 第 45 次調査 RB050・051 掘立柱建物跡



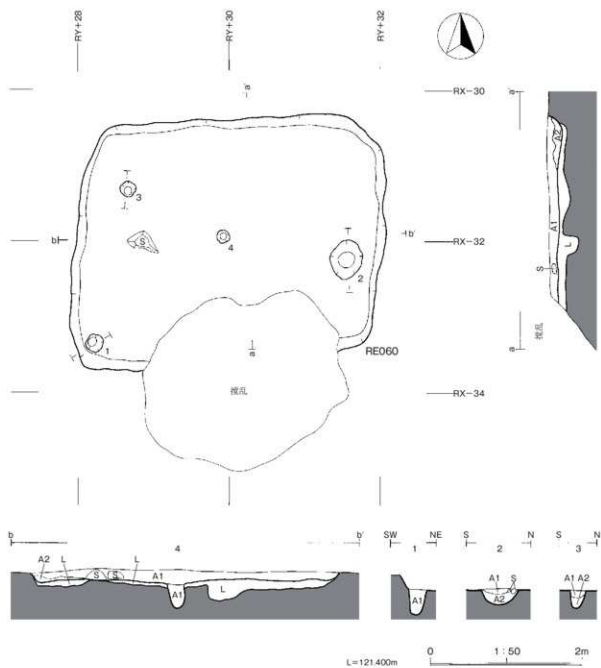
第41図 第45次調査RB052・053掘立柱建物跡



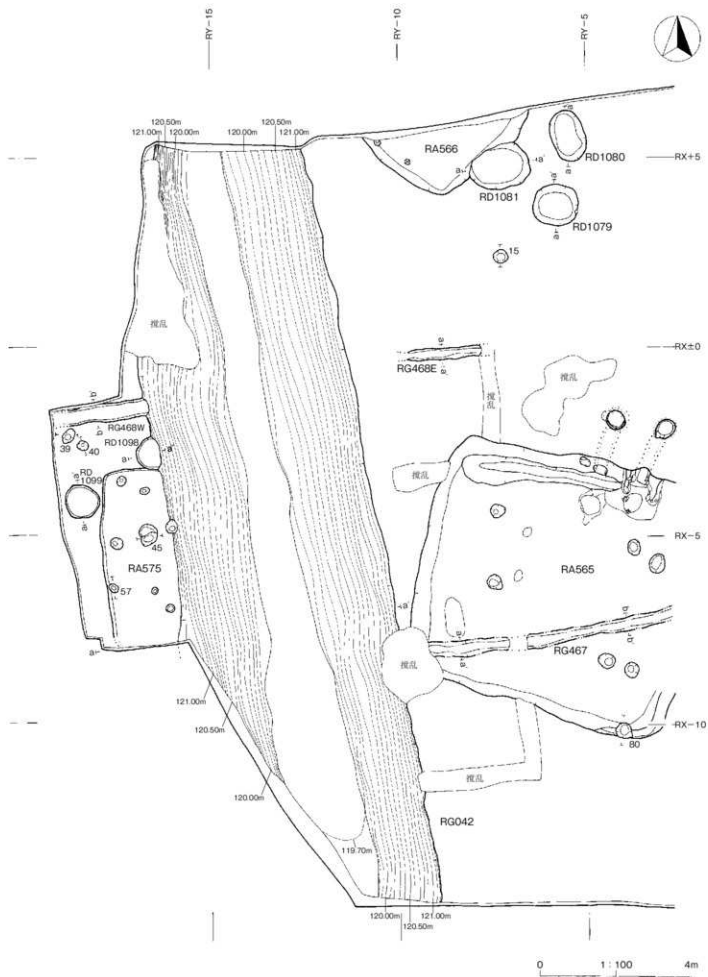
第 42 図 第 45 次調査 RE057・059 竪穴状遺構



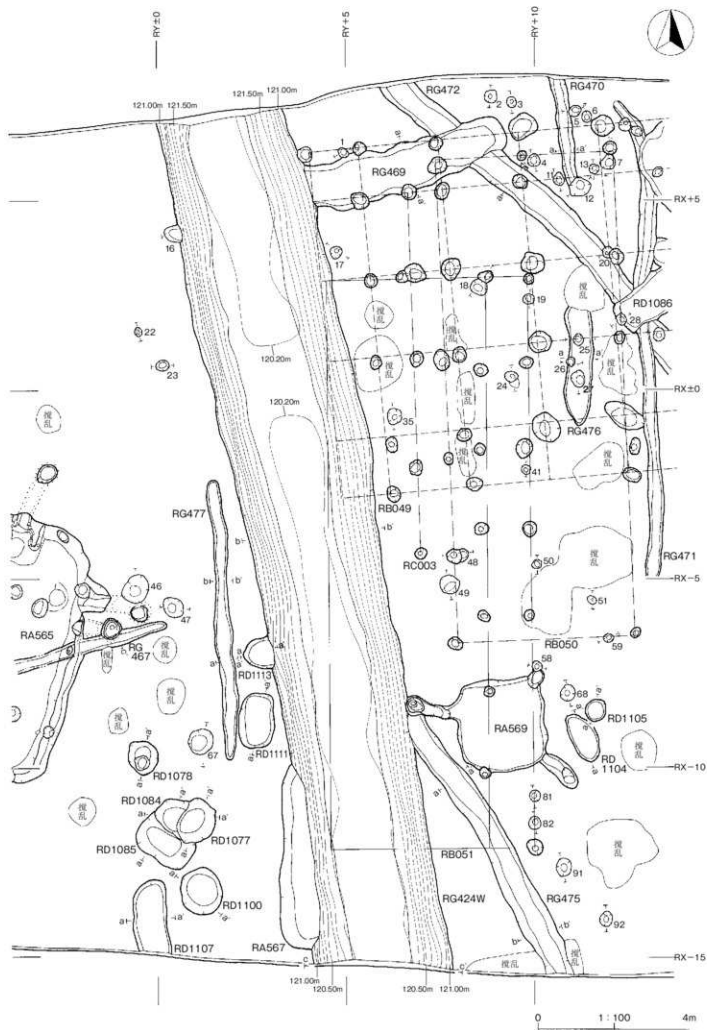
第 43 図 第 45 次調査 RE058 竪穴状遺構

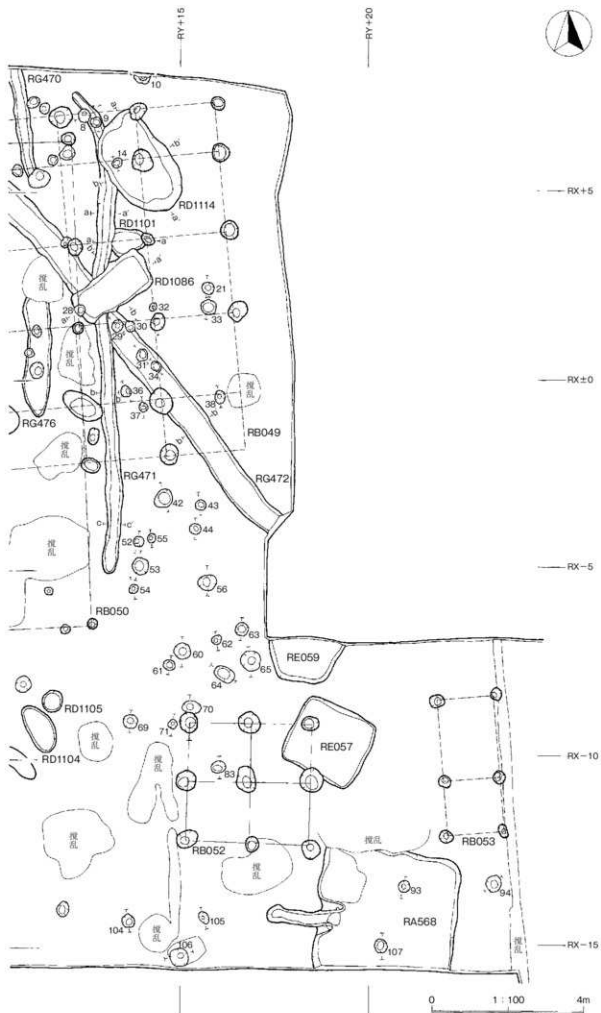


第 44 図 第 45 次調査 RE060 竪穴状遺構

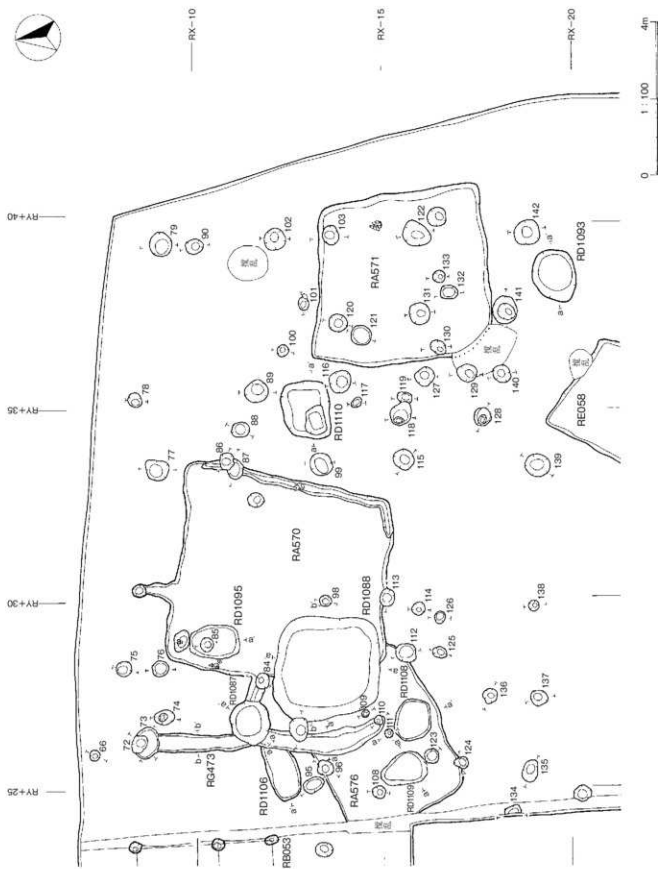


第45図 第45次調査RD1079・1080・1081・1098・1099土坑, RG042・467・468溝跡, ピット

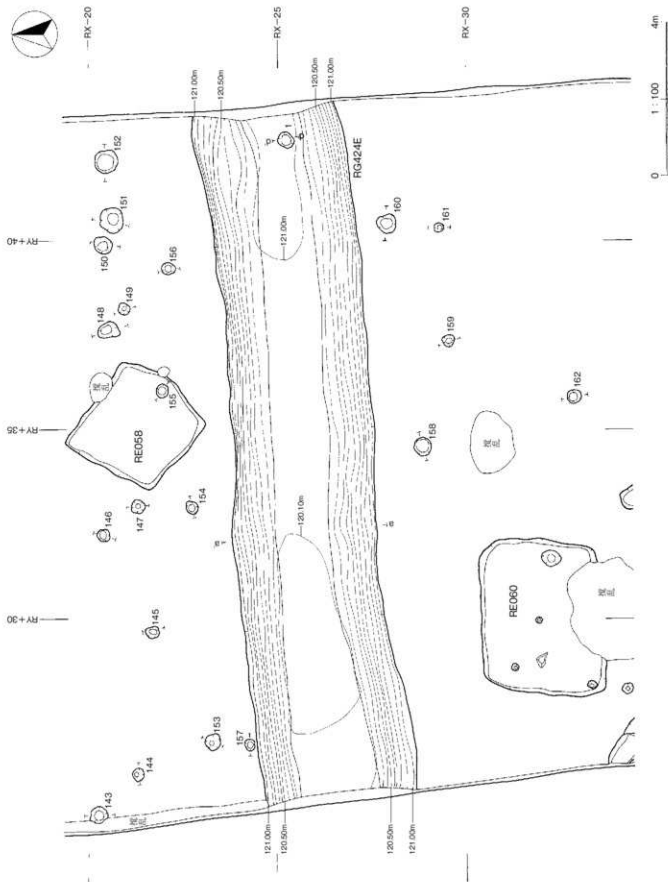




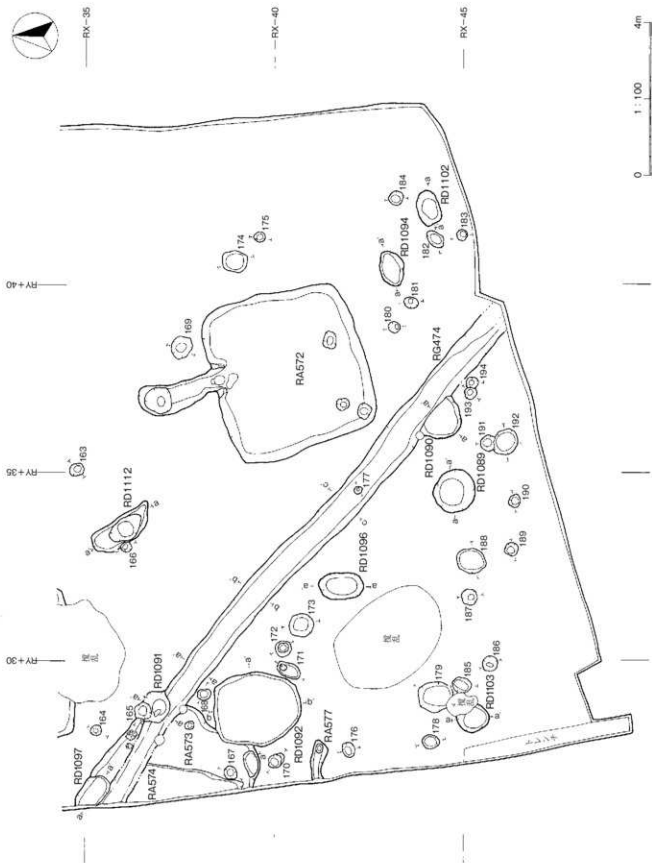
第47図 第45次調査RD1086・1101・1114土坑, RG471・472土坑, ビット



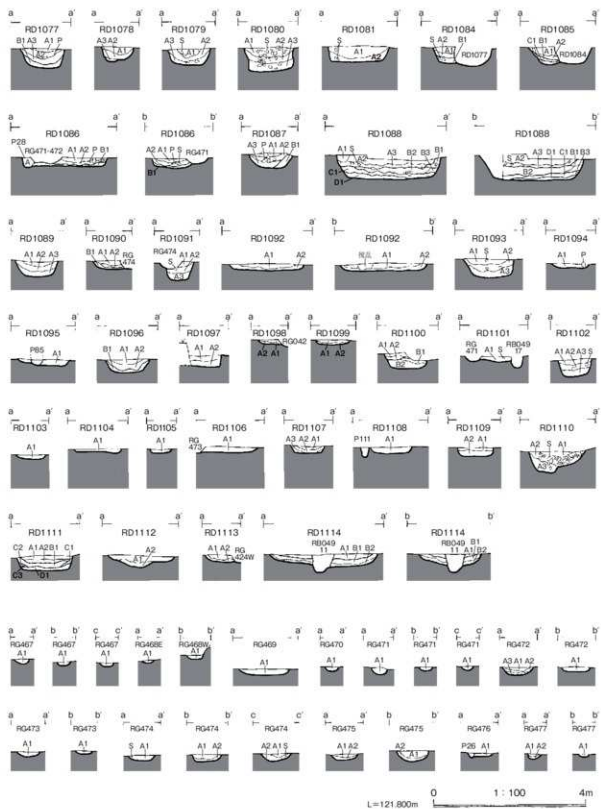
第48図 第45次調査RD1087・1088・1093・1095・1106・1108・1109・1110土坑, RG473溝跡, ビット



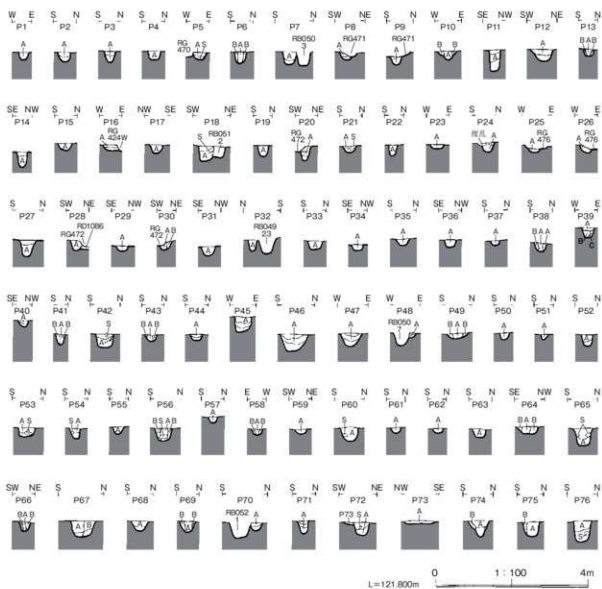
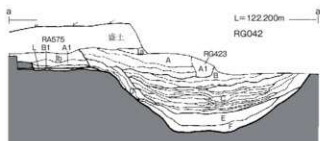
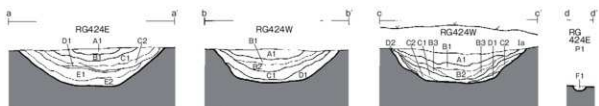
第49図 第45次調査RG424E溝跡、ピット



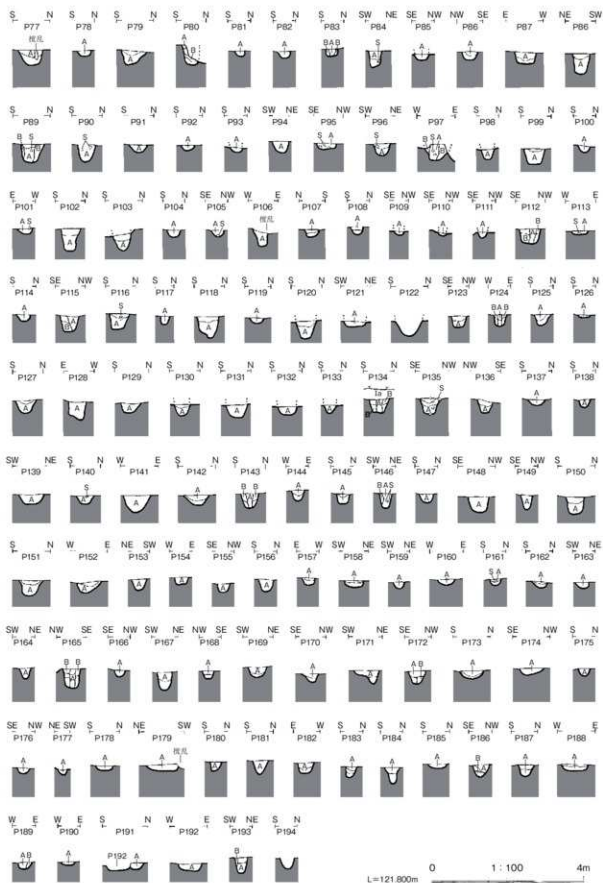
第50図 第45次調査 RD1089・1090・1091・1092・1094・1096・1097・1102・1103・1112土坑, RG474溝跡, ビット



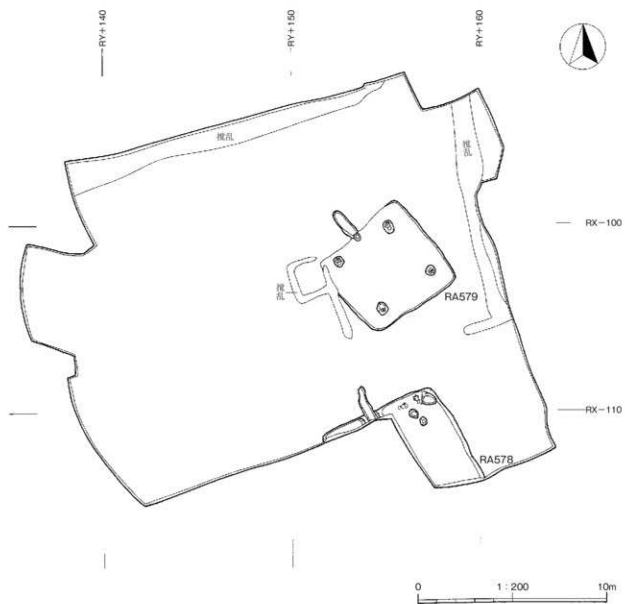
第 51 図 第 45 次調査 土坑・溝跡断面図



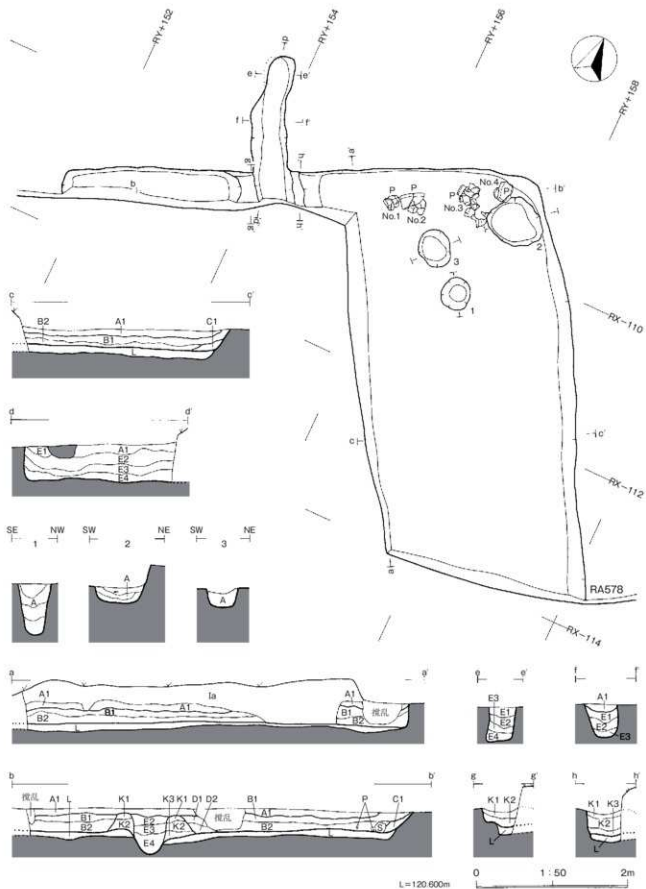
第52図 第45次調査 溝跡・ピット断面図



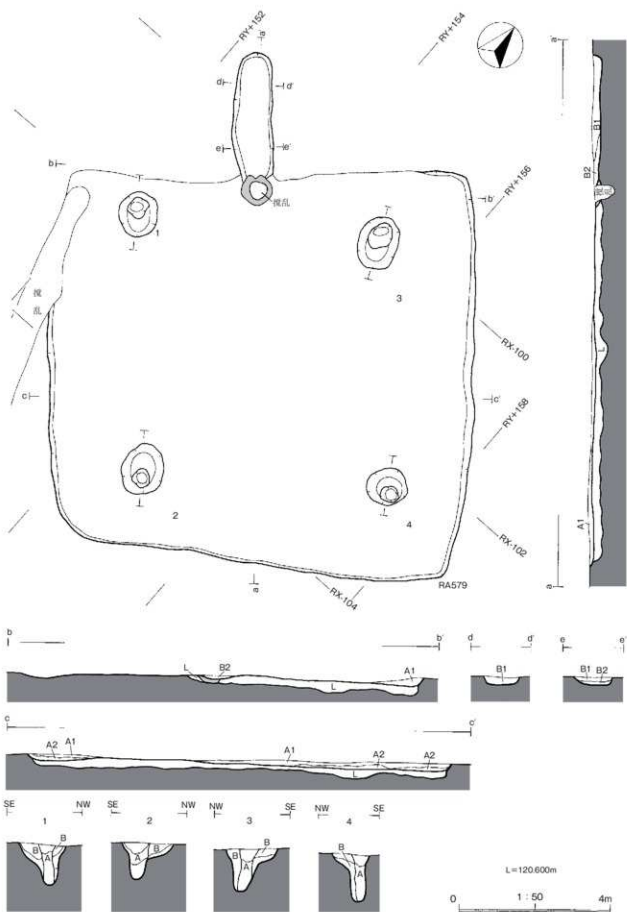
第53図 第45次調査 ピット断面図



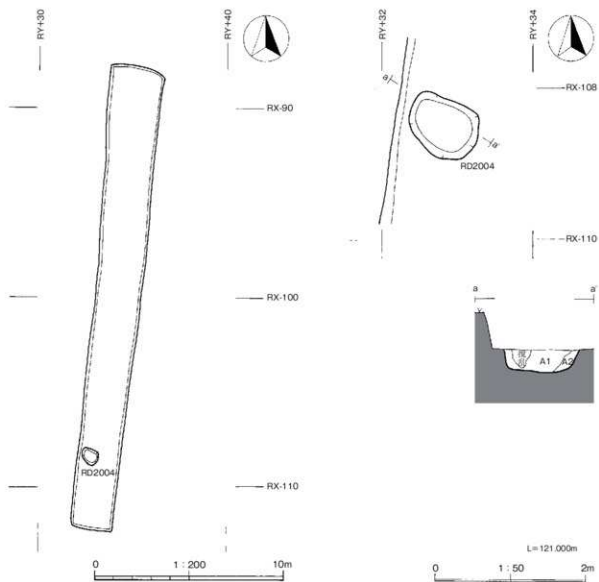
第 54 図 第 46 次調査区 全体図



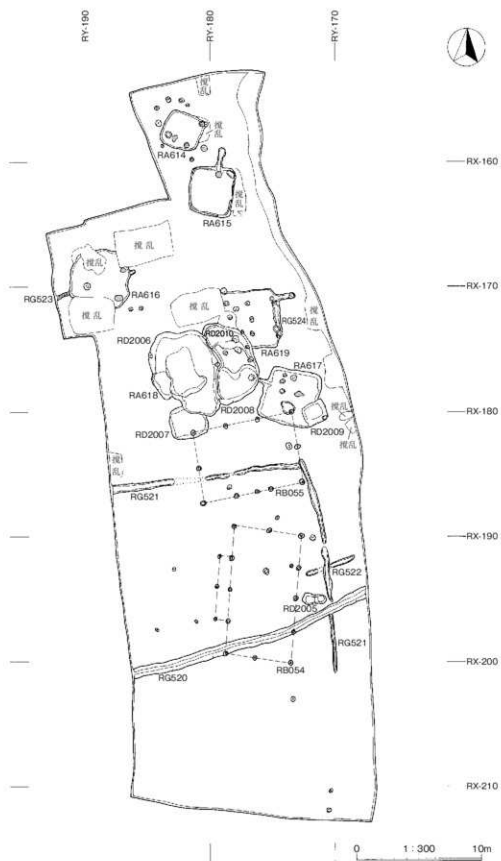
第 55 図 第 46 次調査 RA578 竪穴住居跡



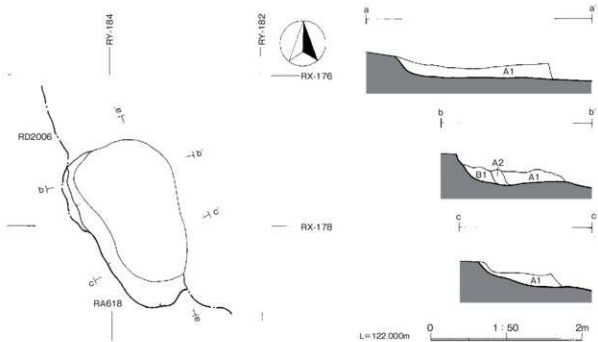
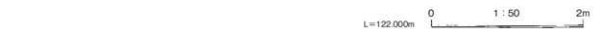
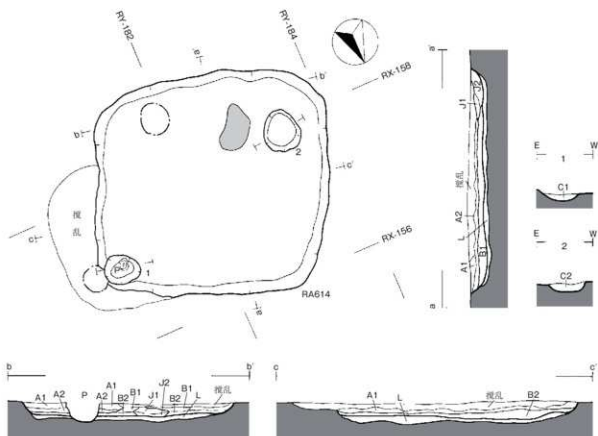
第56図 第46次調査 RA579 竪穴住居跡



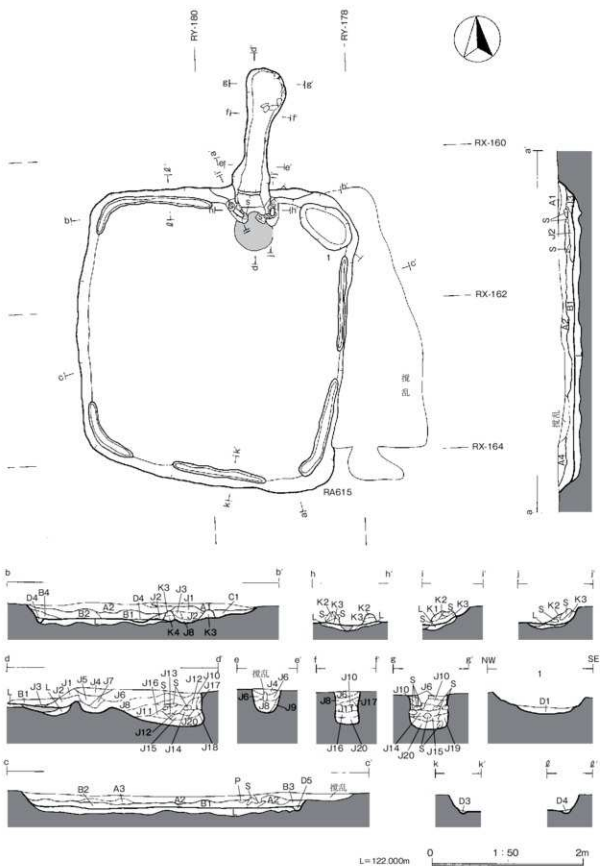
第 57 图 第 56 次調査区 全体図・RD2004 土坑



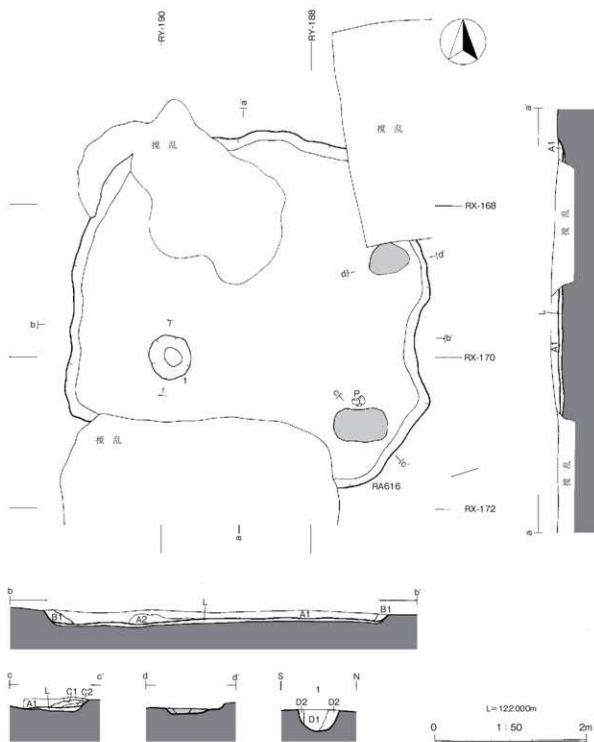
第 58 图 第 57 次調査区 全体图



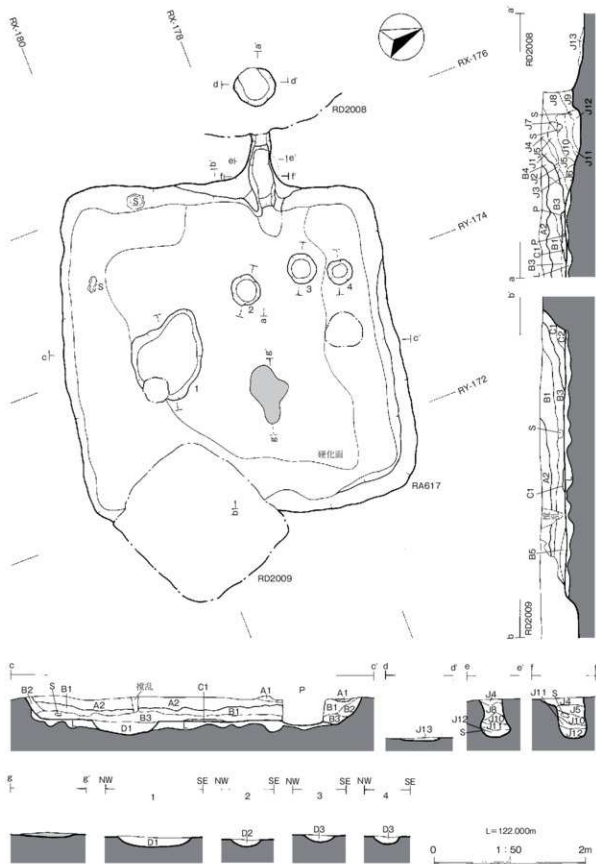
第59图 第57次調査 RA614・618 竪穴住居跡

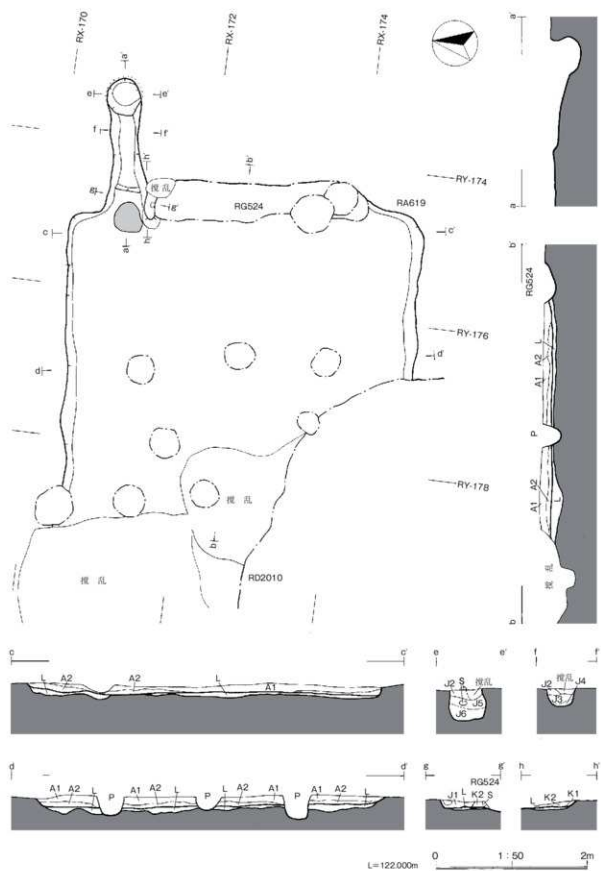


第60図 第57次調査 RA615 竪穴住居跡

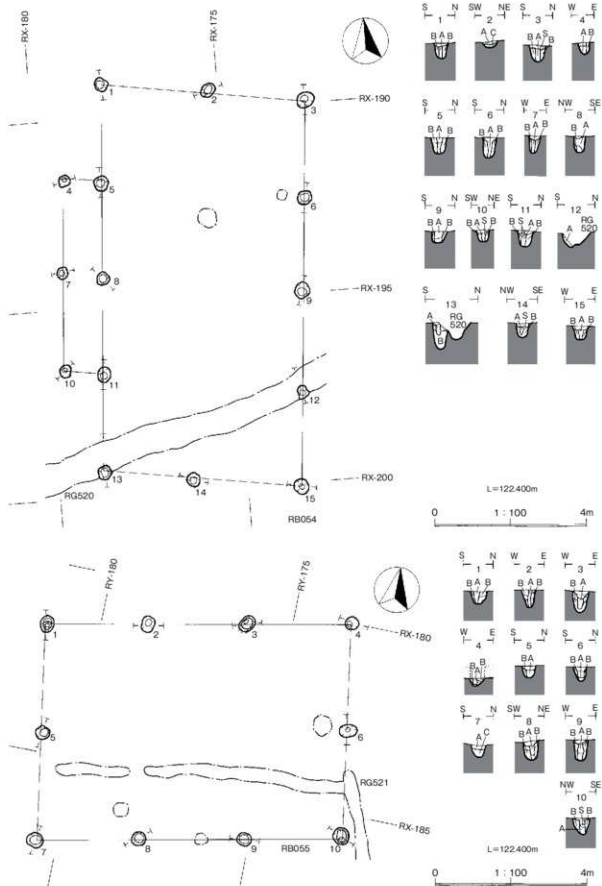


第 61 図 第 57 次調査 RA616 竪穴住居跡

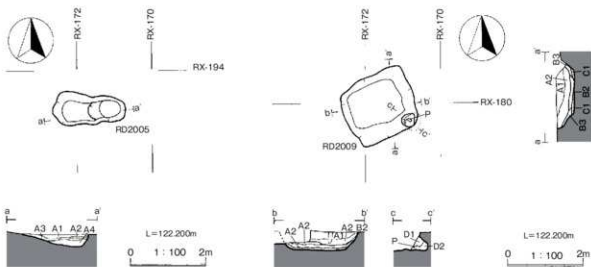
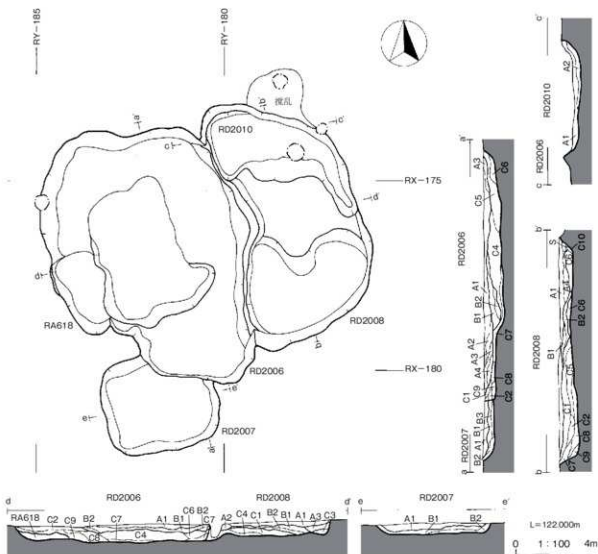




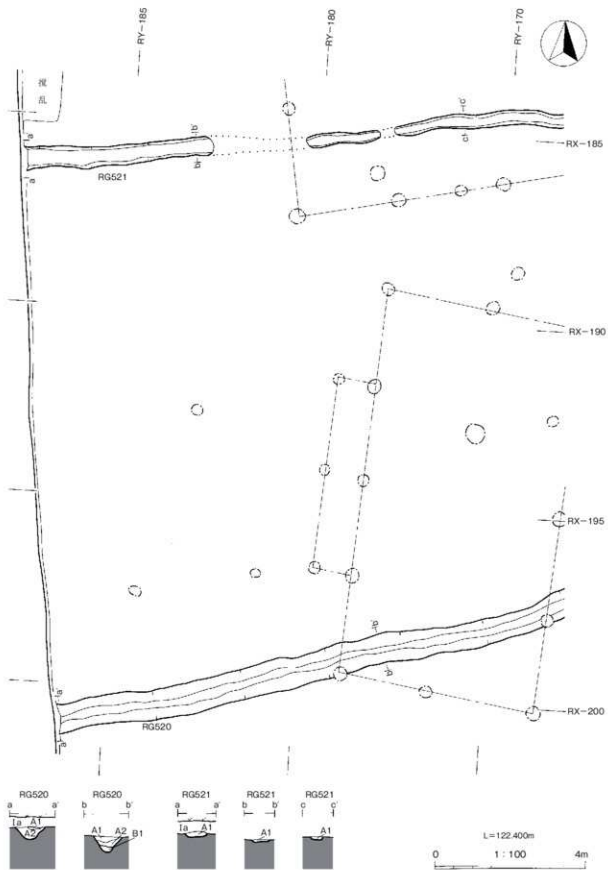
第63図 第57次調査 RA619 竪穴住居跡



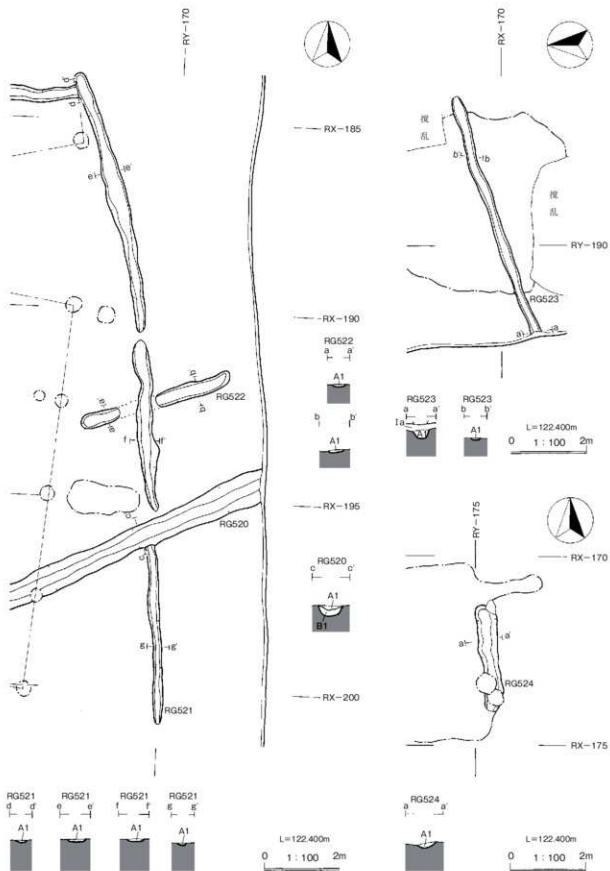
第 64 図 第 57 次調査 RB054・055 掘立柱建物跡



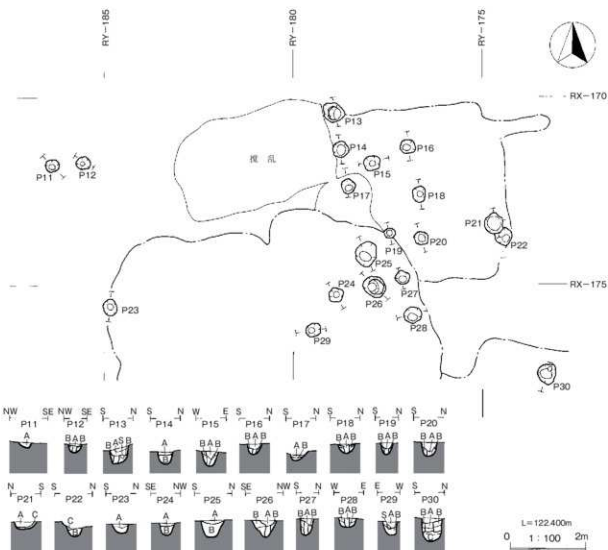
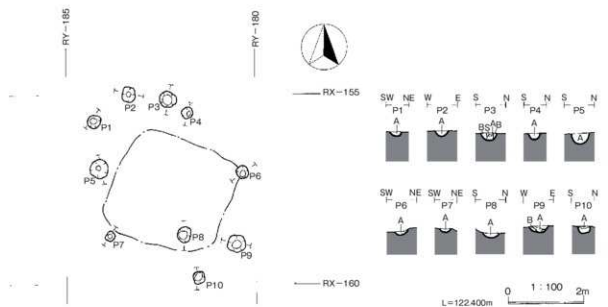
第 65 図 第 57 次調査 RD2005~2010 土坑



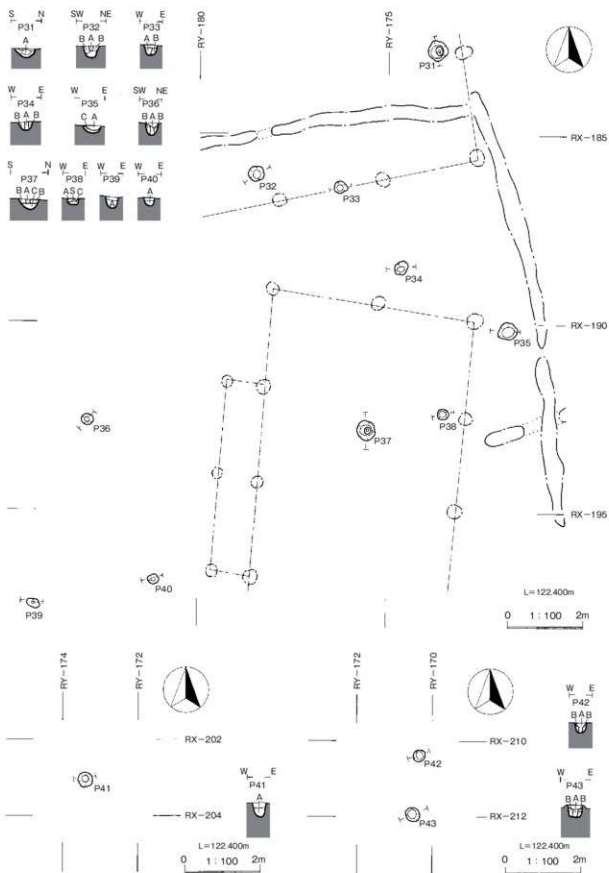
第 66 図 第 57 次調査 RG520・521 溝跡



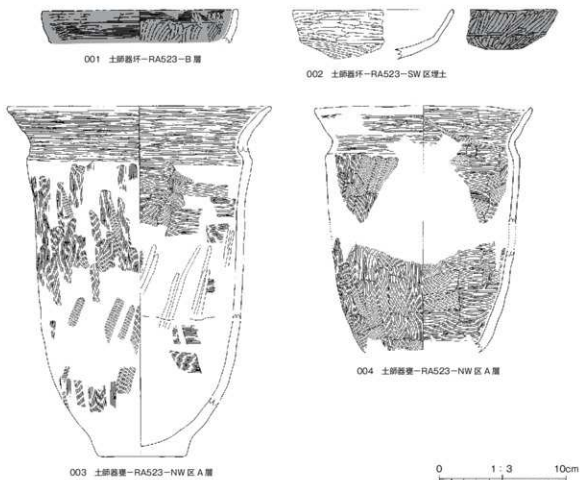
第 67 図 第 57 次調査 RG520~524 溝跡



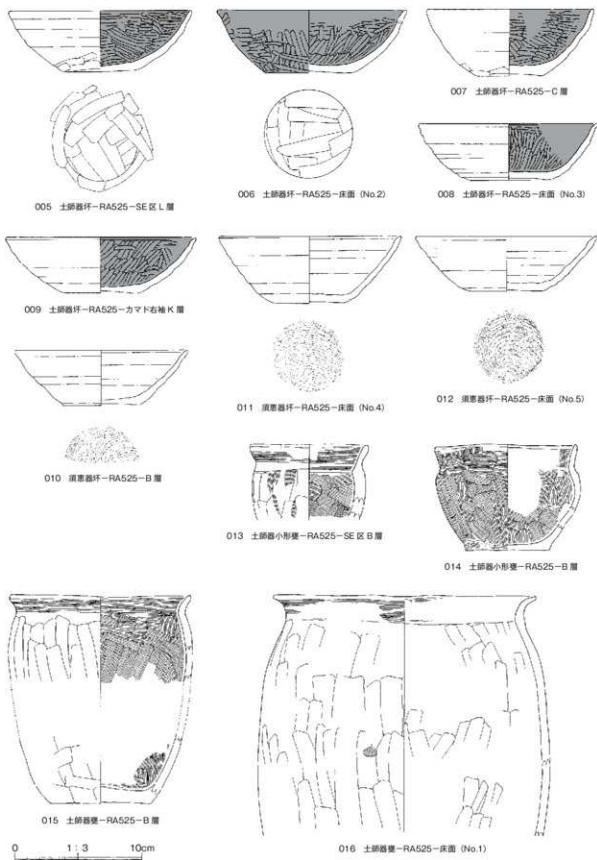
第 68 図 第 57 次調査ピット (1)



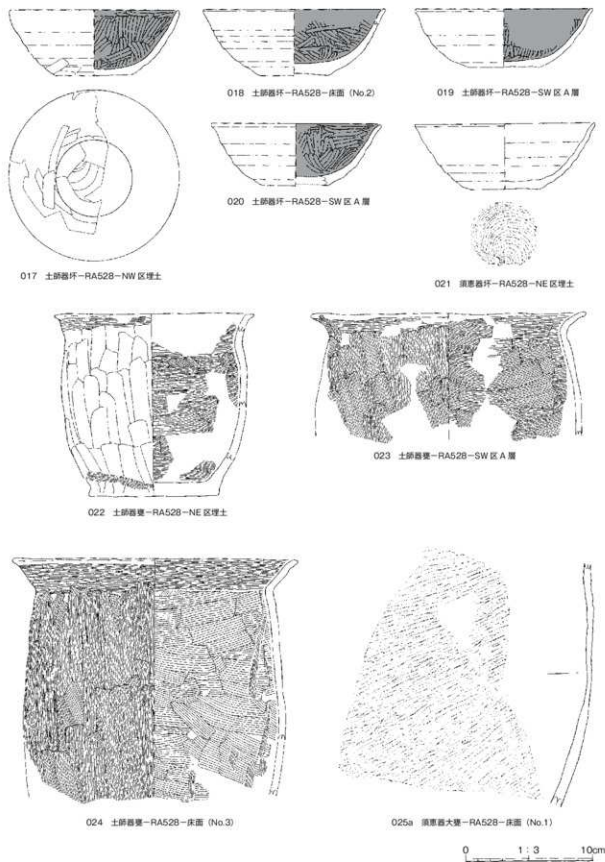
第 69 図 第 57 次調査ピット (2)



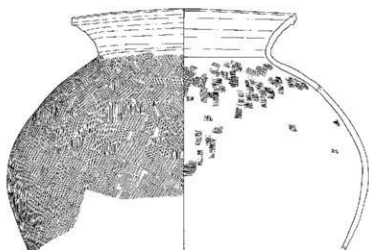
第 70 図 第 37 次調査 RA523 出土土器



第71図 第39次調査 RA525 出土土器



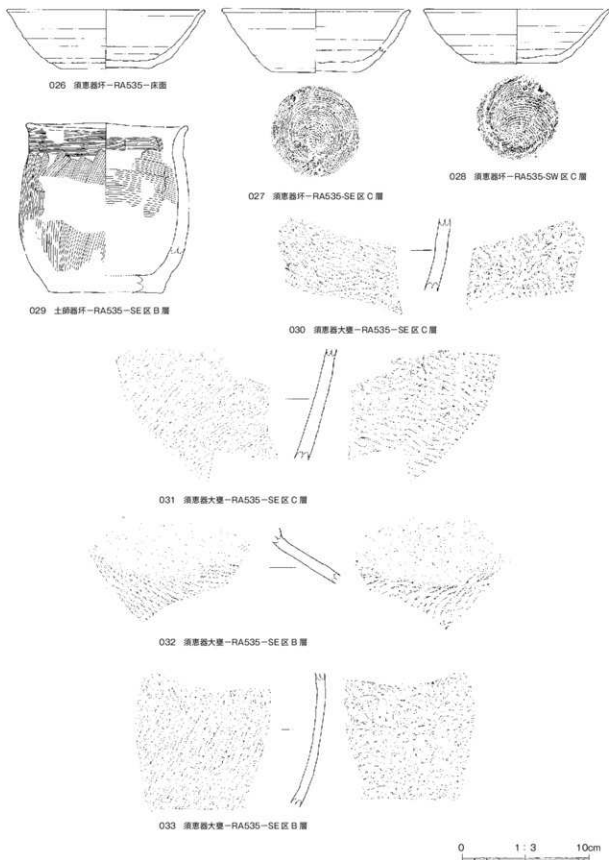
第72図 第39次調査RA528出土土器(1)



025b 須原器大甕—RA528—床面 (No.1)

0 1:6 20cm

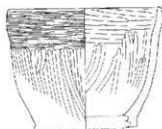
第73図 第39次調査 RA528 出土土器 (2)



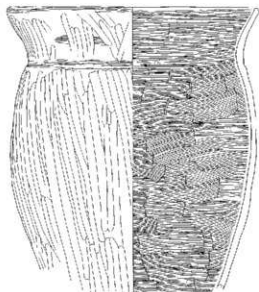
第74図 第39次調査RA535出土土器



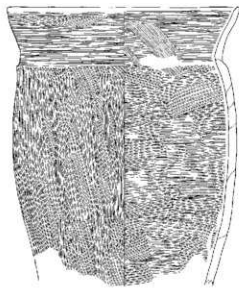
034 あかやき土器片-RA534-NW区L層



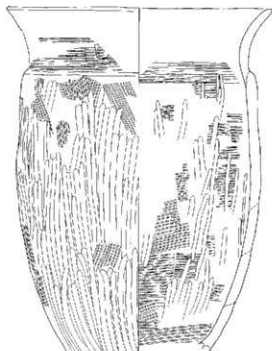
035 土師器小形甕-RA534-A層



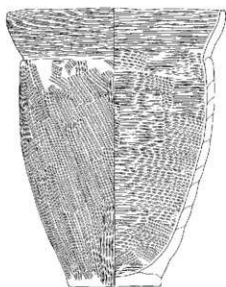
036 土師器甕-RA534-床面 (No.4)



037 土師器甕-RA534-床面 (No.5)



038 土師器甕-RA534-床面 (No.3)



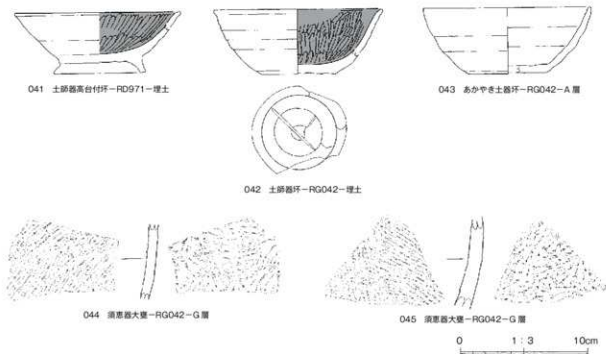
039 土師器甕-RA534-床面 (No.6)



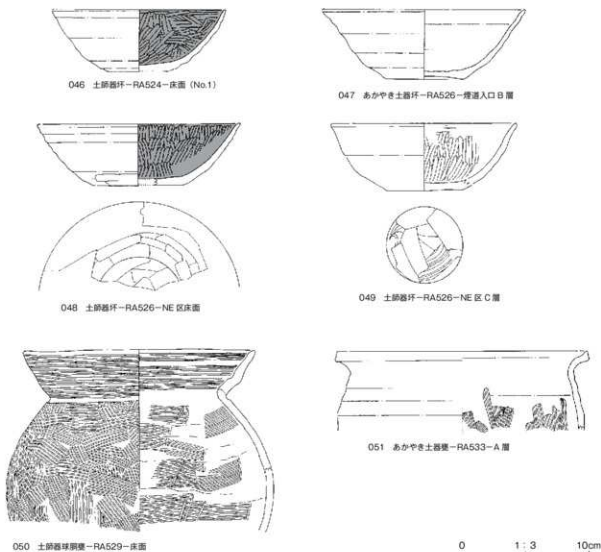
第75図 第39次調査RA534出土土器(1)



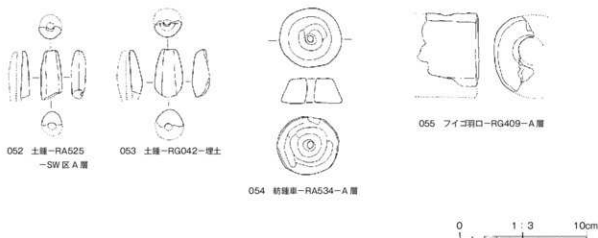
第76図 第39次調査 RA534 出土土器 (2)



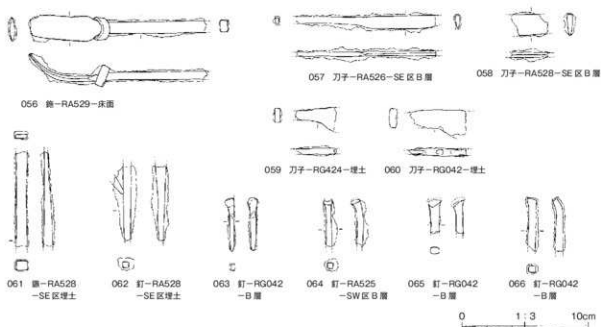
第77図 第39次調査 RD971・RG042 出土土器



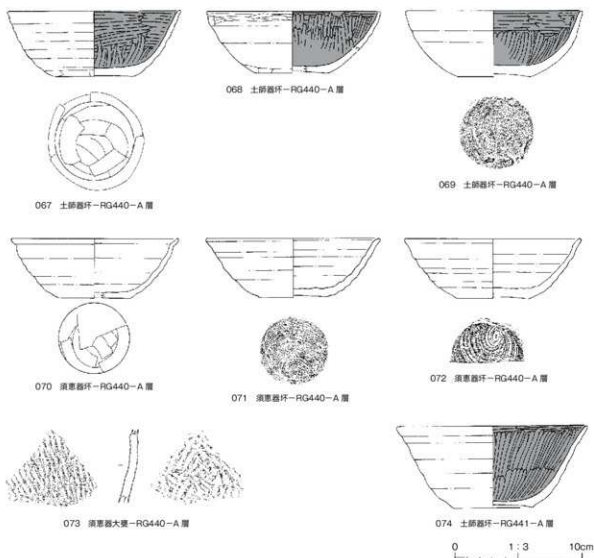
第78図 第39次調査 RA524・526・529・533 出土土器



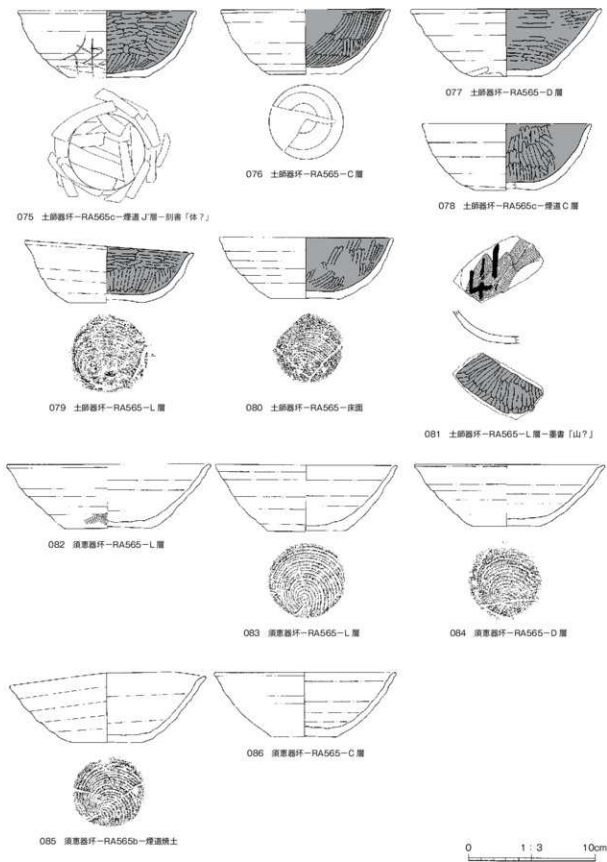
第79図 第39次調査出土土製品



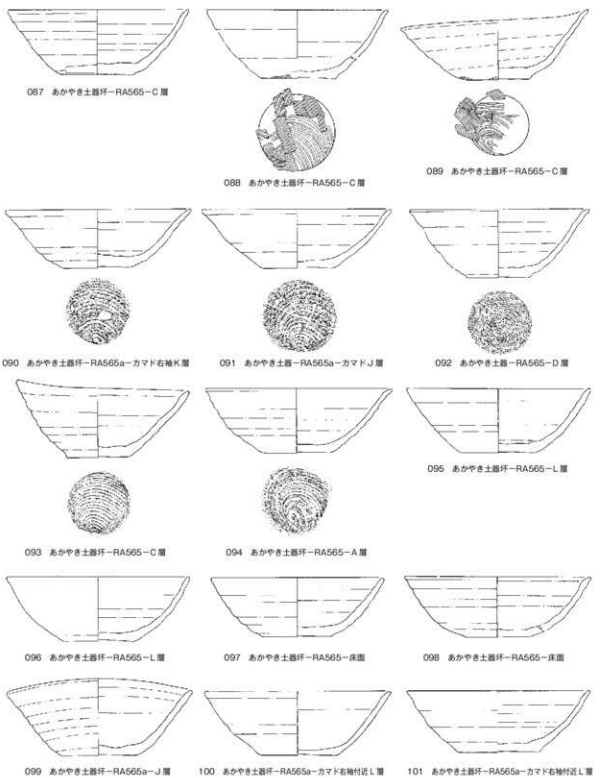
第80図 第39次調査出土鉄製品



第 81 図 第 42 次調査 RG440・441 出土土器

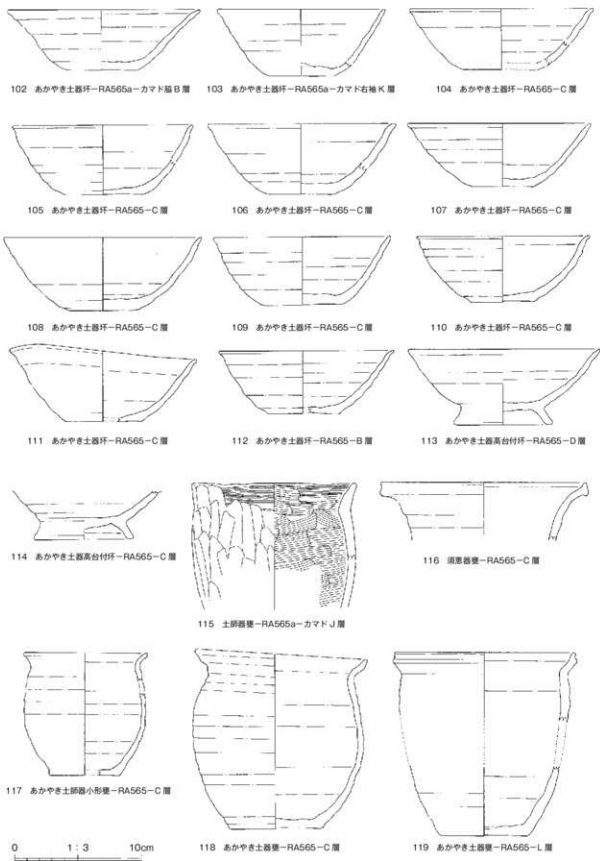


第 82 図 第 45 次調査 RA565 出土土器 (1)



0 1:3 10cm

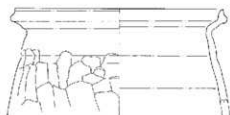
第 83 図 第 45 次調査 RA565 出土土器 (2)



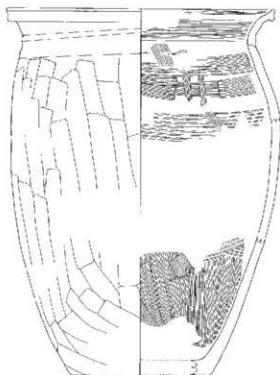
第84図 第45次調査 RA565 出土土器 (3)



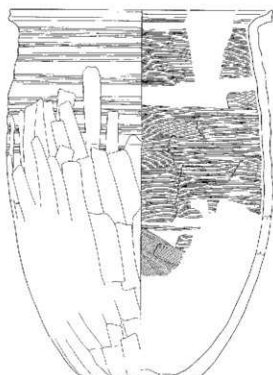
120 あかやき土器壺-RA565-C Ⅷ



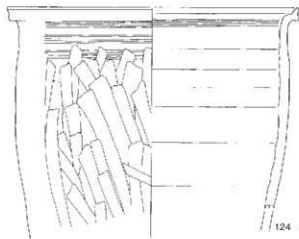
121 あかやき土器壺-RA565a-カマド右袖KⅧ



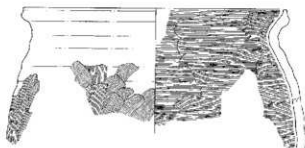
122 あかやき土器壺-RA565c-JⅧ



123 あかやき土器壺-RA565-C Ⅷ



124 あかやき土器壺-RA565c-徳清JⅧ



125 あかやき土器壺-RA565a-JⅧ

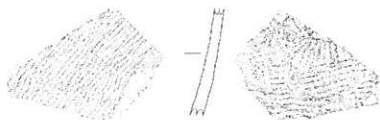


第85図 第45次調査 RA565 出土土器 (4)



126 須恵器大甕—RA565—C 片

127 須恵器大甕—RA565—C 片

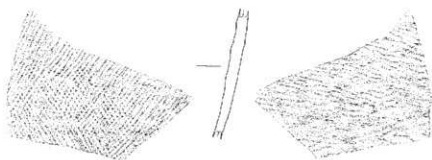


128 須恵器大甕—RA565—B 片



129 須恵器大甕—RA565a—押漕J 片

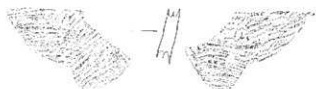
130 須恵器大甕—RA565—L 片



131 須恵器大甕—RA565—床面



132 須恵器大甕—RA565—C 片



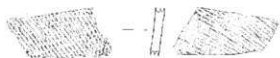
133 須恵器大甕—RA565—D 片



第 86 図 第 45 次調査 RA565 出土土器 (5)



134 須恵器大甕—RA565—A層



135 須恵器大甕—RA565—C層



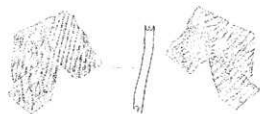
136 須恵器大甕—RA565—B層



137 須恵器大甕—RA565—B層



138 須恵器大甕—RA565—B層



139 須恵器大甕—RA565—A層



140 須恵器大甕—RA565—A層



第 87 図 第 45 次調査 RA565 出土土器 (6)



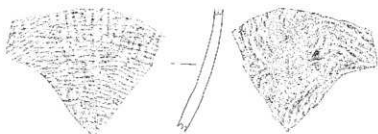
141 土師器坏—RA566—床面—灯明皿？

142 須恵器坏—RA566—B層

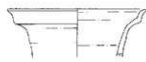
143 あかやき土器坏—RA566—床面



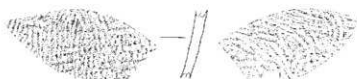
144 あかやき土器坏—RA566—C層



146 須恵器大甕—RA566—C層



145 須恵器長頸瓶—RA566—B層



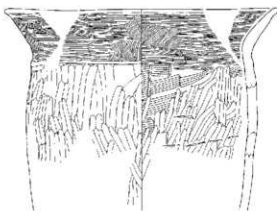
147 須恵器大甕—RA566—B層



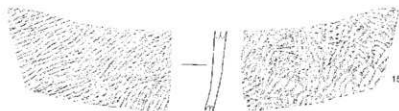
148 須恵器坏—RA567—B層



149 あかやき土器坏—RA567—B層



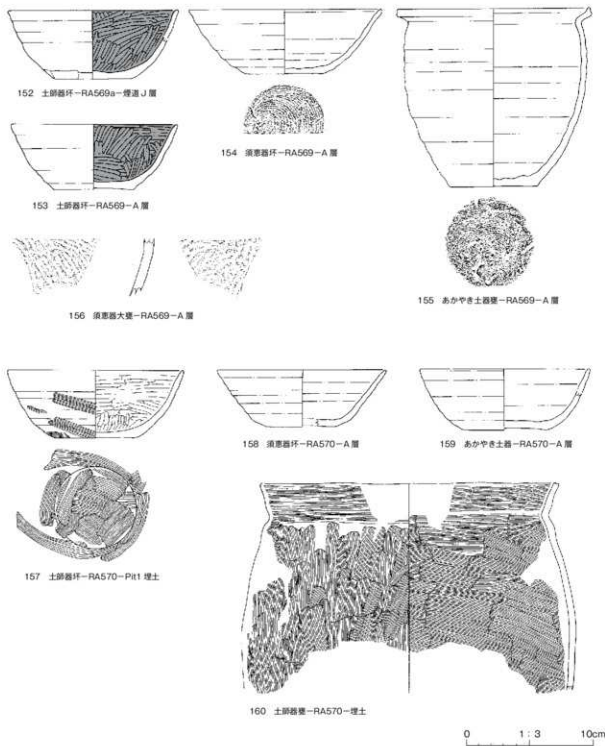
150 土師器甕—RA567—B層



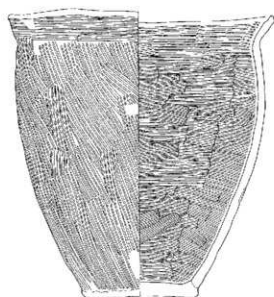
151 須恵器大甕—RA567—B層

0 1:3 10cm

第 88 図 第 45 次調査 RA566・567 出土土器



第 89 図 第 45 次調査 RA569・570 出土土器



161 土師器壺—RA571—底面



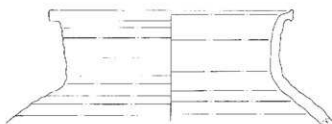
162 土師器杯—RA572—B層



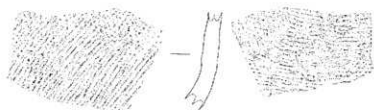
163 須惠器杯—RA572—B層



164 須惠器杯—RA572—B層—墨書「志？」



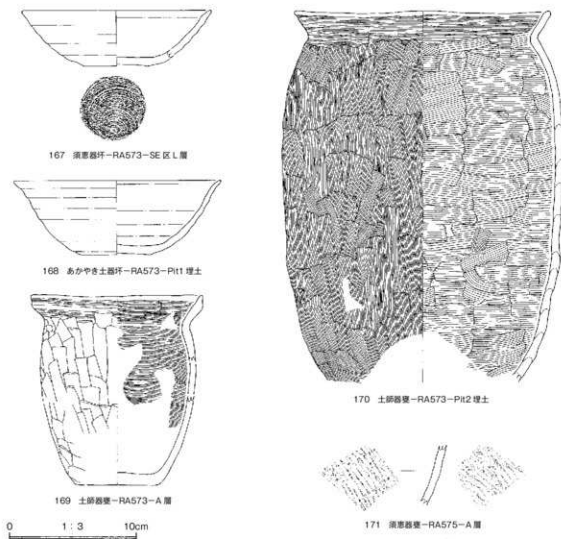
165 須惠器盤—RA572—B層



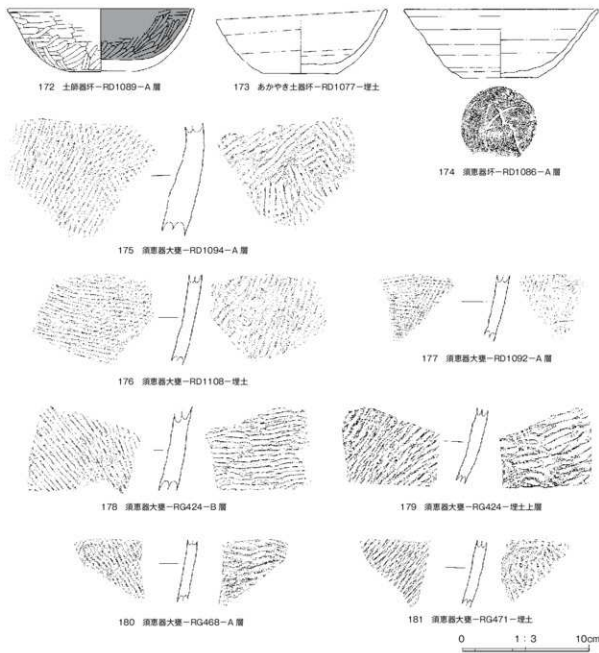
166 須惠器大甕—RA572—B層

0 1:3 10cm

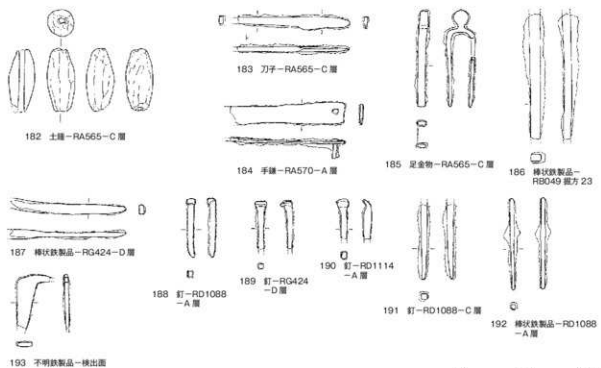
第90図 第45次調査 RA571・572 出土土器



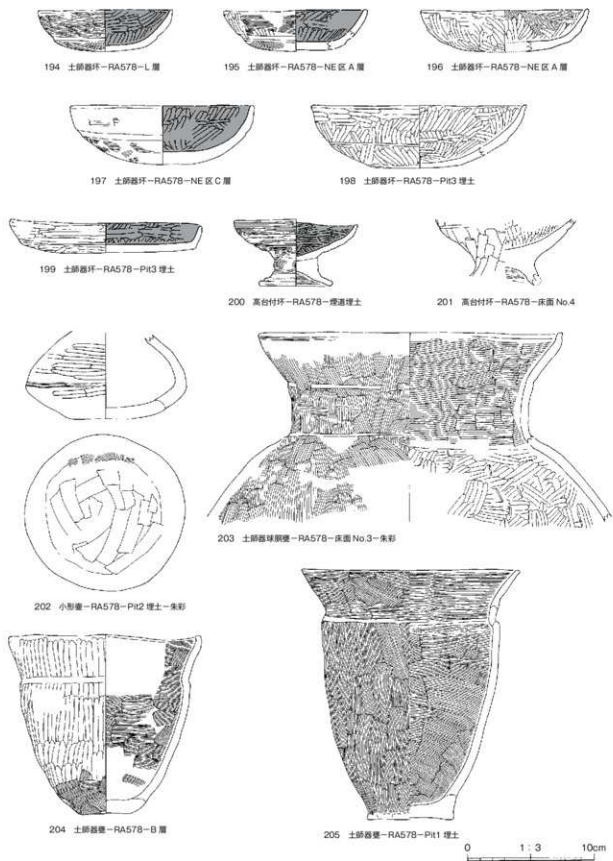
第91図 第45次調査RA573・575出土土器



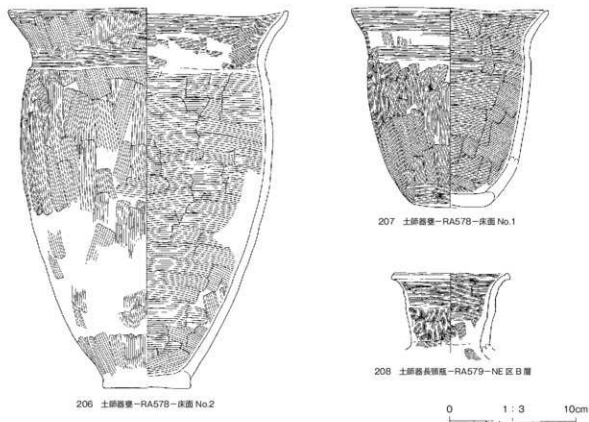
第 92 図 第 45 次調査 RD1077・1086・1089・1092・1094・1108、RG424・468・471 出土土器



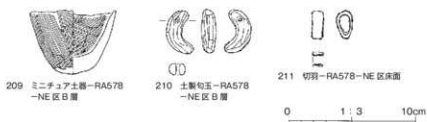
第 93 図 第 45 次調査出土製品・鉄製品



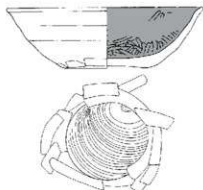
第94図 第46次調査 RA578 出土土器



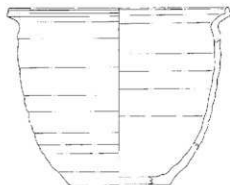
第 95 図 第 46 次調査 RA578・579 出土土器



第 96 図 第 46 次調査出土土製品・鉄製品



212 土師器杯—RA614—床面 No.1



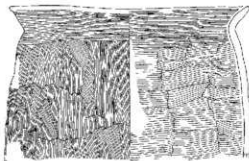
214 あかやき土器壺—RA614—SW区A層



213 土師器杯—RA614—NW区A層



215 須恵器杯—RA615—NW区B層



216 土師器壺—RA615—カマド付区B層



217 須恵器大壺—RA615—NW区A層



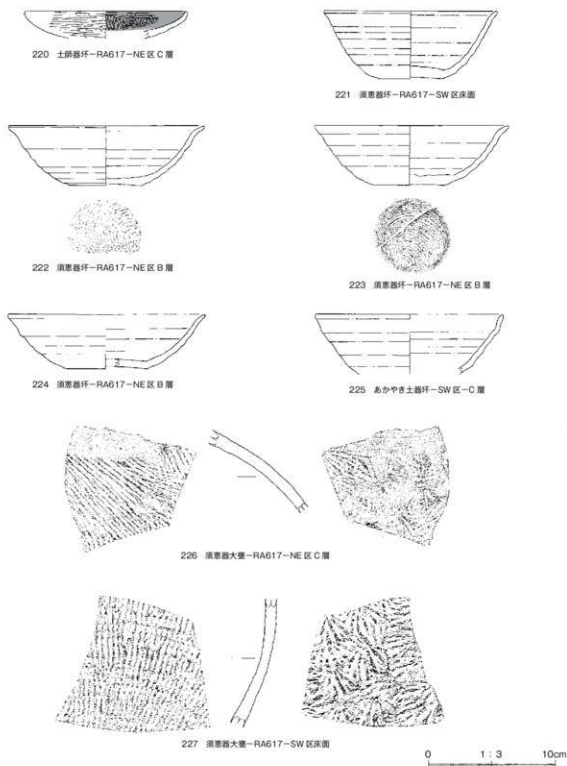
218 土師器杯—RA616—床面



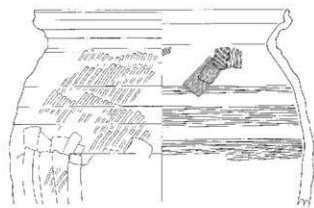
219 須恵器杯—
RA619—NW区B層

0 1:3 10cm

第97図 第57次調査 RA614・615・616・619 出土土器



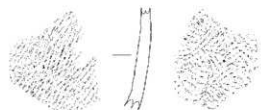
第98図 第57次調査RA617出土土器



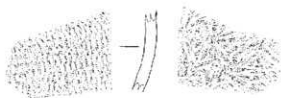
228 あかやき土器壁-RD2009-埋土



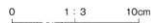
229 須恵器大甕-RD2006-C層



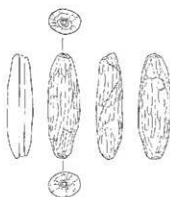
230 須恵器大甕-RD2006-C層



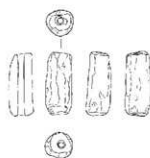
231 須恵器大甕-RD2008-A層



第99図 第57次調査RD2006・2008・2009出土土器



232 土器-RA615-NW区床面



233 土器-RA617-NE区L層



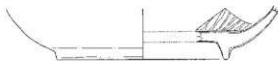
234 砥石-RD2006-B層



第100図 第57次調査出土土製品・石製品



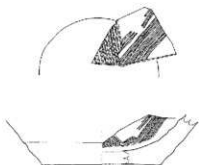
235 青磁碗-RG042-C層



236 青磁碗-RG042-C層



237 須惠器系陶器淺鉢-RG042-埋土



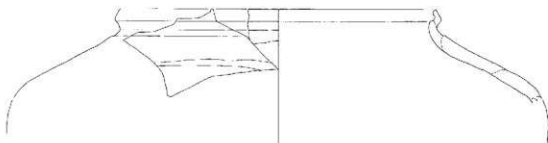
238 須惠器系陶器淺鉢-RG042-B層



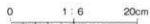
239 須惠器系陶器碗(壁)-RG042-D層



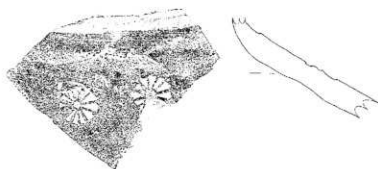
240 須惠器系陶器碗-RG042-D層-縁軸



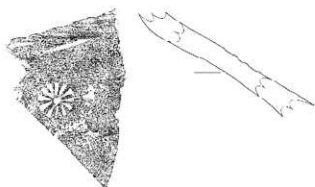
241 須惠器系陶器大鉢-RG042-B層



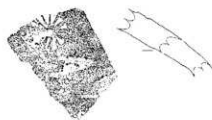
第101図 第39次調査出土陶磁器



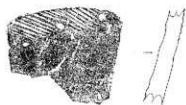
242 瓷器系陶器大甕-RG042-D 層



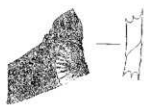
243 瓷器系陶器大甕-RG042-C 層



244 瓷器系陶器-RG042-C 層



245 瓷器系陶器甕-RG042-B 層



246 常滑甕-RG042-B 層



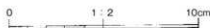
第 102 図 第 39 次調査出土陶器



247 天聖元寶—RD1088—A 面



248 大觀通寶—RD1088—B 面



第 103 圖 第 45 次調查出土古錢



249 開元通寶



250 祥符元寶



251 天聖元寶



252 景祐元寶?



253 聖宋通寶



254 熙寧元寶



255 熙寧元寶



256 元豐通寶?



257 元祐通寶



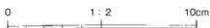
258 元祐通寶



259 元祐通寶



260 紹聖元寶



第 104 圖 第 46 次調查出土古錢



261 寬永通寶—RA615—揀取



262 天聖元寶—RB054 銅方 b—底面



263 祥符通寶?—揀出



264 寬永通寶—揀出



第 105 圖 第 57 次調查出土古錢

写 真 图 版

調査区北西部全景（南西から）



調査区南東部全景（西から）



RA523 竪穴住居跡（南東から）





調査区全景（北から）



調査区全景（垂直）

第3図版 台太郎遺跡第39次調査（1）

RA524 竪穴住居跡（東から）



RA525 竪穴住居跡（北西から）



RA525 竪穴住居跡カマド付近（西から）



第4 図版 台太郎遺跡第39次調査（2）

RA526 竪穴住居跡（北東から）



RA528 竪穴住居跡（西から）



RA528 竪穴住居跡遺物出土状況（西から）



第 5 図版 台太郎遺跡第 39 次調査 (3)

RA529 竪穴住居跡（西から）



RA529 竪穴住居跡遺物出土状況（南から）



RA530 竪穴住居跡（南東から）



RA534 竪穴住居跡（南東から）



RA534 竪穴住居跡遺物出土状況（南から）



RA535 竪穴住居跡（東から）



RG042E 堀跡 (東から)



RG042E 堀跡断面 (西から)



RG042W 堀跡断面 (南から)



第 8 図版 台太郎遺跡第 39 次調査 (6)

調査区全景（東から）



RA546 竪穴住居跡焼土・貯蔵穴
（北西から）



RG440 溝跡・RD983 土坑（南から）





調査区全景（南から）



調査区全景（垂直）

RA565 竪穴住居跡 (南から)



RA565a 竪穴住居跡カマド付近
(南東から)



RA565 竪穴住居跡床構築土内
遺物出土状況



第 11 図版 台太郎遺跡第 45 次調査 (1)

RA566 竪穴住居跡 (南東から)



RA567 竪穴住居跡 (東から)



RA568 竪穴住居跡 (東から)



RA569 竪穴住居跡（北から）



RA570 竪穴住居跡（南から）



RA571 竪穴住居跡（西から）



第 13 図版 台太郎遺跡第 45 次調査 (4)

RA572 竪穴住居跡 (南から)



RA573 竪穴住居跡 (南西から)



RA573 竪穴住居跡遺物出土状況 (南西から)



第 14 図版 台太郎遺跡第 45 次調査 (5)

RA574 竪穴住居跡 (南から)



RA575 竪穴住居跡 (南から)



RA576 竪穴住居跡 (南西から)



RE060 整穴状遺構（東から）



RB049 掘立柱建物跡（東から）



RB052 掘立柱建物跡（北から）



第 16 図版 台太郎遺跡第 45 次調査 (7)

RG042 堀跡 (南から)



RA042 堀跡断面 (北から)



RA424W 堀跡 (北から)





RG424W 堀跡断面（北から）



RG424E 堀跡（西から）



RG424E 堀跡断面（西から）

調査区全景（北西から）



RA578 竪穴住居跡（南東から）



RA579 竪穴住居跡（北西から）



調査区全景（南から）



RD2004 土坑（西から）



RD2004 土坑断面（南から）



調査区全景（南から）



調査区全景（北から）



第 21 図版 台太郎遺跡第 57 次調査 (1)

RA614 竪穴住居跡（北東から）



RA615 竪穴住居跡（南から）



RA617 竪穴住居跡（東から）



RA619 竪穴住居跡（西から）



RD2009 土坑（北西から）



RD2009 土坑袋状ビット



RB054 掘立柱建物跡（北から）



RB055 掘立柱建物跡（東から）





RA525 竪穴住居跡出土土器



RA528 竪穴住居跡出土土器

第 25 図版 台太郎遺跡第 39 次調査出土土器 (1)



RA534 壑穴住居跡出土土器



RA535 壑穴住居跡出土土器

第26 図版 台太郎遺跡第39次調査出土土器 (2)



005 土師器環 -RA525



006 土師器環 -RA525



007 土師器環 -RA525



008 土師器環 -RA525



011 須恵器環 -RA525



012 須恵器環 -RA525



017 土師器環 -RA528



018 土師器環 -RA528



021 須恵器環 -RA528



026 須恵器環 -RA535



027 須恵器環 -RA535



028 須恵器環 -RA535



041 土師器高台付環 -RD971



046 土師器環 -RA524



047 あかやき土器環 -RA526



049 土師器環 -RA526



014 土師器小形甕 -RA525



016 土師器甕 -RA525



022 土師器甕 -RA528



029 土師器甕 -RA535



035 土師器小形甕 -RA534



036 土師器甕 -RA534



037 土師器甕 -RA534



038 土師器甕 -RA534



039 土師器甕 -RA534



040 土師器甕 -RA534



050 土師器球胴甕 -RA529



025 須惠器大甕 -RA528



RG440 溝跡出土土器



067 土師器环-RG440



068 土師器环-RG440



069 土師器环-RG440



070 須恵器环-RG440



071 須恵器环-RG440



074 土師器环-RG441



RA565 竪穴住居跡出土土器



075 土師器环 -RA565



076 土師器环 -RA565



077 土師器环 -RA565



079 土師器环 -RA565



080 土師器环 -RA565



082 須恵器环 -RA565



083 須恵器环 -RA565



084 須恵器环 -RA565



085 須恵器环 -RA565

第 31 図版 台太郎遺跡第 45 次調査出土土器 (1)



087 あかやき土器環 -RA565



088 あかやき土器環 -RA565



089 あかやき土器環 -RA565



091 あかやき土器環 -RA565



092 あかやき土器環 -RA565



093 あかやき土器環 -RA565



095 あかやき土器環 -RA565



096 あかやき土器環 -RA565



097 あかやき土器環 -RA565



099 あかやき土器環 -RA565



100 あかやき土器環 -RA565



104 あかやき土器環 -RA565



106 あかやき土器環 -RA565



107 あかやき土器環 -RA565



108 あかやき土器環 -RA565



109 あかやき土器環 -RA565



110 あかやき土器環 -RA565



113 あかやき土器高台付環 -RA565



114 あかやき土器高台付環 -RA565



141 土師器環 -RA566



143 あかやき土器環 -RA566



152 土師器環 -RA569



154 須恵器環 -RA569



157 土師器環 -RA570



159 あかやき土器環 -RA570



162 土師器環 -RA572



168 あかやき土器環 -RA573



172 土師器環 -RD1089



173 あかやき土器環 -RD1077



174 須恵器環 -RD1086



118 あかやき土器甕 -RA565



120 あかやき土器甕 -RA565



122 あかやき土器甕 -RA565



123 あかやき土器甕 -RA565



150 土師器甕 -RA567



155 あかやき土器甕 -RA569



161 土師器甕 -RA571



169 土師器甕 -RA573



165 須恵器甕 -RA572



第 46 次調査 RA578 竪穴住居跡出土土器



195 土師器环 -RA578



197 土師器环 -RA578



198 土師器环 -RA578



199 土師器环 (皿) -RA578



200 土師器高台付环 -RA578



201 土師器高台付环 -RA578

第 35 図版 台太郎遺跡第 46 次調査出土土器 (1)



202 土師器小形壺 (朱彩) -RA578



203 土師器球胴壺 (朱彩) -RA578



204 土師器壺 -RA578



205 土師器壺 -RA578



206 土師器壺 -RA578



207 土師器壺 -RA578



212 土師器環-RA614



213 土師器環-RA614



215 須恵器環-RA615



218 土師器環-RA616



219 須恵器環-RA619



223 須恵器環-RA617



225 あかやき土器環-RA617



214 あかやき土器甕-RA614



216 土師器甕-RA615

075 刻書「体？」(土師器环),
第45次調査 RA565



081 墨書「山？」(土師器环),
第45次調査 RA565



164 墨書「志？」(須惠器环),
第45次調査 RA572



第38 図版 台太郎遺跡出土刻書土器・墨書土器



勾玉・紡錘車・フイゴ羽口・土鍾・ミニチュア土器・砥石



鉞・手鐮・刀子・釘・足金物

第 39 図版 台太郎遺跡出土土製品・石製品・鉄製品

第 39 次調査出土中世陶磁器



第 45 次調査出土中世陶磁器



第 45 次調査出土近世陶磁器



第 40 図版 台太郎遺跡出土陶磁器



第 45 次調査 RD1088 土坑出土古銭
(北宋銭)



第 46 次調査遺構外出土古銭
(唐銭・北宋銭)



第 57 次調査出土古銭
(北宋銭・寛永通宝)

第 41 図版 台太郎遺跡出土古銭

報 告 書 抄 録

ふりがな	せいなんちくいせきくんぱくつちょうさほうこくしょ4						
書名	盛南地区道路群発掘調査報告書Ⅳ						
副書名	盛岡南新都市開発整備事業関連道路平成13～18年度発掘調査① 台太郎遺跡						
編著者名	津嶋知弘						
編集機関	盛岡市道路の学び館（刊行：独立行政法人都市再生機構・盛岡市・盛岡市教育委員会）						
所在地	〒030-0866 岩手県盛岡市本宮字荒原13番地1 電話 019-635-6600						
発行年月日	2012年9月30日						
ふりがな	ふりがな	コード	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	(世界測地系)		(㎡)	
台太郎遺跡	いわてけんもりおかし 岩手県盛岡市 むかいなかの 向中野 だいたろうようかいちば 台太郎・八日市場ほか	03201	39° 40° 57°	141° 08' 25'	37次2001.5.28-6.22 38次2001.6.1-6.15 39次2001.8.1-11.2 42次2001.11.26-12.12 43次2001.11.26-12.12 43次補足2002.4.22 45次2002.5.7-8.9 46次2002.10.11-11.12 47次2002.11.6 48次2002.11.21-11.22 49次2002.12.24-12.25 56次2005.6.20-6.21 57次2005.6.6-8.5	872 309 1,302 123 112 42 1,618 334 184 306 49 50 1,047	土地区画整理 事業等
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
台太郎遺跡	集落						
第37次調査	古代	古代以降	竪穴住居跡1 土坑5,溝跡2	土師器			
第38次調査	なし						
第39次調査	古代	中世	竪穴住居跡12, 土坑10,溝跡18, 横土遺構1 竪立柱建物跡1,堀 跡2 溝跡1	土師器,須恵器,あかやき土器,土師, 鉄土遺構1 轉輪車,フジ羽口,鏡,刀子,釘,鉄鏝 中国青磁,須恵器系陶器,交器系陶器			
第42次調査	古代	近世以降	竪穴住居跡1,土坑2, 溝跡2	土師器,須恵器			
第43次調査	なし						
第43次補足調査	なし						
第45次調査	古代	古代以降	竪穴住居跡13, 竪穴状遺構4 土坑36,溝跡11 中世	土師器,須恵器,あかやき土器, 土師,足金物,手鎌,釘 北宋銭 中国青磁・白磁・交器系陶器			
第46次調査	古代	中世	竪穴住居跡2	土師器,ミニチュア土器,土製勾玉 切羽 磨銭,北宋銭			
第47次調査	なし				試掘確認調査		
第48次調査	古代		竪穴住居跡,土坑, 溝跡		試掘確認調査 (保存)		
第49次調査	なし				試掘確認調査		
第56次調査	古代		土坑1				
第57次調査	古代	近世	竪穴住居跡6,土坑1, 土坑5,溝跡5 竪立柱建物跡2, 土坑5,溝跡5	土師器,須恵器,あかやき土器,土師, 砥石 北宋銭,寛永通宝			
要約	盛南地区道路群は、平安時代初期の延暦22年（803）に朝廷が造営した古代城柵「志波城」の南東方に位置し、7世紀より続く一大勢力「志波エミシ」が10世紀まで拠点とした古代集落群が主に確認されている。台太郎遺跡は、古代の竪穴住居跡が約660棟を数え、盛南地区道路群で最大の集落である。本書掲載の調査では奈良・平安時代の竪穴住居跡35棟を精査し、多数の遺物が出土しており、主に道路中央部と西部の集落の様相を明らかにすることができた。また、不整五角形に繋がった中世の居居跡の西部を精査し、堀跡及び竪立柱建物を確認することができた。						

盛南地区遺跡群発掘調査報告Ⅳ

－盛岡南新都市開発整備事業関連遺跡平成13～18年度発掘調査①－
台太郎遺跡

平成24年9月30日

編集 盛岡市遺跡の学び館
〒020-0866 岩手県盛岡市本宮字荒屋13-1
電話 019-635-6600 ファクス 019-635-6605
URL <http://www.city.morioka.iwate.jp/moriokagaido/rekishi/manabikan/index.html>

発行 独立行政法人都市再生機構
盛岡市・盛岡市教育委員会

印刷 株式会社 光文社
〒020-0106 盛岡市東松園3-12-1

<表紙の色>

浅縹（あさはなだ）：奈良・平安時代の律令国家では、儀式において官人は位階に応じた色の袍（ほう：ロングジャケットのようなもの）を着用しました。浅縹は、初位の色でした（延喜式等）。

